

# 官報

號外 昭和十年三月十三日

## 第六十七回 衆議院議事速記録第二十六號

帝國議會

衆議院議事速記録

第二十六號

昭和十年三月十二日(火曜日)

午後一時三十二分開議

議事日程 第二十五號

昭和十年三月十二日

午後一時開議

質問

一 國體ニ關スル質問(山本悌二郎君提出)

二 米穀政策並砂糖關稅及同附加稅ニ關スル質問(伊禮肇君提出)

三 大演習時ノ御警衛ニ關スル質問(中山福蔵君提出)

四 朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問(風見章君提出)

五 外交國防及國策ニ關スル質問(烟桃作君提出)

第一 南朝鮮鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第二 年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第三 讀會ノ續(委員長報告)

第三 昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)

第四 臨時利得稅法案(政府提出)

第五 日本銀行納付金法中改正法律案(政府提出)

第六 家事調停法案(星島一郎君外四名提出)

第七 家事調停法案(中村三之丞君外二名提出)

第八 畜產組合法中改正法律案(高田耘平君外四名提出)

第九 公證人法中改正法律案(一松定吉君外八名提出)

第十 公證人法中改正法律案(野田文士法中改正法律案(宮澤清作君外一郎君提出))

第十一 昭和八年法律第五十三號辯護士法中改正法律案(宮澤清作君外一名提出)

第十二 昭和六年法律第四十號廢止法律案(重要產業ノ統制ニ關スル件)(森田福市君外一名提出)

第一 讀會ノ續(委員長報告)

第十四 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外三名提出)

第五 律案(野田文一郎君外五名提出)

第一 読會

第六 律案(野田文一郎君外五名提出)

第七 律案(野田文一郎君外五名提出)

第八 律案(野田文一郎君外五名提出)

第九 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十一 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十二 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十三 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十四 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十五 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十六 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十七 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十八 律案(野田文一郎君外五名提出)

第十九 律案(野田文一郎君外五名提出)

第二十 律案(野田文一郎君外五名提出)

第二十一 律案(野田文一郎君外五名提出)

第二十二 律案(野田文一郎君外五名提出)

第二十三 律案(野田文一郎君外五名提出)

第二十四 律案(野田文一郎君外五名提出)

第二十五 律案(野田文一郎君外五名提出)

第二十六 律案(野田文一郎君外五名提出)

米穀政策並砂糖關稅及同附加稅ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十年二月二十二日

提出者 伊禮 肇

米穀政策並砂糖關稅及同附加稅ニ關スル質問主意書

スル質問主意書

最近東京製糖協會ヲ中心トシテ糖價引下全国期成同盟會ヲ結成シ砂糖關稅並同附加稅ノ撤廢ヲ期シ各方面ニ陳情スル等猛運動中ナリト仄聞ス今ヤ世界ヲ舉テ關稅牆壁ヲ設ケテ各自國內ノ重要產業保護ニ努力シツツアル秋ニ際シ我カ國ノ砂糖關稅(同附加稅合算)ハ世界各國中最低位ニ在ルノミナラス從價關稅トノ均衡上從量稅品全部ニ對シテ設定セラレタル關稅附加稅ヲ特ニ砂糖ニ限り撤廢セラルヘキ理由全然ナシ況ヤ糖價ハ現在他ノ一般物價ニ比シテ寧ロ格安ニシテ決シテ高價ナラサルニ於テオヤ殊ニ沖繩縣ハ甘蔗ニ代ルヘキ經濟的適作物ナキ爲糖業ヲ以テ主要產業トシ今ヤ政府助成ノ下ニ甘蔗ノ品種改良、肥培管理ノ改善、製造技術ノ改良等著々改善發達ノ途上ニ在ルノミナラス大資本組織ニ依ル臺灣、南洋等ノ製糖業ト異リ農民多數ハ依然トシテ數百年來ノ原始的製糖法ノ域ヲ脫セサル結果現在ノ關稅並附加稅ノ下ニ於テモ尙原價割レノ損失ヲ蒙リ居ル狀態ニ在リ政府ハ他府縣農村ニ對シテハ米價ノ維持引上並蠶絲業ノ保護救濟等ニ巨額ノ國帑ヲ投シテ有

ラユル方策ヲ講シツツアルモ沖繩縣民ハ何等是等ノ恩恵ニ浴セサルノミナラス反テ外米ノ輸入禁止並米價釣上政策ノ爲食糧米ノ買入ニ高價ヲ支拂フノ餘儀ナキ状態ニ在リ而モ沖繩縣ハ鹿兒島ヲ去ル二百六十浬乃至五百五十二浬ノ洋上ニ散在スル六十有餘ノ島嶼ヨリ成リ他府縣トノ交通ハ勿論各島間ノ交通モ總テ船舶ノ便ヲ藉ラサルヘカラサル結果沖繩縣ノ生產經濟竝消費經濟ハ何レモ法外ナル高運賃ノ影響ヲ受ケ縣民ノ困窮言語ニ絶スルモノアリ上述ノ如キ状態ニ於テ沖繩縣唯一ノ換金農產物タル砂糖ニ對シ其ノ關稅竝同附加稅ヲ撤廢セラルルカ如キコトアラムカ米蠶絲ヲ主業トスル他府縣農民ノ保護厚キニ反シ糖業ヲ主トスル沖繩縣農民ハ國策上何等ノ恩恵ニ浴セサルノミナラス却テ産業經濟上多大ノ壓迫ヲ蒙ル結果ト爲ルコト火ヲ睹ルヨリ明ナリ依テ政府ハ右事情酌量ノ上糖價引下陳情ニ耳ヲ藉サス砂糖關稅竝同附加稅ノ撤廢ニ反對セラレムコトヲ要望ス政府ノ所見如何

更ニ以上述ヘタル通政府ノ米價維持引上ノ諸政策實施ニ依リ何等ノ恩恵ヲ蒙ラサルノミナラス却テ米價騰貴ニ依リテ生活上多大ノ壓迫ヲ蒙レル沖繩縣民ノ爲ニ農林當局ニ對シテハ政府貯藏米ノ廉價拂下竝ニ一定量ノ外米輸入ノ許可ヲ内務當局ニ對シテハ米穀對策諸法令實施ノ結果惡影響ヲ受ケタル沖繩縣ノ爲ニ適當ナル社會政策ヲ講シテ救濟シ以テ國家ノ公平ナ

右及質問候也

昭和十年三月十二日

内閣總理大臣 岡田 啓介

衆議院議員伊禮肇君提出米穀政策並砂糖關稅及同附加稅ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員伊禮肇君提出米穀政策並砂糖關稅及同附加稅ニ關スル質問ニ對ス

ル答辯書

(一) 内務省關稅事項ニ關スル答辯

沖繩縣ニ於ケル生活困窮者ノ一部ハ現ニ時局匡救事業ノ施行又ハ救護法ノ實施等ニ依リ相當救濟ヲ受ケツツアル所

ナルモ今後ニ於テモ必要ニ應シ之カ保護救濟ノ方途ヲ講スルノ要アリト思料ス尙本縣ノ振興ニ關シテハ曩ニ之カ計畫ヲ樹立シ且下銳意實行中ニ屬ス

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也  
昭和十年三月二日

提出者 風見 章

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問主意書

不祥事ナリト信ス政府ハ其ノ事情ヲ精查

(イ) 砂糖輸入稅率ノ引下ハ糖業ヲ以テ主

ル恩恵ニ浴セシメラレムコトヲ要望ス政府ノ所見如何

要アルモノト認ム  
(ロ) 沖繩縣ニ對スル米穀ノ供給ニ關シテハ從來同縣ノ特殊事情ニ鑑ミ政府所來レルガ今後ニ於テモ諸般ノ事情ヲ考慮シ適當ナル措置ヲ講セントス

右及答辯候也  
昭和十年三月十二日

大藏大臣 高橋 是清

内務大臣 後藤 文夫

農林大臣 山崎達之輔

シ之ニ對シ適切ナル措置ヲ講スルノ要アリト認ム果シテ政府ハ左記各項ニ關シ如何ナル所見ヲ有スルヤ其ノ對策ヲモ併セテ答辯アラムコトヲ望ム

第一項 朝鮮ニ於ケル司法官ノ待遇ハ内地ノ夫レニ比較シ菲薄ノ狀ニ在リ即チ判事ハ内地ト均シク身分ノ保障ヲ受クルモ檢事ハ身分ノ保障ナク且判檢事ヲ通シ其ノ官等俸給ニ付テ見ルモ内地ノ夫レニ比シ頗ル遜色アリ斯ノ如キハ優良ナル裁判官及檢察官ヲ得ル上ニ於テ支障大ナルノミナラス朝鮮司法部ノ威信ヲ重カラシムル所以ニ非スト思料セラル之ニ對スル政府ノ所見及對策如何

第二項 朝鮮ニ於ケル民事刑事ノ事件ハ逐年激増ノ趨勢ヲ示セルニ拘ラス之ニ伴フ施設ノ擴充ナク又必要ナル判檢事書記等ノ增員ナキ爲執務上著シク過重ナル負擔ヲ強フルノ現狀ナリ從テ當局者カ晝夜兼行ノ努力ヲ爲シツツアルニ拘ラスシテ司法事務ノ澁滯ヲ來シ或ハ其ノ取扱ノ粗漏杜撰トナレルノ實例ニ乏シカラスシテ司法權ノ公明ヲ疑ハルルカ

如キハ朝鮮統治ノ爲ニ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ之ニ對スル政府ノ所見如何

第三項 現在朝鮮ニ於テハ裁判所構成法施行セラレサルノ結果内地ノ大審院ト朝鮮ノ高等法院トハ全ク別箇ノ存在ニ屬シ民事及刑事案件ニ對スル判決ノ統

一ヲ缺キ民衆ヲシテ其ノ歸趣ニ迷ハシムルモノ尠シトセス同一國籍ヲ有スル

日本人カ帝國內ニ於ケル居住地域ヲ異ニスルニ由リ嚴正ナルヘキ司法權ノ發動ニ於テ斯ノ如キ差別的ノ處遇ヲ受クルカ如キハ不合理モ亦甚シト謂ハサルヘカラス政府ハ我カ國ノ司法制度ニ改正ヲ加ヘ此ノ不公平ヲ一掃スルノ意思ナキヤ

第四項 朝鮮ニ於ケル司法權ノ運用ヲ見ルニ検査當局カ往々被疑者ノ人格ヲ無視シ常軌ヲ逸脱シタル取調ヲ行ヒ所謂人權蹂躪ト認メラルヘキ事例ニ乏シカラス以下述フル所ノ昭和六年刑公第七一五號、同第七一六號所載詐欺背任商法違反被告事件ノ如キハ其ノ最顯著ナル一事例ナリ抑、本件ハ朝鮮ニ於ケル三大疑獄事件ノ一トシテ全鮮ノ耳目ヲ聳動セシメタルモノニ屬ス今其ノ内容ヲ要約スレハ京城辯護士李某カ戸矢某北垣某李其等ト通謀ノ上朝鮮産業株式會社ノ所有ニ屬スル土地百万坪ノ無償回収ノ手段トシテ計畫セラレタルモノニシテ屢々民事上ノ訴ヲ試ミタルニ拘ラス其ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシニ鑑ミ先ツ同會社ノ首腦部ヲ告訴シ官憲ノ力ヲ藉リ刑事上ノ有罪判決ヲ得テ之ヲ民事事案ニ援用シ既ニ再三敗訴セル民事判決ヲ覆ヘサムト企圖シタルモノナリ斯ノ如ク其ノ出發點ニ於テ既ニ不純ナル被告事件タリシ本件ニ於テハ其ノ搜索取

調中不法不當ノ取扱ヲ敢行シ人權蹂躪ト認メラルノ事實枚舉ニ追アラス其ノ重大ナル二ノ例ヲ摘出スレハ左ノ如シ

一 昭和六年三月十八日ノ領置調書

記載ノ物件即チ證第二九九號等ハ當時朝鮮産業株式會社ニ存在セシモノニ非ス何トナレハ若シ同社ニ存在セルモノナリシナラハ家宅搜

索ニ際シ斯ノ如キ犯罪事實ノ認定ニ關シ重要ナル資料ヲ押收セスシテ放置スル筈ナク又假ニ當時同會社内ニ存在シタルトスルモ被告人爲ニ不利益ナル證據方法ヲ被告

人側ヨリ任意提出シテ領置處分ヲ願フカ如キコトハ想像シ得サル所ナリ加之當時會社ノ首腦部タリシ堆浩、梁濟博等ハ西大門刑務所ニ拘禁セラレ該物件ヲ提出スルノ術ナカリシモノナルニ于テオヤ更ニ兩名ノ家族ハ勿論同會社ノ社員等ニ於テモ右證據物件ノ提出スルノ事

ナクシテ之ヲ信憑力アルモノトシ断罪ノ資料タラシメタルカ如キハ检察官タルノ職責ニ反スルハ勿論被疑者ノ權利利益ヲ尊重スヘシト

スル刑事訴訟法ノ精神ニ反スルモノナリ以上ノ事實ニ對スル當局ノ所見如何

三 凡ソ株式會社ノ設立無効ハ株主又ハ取締役若ハ監査役カ訴ヲ以テノミ之ヲ主張シ得ルモノナルコトハ商法ノ明示スル所ナリ然ルニ本件ノ豫察判事ハ其ノ決定書ニ於テ會社ノ設立ハ無効ナリト斷セラレタルノミナラス朝鮮司法官ノ威信タリスノ如キハ法ノ解釋適用ノ任

レ責任者ノ氏名ハ全然記載ナシ斯ノ如キハ無辜ヲ罪セムカ爲檢察當

局カ故意ニ斷罪ノ資料ヲ作成シタルモノト謂ハサルヘカラス以上ノ

事實ニ對スル當局ノ所見如何

四 勾留中ノ被告人ニ對シ保釋ノ申請アリタル場合ニ於テハ豫審終結決定前ト雖被告人逃亡ノ虞アルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ等ノ如キ場合ヲ除クノ外ハ努メテ之ヲ許可スヘキモノナルコト刑事訴訟法ノ原則ナリ然ルニ本件ハ昭和五年十一月二十五日起訴セラレ昭和六年六月十三日豫審終結決定シタルニ拘ラス被告人邊竹次ニ對シテハ同年八月三十一日ニ至ル迄、

被告人堆浩、梁濟博ニ對シテハ同十二月一日ニ至ル迄保釋ヲ許サス

引續キ拘禁シタル事實アリスノ如キハ不法ニ人民ノ自由ヲ蹂躪セルモノト謂ハサルヲ得ス以上ノ事實ニ對スル當局ノ所見如何

五 刑事訴訟法第五十六條ニ依レハ調書ハ書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘキモノナリ然ルニ本件ニ於テハ豫審判事ハ此ノ規定ヲ無視シ供述者ヲシテ白紙ニ署名セシメ一度モ被告人等ニ讀聞カスコトナク志ニ訊問調書ヲ成シタリ而シテ斯ノ如キ事實ハ本件ノミニ止マラス他ノ刑事案件ニ於テモ慣行セラル所ナリ以上ノ事實ニ對スル當局ノ所見如何

二 戶矢某ノ寺田檢事宛提出セル陳事實ニ對スル當局ノ所見如何

對スル當局ノ所見如何

右及質問候也

昭和十年三月十二日

内閣總理大臣 岡田 啓介

衆議院議長濱田國松殿

衆議院議員風見章君提出朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書

差進候

〔別紙〕

衆議院議員風見章君提出朝鮮ニ於ケル司法權振肅ニ關スル質問ニ對スル答辯書

裁判所令ニ依リ規定ス、今直ニ裁判所

構成法ヲ朝鮮ニ施行スルノ意思ナシ  
實アリヤ否ヤニ付テハ目下詳細調査中  
ニ付追テ答辯ス第四項 朝鮮ノ検察當局ニ人權蹂躪ノ事  
右及答辯候也

昭和十年三月十一日

拓務大臣 伯爵兒玉 秀雄

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲  
茲ニ掲載ス〕

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

臨時所得稅法案(政府提出)ニ對スル修正

案 提出者

田中祐四郎君 川橋豐治郎君

中村三之丞君 福田 虎龜君

愛國郵便切手發行ニ關スル建議案 提出者

内ヶ崎作三郎君 牧山 耕藏君

村松 久義君 手代木隆吉君

磐梯山ヲ中心トスル國立公園指定ニ關スル建議案 提出者

岸 衛君 伊禮 聰君

野田文一郎君 小山 谷藏君

高橋壽太郎君 中村 繼男君

(以上三月十一日提出)

國有林野所在市町村助成金ノ増額交付方  
法ノ改善並同府縣ヘノ範圍擴張ニ關スル建議案 提出者

野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案 提出者

林 平馬君

紀勢東線始發驛變更ニ關スル建議案 提出者

後藤 倘君 伊坂秀五郎君

堀川 美哉君

西都城驛宮崎驛間省營自動車運輸開始ニ  
關スル建議案 提出者

水久保甚作君

關東州及滿洲產苹果移輸入ニ關スル建議案 提出者

伊豆大島ニ中央氣象臺附屬測候所設置ニ  
關スル建議案 提出者

三上 英雄君 牧野 賤男君

河上 哲太君 山下 谷次君

帝國圖書館完成ニ關スル建議案 提出者

能代船川間鐵道敷設ニ關スル建議案 提出者

鈴木 安孝君

函館市ニ海洋氣象臺設置ニ關スル建議案 提出者 大島 審吉君 小池 仁郎君 京都市内貫通國有鐵道高架改築ニ關スル建議案 提出者 坂東幸太郎君 手代木隆吉君 横山 泰造君 田中 武雄君 原 惣兵衛君 岡田 忠彦君 難波 清人君 久山 知之君 大山斐蹉麿君 清瀬 一郎君 京都府由良川筋省營自動車運輸開始ニ關スル建議案 提出者

青木川改修ニ關スル建議案 提出者 加藤 錠一君 西大寺那波間海岸鐵道敷設ニ關スル建議案 提出者

|   |   |  |   |   |   |
|---|---|--|---|---|---|
| 能代郊外東雲原ニ航空隊設置ニ關スル建議案  | 提出者 杉本國太郎君 鈴木 安孝君<br>地方法團體ノ名譽職待遇ニ關スル建議案   | 提出者 川島正次郎君 野方 次郎君<br>小高長三郎君<br>(以上三月九日提出)  | 提出者 平島 敏夫君 松尾 孝之君<br>前橋宇都宮水戸間縣道國道編入ニ關スル建議案  | 提出者 東北地方馬産振作ニ關スル建議案   | 提出者 勝浦川改修ニ關スル建議案  |
| 官報號外  | 昭和十年三月十三日 衆議院議事速記録第二十六號 議長ノ報告   | 提出者 川島正次郎君 野方 次郎君<br>小高長三郎君<br>(以上三月九日提出)  | 提出者 平島 敏夫君 松尾 孝之君<br>前橋宇都宮水戸間縣道國道編入ニ關スル建議案  | 提出者 東北地方馬産振作ニ關スル建議案   | 提出者 勝浦川改修ニ關スル建議案  |
| 提出者 松村 光三君 船田 中君<br>坪山 德彌君 山崎 猛君<br>提出者 北田 銀吉君<br>須崎櫛原間省營自動車運輸開始ニ關スル建議案 | 提出者 中島知久平君 上野 基三君<br>松村 光三君 船田 中君<br>坪山 德彌君 山崎 猛君<br>提出者 北田 銀吉君<br>須崎櫛原間省營自動車運輸開始ニ關スル建議案    | 提出者 中島知久平君 上野 基三君<br>松村 光三君 船田 中君<br>坪山 德彌君 山崎 猛君<br>提出者 北田 銀吉君<br>須崎櫛原間省營自動車運輸開始ニ關スル建議案 | 提出者 中島知久平君 上野 基三君<br>松村 光三君 船田 中君<br>坪山 德彌君 山崎 猛君<br>提出者 北田 銀吉君<br>須崎櫛原間省營自動車運輸開始ニ關スル建議案    | 提出者 菅野善右衛門君 壽原英太郎君<br>警察官國有鐵道無賃乘車並半額券交付復活ニ關スル建議案  | 提出者 菅野善右衛門君 壽原英太郎君<br>警察官國有鐵道無賃乘車並半額券交付復活ニ關スル建議案  |
| 提出者 依光 好秋君 林 讓治君<br>豐國神社昇格ニ關スル建議案                                       | 提出者 土倉 宗明君 島田七郎右衛門君<br>牧野 良三君<br>提出者 加藤錄五郎君 田中 善立君<br>瀬川 嘉助君 小山 松壽君<br>佐世保市ニ專賣局鹽倉庫設置ニ關スル建議案 | 提出者 依光 好秋君 林 让治君<br>豐國神社昇格ニ關スル建議案  | 提出者 土倉 宗明君 島田七郎右衛門君<br>牧野 良三君<br>提出者 加藤錄五郎君 田中 善立君<br>瀬川 嘉助君 小山 松壽君<br>佐世保市ニ專賣局鹽倉庫設置ニ關スル建議案 | 提出者 丹下茂十郎君 小林 鑄君<br>平井信四郎君<br>伊豆七島ニ府縣制並町村制施行ニ關スル建議案   | 提出者 丹下茂十郎君 小林 鑄君<br>平井信四郎君<br>伊豆七島ニ府縣制並町村制施行ニ關スル建議案   |
| 提出者 佐保 留雄君<br>國立織物研究所設立ニ關スル建議案  | 提出者 元屯田兵優遇ニ關スル建議案<br>提出者 林 路一君<br>鐵道踏切設備改善ニ關スル建議案   | 提出者 佐保 留雄君<br>國立織物研究所設立ニ關スル建議案   | 提出者 元屯田兵優遇ニ關スル建議案<br>提出者 林 路一君<br>鐵道踏切設備改善ニ關スル建議案   | 提出者 三上 英雄君 牧野 賤男君<br>佐藤庄太郎君 川島正次郎君<br>高橋熊次郎君<br>提出者 坂東幸太郎君 大島 實吉君<br>手代木隆吉君 山本 厚三君<br>板野 友造君 向井 倭雄君<br>提出者 佐保 留雄君<br>國立織物研究所設立ニ關スル建議案 | 提出者 三上 英雄君 牧野 賤男君<br>佐藤庄太郎君 川島正次郎君<br>高橋熊次郎君<br>提出者 坂東幸太郎君 大島 實吉君<br>手代木隆吉君 山本 厚三君<br>板野 友造君 向井 倭雄君<br>提出者 佐保 留雄君<br>國立織物研究所設立ニ關スル建議案 |

|                     |                     |                      |         |
|---------------------|---------------------|----------------------|---------|
| 森田 政義君              | 中野 寅吉君              | 戸田 由美君               | 中村 繼男君  |
| 熊谷五右衛門君             | 名川 健市君              | 小林 錦君                | 鷲澤與四二君  |
| 三井 德寶君              | 宮本雄一郎君              | 松谷與二郎君               | 野中 徹也君  |
| 松村 光三君              | 岩本 武助君              | 林 路一君                | 森 峰一君   |
| 竹下 文隆君              | 瀬川 嘉助君              | 永田 良吉君               | 高峰 譲一郎君 |
| 永田 良吉君              | 山本莊一郎君              | 本田 義成君               | 瀬川 嘉助君  |
| 本田 義成君              | 坂本 一角君              | 久山 知之君               | 戸田 由美君  |
| 久山 知之君              | 土倉 宗明君              | 中井 一夫君               | 中野 寅吉君  |
| 中井 一夫君              | 菅野善右衛門君             | 小高長三郎君               | 中村 繼男君  |
| 小高長三郎君              | 中野種一郎君              | 野方 次郎君               | 鷲澤與四二君  |
| 野方 次郎君              | 藤生安太郎君              | 大石 倫治君               | 野中 徹也君  |
| 深澤豊太郎君              | 世耕 弘一君              | 青木雷三郎君               | 森田 政義君  |
| 高橋金治郎君              | 吉田 瞬明君              | 立川 平君                | 鷲澤與四二君  |
| 松木 弘君               | 佐々木家壽治君             | 内ヶ崎作三郎君              | 高峰 譲一郎君 |
| 近藤壽市郎君              | 大野 伴睦君              | 齋藤 直橘君               | 戸田 由美君  |
| 佐保 畢雄君              | 蔭山 貞吉君              | 古川 一關間鐵道敷設ニ關スル建議案    | 鷲澤與四二君  |
| 水久保甚作君              | 坪山 德彌君              | 提出者                  | 高峰 譲一郎君 |
| 仙波 久良君              | 田尻藤四郎君              | 長崎ステーションホテル建設ニ關スル建議案 | 戸田 由美君  |
| 綾部健太郎君              | 則井萬壽雄君              | 提出者                  | 高峰 譲一郎君 |
| 青田 勝晴君              | 國枝捨次郎君              | 西岡竹次郎君               | 高峰 譲一郎君 |
| 山本 市英君              | 勝又 春一君              | 佐保 畢雄君               | 高峰 譲一郎君 |
| 安藤 正純君              | 加藤久米四郎君             | 提出者                  | 高峰 譲一郎君 |
| 高田 耘平君              | 荒川 五郎君              | 西岡竹次郎君               | 高峰 譲一郎君 |
| 西村丹治郎君              | 前田房之助君              | 佐保 �毕雄君              | 高峰 譲一郎君 |
| 吉川吉郎兵衛君             | 平川松太郎君              | 提出者                  | 高峰 譲一郎君 |
| 一松 定吉君              | 濱野徹太郎君              | 池田 敬八君               | 高峰 譲一郎君 |
| 眞鍋 儀十君              | 川橋豊治郎君              | 斯波 貞吉君               | 高峰 譲一郎君 |
| 福田闘次郎君              | 本田彌市郎君              | 土屋清三郎君               | 高峰 譲一郎君 |
| 青木 亮貫君              | 林 平馬君               | 増田 義一君               | 高峰 譲一郎君 |
| (以上三月十一日提出)         |                     |                      |         |
| 提出者                 |                     |                      |         |
| 西岡竹次郎君              | 佐保 當雄君              |                      |         |
| 上海長崎間航路改善ニ關スル建議案    |                     |                      |         |
| 提出者                 |                     |                      |         |
| 西岡竹次郎君              | 佐保 畠雄君              |                      |         |
| 名ノ文字地名ノ書方ノ改善ニ關スル建議案 |                     |                      |         |
| 提出者                 |                     |                      |         |
| 西岡竹次郎君              | 佐保 畠雄君              |                      |         |
| 電信文鐵道驛名札國定教科書ノカナ遣氏  |                     |                      |         |
| 第六十七回帝國議會内務省所管事務政府  |                     |                      |         |
| 委員被仰付               |                     |                      |         |
| 第五部選出豫算委員           | 江藤源九郎君              |                      |         |
| 第八部選出豫算委員           | 西岡竹次郎君              |                      |         |
| 辭任申田 正輔君            | 補闕栗原彦三郎君            |                      |         |
| 一去九日辭任シタル常任委員左ノ如シ   | 一去九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ |                      |         |
| 倉庫業法案(政府提出)委員       |                     |                      |         |

|  |   |                                 |
|--|---|---------------------------------|
| 米穀自治管理法案(政府提出)外二件委員<br>辭任中島彌團次君 準備真鍋 儀十君<br>營業収益稅法中改正法律案(中谷貞頼君<br>外二名提出)委員 | 昭和八年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ<br>一昨十一日衆議院規則第十五條但書ニ依リ<br>議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ) | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 辭任宮崎 一君 準備大山斐瑳麿君<br>兵庫縣第四區選出議員   | 四三〇 兵庫縣第四區選出議員<br>岩手縣第二區選出議員                                  | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 一昨十一日補闕當選セラレタル左記議員ノ<br>議席ヲ議長ニ於テ左ノ通指定セリ                                     | 四三七 兵庫縣第四區選出議員<br>岩手縣第二區選出議員                                  | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 一昨十一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如<br>シ   | 理事小笠原三九郎君(理事小林鑄君去<br>八日委員辭任ニ付其ノ補闕)                            | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 一昨十一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如<br>シ   | 理事田尻 生五君(理事竹下文隆君昨<br>十一日委員辭任ニ付其ノ補闕)                           | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 一昨十一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如<br>シ   | 右成規ニ據リ提出候也  | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 一昨十一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如<br>シ   | 昭和十年三月十一日<br>提出者 山本悌二郎君<br>國體ニ關スル質問主意書                        | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 第五部選出 豊原小池 四郎君(江藤源九郎<br>君補闕)   | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 第八部選出 豊原小池 四郎君(江藤源九郎<br>君補闕)   | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 豫算委員 原口初太郎君(西岡竹次郎<br>君補闕)  | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 第八部選出 豊原小池 四郎君(江藤源九郎<br>君補闕)   | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 豫算委員 原口初太郎君(西岡竹次郎<br>君補闕)  | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 肥料業統制法案(政府提出)委員<br>辭任深水 清君 準備高橋壽太郎君<br>營業収益稅法中改正法律案(中谷貞頼君<br>外二名提出)委員      | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 一昨十一日委員長及理事五選ノ結果左ノ如<br>シ   | 〔内務大臣ハドウシタト呼フ者アリ〕   | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 肥料業統制法案(政府提出)委員<br>辭任竹下 文隆君 準備小林 紗治君<br>借地借家調停法中改正法律案(藤田若水<br>君外四名提出)外六件委員 | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |
| 委員長 加藤鎧五郎君<br>理事 中野 審吉君 石川 又八君<br>仁田大八郎君 多田 滿長君<br>眞鍋 勝君 野中 徹也君<br>(拍手起立)  | ○議長(濱田國松君) 第二百三十四番、山<br>口縣第二區選出議員國光五郎君<br>(拍手起立)              | 寺田 市正君<br>三尾 邦三君 高橋 泰雄君<br>清 寛君 |

政黨モ、學者モ、民衆モ、此問題ニ關スル限リハ、總テノ利害感情ヲ離レテ、打ッテ一團トナツテ解決シナケレバナラヌ案件ト確信スルノデアリマス。

私共ニ於キマシテハ、此機關說ヲ唱フル所ノ美濃部君トカ、或ハ其支持者トカ云フ、其人ニ關スル事柄ノ如キハ、勿論問題デハナイノデアリマシテ、天皇機關說ト云フ學說其モノガ問題デアルノデアリマス、此意味ニ於テ質問ヲ致スノデアリマスル、ソレニハ先づ吾々國民ノ意識スル否、確信スル、一人モ異存ノナイ、渾然一致セル所ノ、此吾等ノ國體觀念ト云フモノヲ規準ト致シマシテ、天皇機關論ナルモノハ、ドンナモノデアルカト云フコトヲ、此規準ニ照シテ批判スルノ必要ヲ認メルノデアリマスル、帝國臣民ガ天皇ノ御位置、及天皇ト吾々臣民トノ關係ニ付テ、信條的ニ確信スル所ハ、極メテ簡單明瞭デアルノデアリマスル、即チ天皇ヘ統治ノ大權ヲ皇祖皇宗ヨリ繼承セラレマシテ、萬世一系帝國ニ君臨シ給フ所ノ主權者デアラセラレルノデアリマスル、是ガ即チ吾々ノ信ズル所ノ天皇觀、國體觀デアリマスル、天皇ヘ故ニ萬代不易ノ統治主權者デアリマス、而シテ吾吾臣民ハ過去ニ於ケルト同ジク、將來萬世ニ涉リテ、子々孫々天皇統治ノ下ニ國家生活ヲ繼續スルモノデアリマスル、隨テ天皇ハ國家ノ主體デアラセラレ、吾々臣民ハ國家ノ客體デアッテ、此主客兩體ハ堅ク相結ン

デ、分離スベカラザル關係ニ置カレテ居ルノデアリマスル、即チ我ガ日本ノ國家ハ、此主客兩體ノ絕對的不分不離ノ結合ニ依テ存在スルモノデアリマシテ、天皇ト申スデハナインデアリマシテ、天皇機關說ト云フ謂フ所ノ天皇即國家トハ、即チ之ヲ意味スルノデアリマスル、恰モ彼ノ晃タル天上ノ太陽ヲ中心トシテ、月ヤ地球等ノ群星ガ之ヲ繞ツテ、爰ニ太陽系ト云フ一大天文系ヲ構成シツ、アルト同ジコトデアリマスル、故ニ太陽ノ滅失スル時ハ、即チ太陽系ノ崩壊スル時デアルノデアリマスル、故ニ太陽ガ此天文系ノ主體デアルト同時ニ、此主體申セバ、太陽即チ太陽系ト申シテモ、何ノ差支ガナインデアリマスル、斯ノ如キ關係ヨリ致シマシテ、天皇ノ意思ハ國家ノ意思ト一致スルノデアリマシテ、天皇ト國家ハ不分不離、不二一體、以テ國運ノ隆昌ニ力ムル所ニ、我が國體ノ精華ヲ見ルノデアリマス(拍手)

之ヲ又歴史上ヨリ見マシテモ、我國ハ天皇アッテノ國家デアルト云フコトハ、極メテ明瞭デアリマス、遠キ建國ノ初メニ遡ツテ、歷史上ノ事實ヲ見マスルニ、初メニ國家アッテ、後カラ天皇ヲ戴イタノデハナクシテ、其反對ニ皇祖皇帝ガ國ヲ肇メ給ウテ、茲ニ始メテ國家ガ出來タノデアリ、外國ノ歴史ニ

見ルガ如キ、初メ一定ノ領土ヲ占有スル民族ガアッテ、或ハ合意ノ契約、或ハ力ノ鬭争ニ依テ、爰ニ君主ナルモノガ出來タノトハ全ク相違致シマシテ、我國ニ於キマシテハ、領主ハ初メヨリ皇祖皇帝ノ領土デアリ、民族ハ、皇祖皇帝ヨリ血緣的ニ分派セル、吾々大和民族ノ祖先デアッタノデアリマシテ、之ニ皇祖皇帝ガ天皇トシテ自ラ君臨遊バサレタノデアリマス、隨テ領土モ人民モ、皆ノ天皇之ヲ統治ス」ト、斯様ニ規定セラレテ、爾來天皇ヲ家長ト致シマシテ、主權者ト致シマシタル、此一大家族的國家が擴大發展シテ今日ヲ致シタノデアリマスルカラ、此歷史的事實ヨリ見マシテモ、國家ト天皇トハ、初ヨリ一體不可分ノモノタルヤ、極メテ明瞭デアルノデアリマス(拍手)

今上陛下御即位ニ際シマシテ渙發セラレマシタル勅語中ニ「皇祖皇帝國ヲ建テ民ニ臨ムヤ國ヲ以テ家ト爲シ民ヲ祝ルコト子ノ如シ」ト仰セラレマシタ、又「上下感孚シ君民體ヲ一ニス是レ我ガ國體ノ精華ニシテ當ニ天地ト竝ヒ存スヘキ所ナリ」ト仰セラレマシタコトモ、等シク皆我ガ國體ニアリマシテハ天皇ト國家ガ一體デアッテ、分離スベカラザル絕對關係ニアルト同時ニ、天皇ハ此國家ノ主長デアラセラレテ、此民族ノ永久ノ族長デアラセラレル御越旨ヲ御示シ遊バサレタモノト拜スルノデアリマス、此國民信念ト、此歷史ノ沿革ヨリ見マシテ、我ガ日本帝國ト云フ國家ノ主體ハ天皇デアラセラレ、統治ノ主權ハ天皇ニアルト云フコト

家ノ権利ヲ行フ所ノ機關ニ過ギナインデア  
ルト云フコトデアリマス、即チ其説明中ニ、  
國家一切ノ権利ヲ總攬シ給フトカ、國家一  
切ノ活動ハ總テ天皇ニ其最高ノ源ヲ發スル  
トカ、形容詞ラシイ文句ヲ附加ヘテ説明サレ  
テハ居リマスケレドモ、究極スル所、統治  
ノ權利ハ何處々マデモ國家ニ固有ノモノ  
デアッテ、天皇ニ固有ノモノデハナイ、天皇  
ハ國家ガ有スル所ノ統治權ヲ行フニ過ギナ  
イ、即チ天皇ハ機關デアルト云フコトニ歸  
著スルノデアリマス、次ニ又斯様ニ論斷シテ居  
リマス、國家ヲ法人ト觀念シテ、天皇ハ此法人  
ノ元首タル地位ニ在シマシテ、國家一切ノ權  
利ヲ行ハセラレル、因テ天皇ガ憲法ニ從ウテ  
行ハセラレル、因テ天皇ガ憲法ニ從ウテ  
デアル、此意味ニ於テ天皇ハ國家ノ機關ナ  
リト言フノデアル、斯様ニ美濃部君ハ説イ  
テ居ルノデアリマス、美濃部君其他ノ天皇  
機關論者ノ著書ヤ出版物ハ色々アリマスル  
思フノデアリマス、此學説ノ是非ヲ判断スル  
吾々ノ國體觀、吾々ノ天皇觀ト對照致シテ  
檢討致シマスルト、機關說ハ既ニ其立論ノ  
根基ニ於テ、全然我ガ國體ト相容レザルモ  
ノデアルコトヲ發見スルノデアリマス、即  
チ機關說ハ天皇ト國家ヲ別々ノモノト見テ  
居ルノデアリマス、天皇ヲ御一身ノ天皇ト

見テ、國家ト對立セシムルノデアリマス、  
斯ク別々ニ見レバコソ、茲ニ統治權ハ天皇  
御一身ノ爲ニ行ハセラレルノデナクシテ、  
國家ノ爲ニ行ハセラレルノデアルカラ、即  
チ統治權ノ主體ハ統治ノ目的ノ歸屬スル所  
ノ國家ニアルノデアッテ、天皇ニハナイ、天  
皇ハ唯其機關タル地位ニ在ラセラレルモノ  
デアルト云フ、結論ニ到著セザルヲ得ナイ  
ノデアリマス、而シテ國家ヲ法人トシ、天  
皇ハ此法人ヲ代表シテ統治權ヲ行ハセラ  
ル、機關デアルト云フコトモ、亦此天皇ト  
國家ヲ別々ニ見ル所ニ根據ヲ有スルノデア  
リマス、是ガ抑、重大ナル錯誤、錯覺デアル  
ノデアリマス、此區別觀念ハ全ク我國體  
ノ現實ト合致セザルモノデアリマス、否、  
我ガ國體ヲ無視スルモノデアリマス、前ニ  
モ申シマシタル通り、我國ニ在リテハ三千  
年來今ニ至ルマデ、而シテ將來永遠ニ瓦  
リ、天皇ト國家ハ不二一體デアルノデアリ  
マス、天皇ナキ日本國家ハ斷ジテ考へ得ラ  
レニアノデアリマス、天皇ナケレバ我ガ國家  
ハナイノデアリマス、天皇即國家、國家即  
天皇ト申シマスルノハ、即チ是ニアリマ  
ス、天皇ハ國家ノ權化デアリマス、國家ナ  
ルモノハ素ヨリ抽象的無形ノ觀念デアリマ  
スルガ、之ヲ實在化シテ見マスレバ、即チ  
天皇トナルノデアリマス、隨テ統治權ノ主體  
ノ行爲タル效力ヲ生ズル」試ニ此一節ノ文  
章ヲ其儘ニシテ、唯天皇ト云フ文字ノ代リ  
ニ社長ト云フ文字ヲ使ヒ、國家ト云フ文字  
ノ代リニ會社ト云フ文字ヲ當嵌メ、憲法ト  
云フ文字ノ代リニ定款ト云フ名詞ヲ置イテ  
見タナラバ、斯ウナルノデス「社長ハ此法  
マシテ、機關說ハ外國ヨリ輸入セル學説デ  
アッテ、我國ニ當嵌ラナイト云フコトモ、即

チ是ガ爲デアルノデアル、外國ノ君主國ニ  
於キマシテハ、觀念上ヨリスルモ、血緣上  
ヨリスルモ、亦歴史上ヨリ見ルモ、君主ト  
國家ト云フモノハ全ク別々デアリマスルカ  
ラ、彼等即チ西洋諸國ニ於キマシテハ、主  
權ノ所在ガ何處デアル、主權ガ何處ニアル  
ト云フ、其主權ノ所在ヲ説明スルノニ、機  
關說ガ最モ適當ナノデアリマスガ、併ナガ  
ラ之ヲ君國一體ノ我國ニ持ツテ來テ、我國ノ  
憲法ヲ説明シヨウツルカ、學説トシテ  
モ木ニ竹ヲ接イダヤウナ議論ニナルバカリ  
デアッテ、而モ國體觀念ヲ惑亂シ、危險思想  
ヲ養成スルガ如キ、重大ナル結果ヲ來スノ  
デアリマス、如何ニ斯様ナ説ガ危險デアル  
カヲ示ス爲ニ、美濃部君ガ貴族院ニ於テ演  
說セラレタ國家法人説ヲ、モウ一過此處ニ  
讀上ゲルコトニ致シマス、美濃部君ハ貴族  
院ニ於テ斯様ニ申サレテ居ル、是ハ私ハ速  
記録カラ取入レタノデアリマス「即チ法律  
學上ノ言葉ヲ以テ申セバ、一つノ法人ト觀  
念イタシマシテ、天皇ハ此法人タル國家ノ  
元首タル地位ニ在マシ、國家ヲ代表シテ國  
機關ト補助機關ト云フモノニ區別致シマシ  
テ、天皇、攝政、各省大臣、總督、知事ハ  
獨任機關デアリ、同時ニ主タル機關デアル  
ト、此中ニ説イテアルノデアリマス、即チ  
畏クモ天皇ヲ大臣、總督、果テハ知事等ト  
同列ニ、國ノ機關ノ位置トシテ數ヘテ居ル  
ノデアリマス、如何ニ法理上ノ推論ニ過ギ  
ナイト申シナガラ、コマデ行ツテハ天皇機  
關論ナルモノモ、言語道斷ト言ハナケレバ  
ナラヌノデアリマス（拍手）殊ニソレガマダ  
十分皇化ニ浴セザル新附ノ民ノ眞ン中デ、  
代用教科書トシテ用ヒラル、ニ至ツテハ、其  
國民ノ心理ニ影響スル所、實ニ恐ルベキモ  
ノガアルト信ズルノデアル（拍手）是ト申ス  
モ機關論者ハ、我ガ萬國無比ノ國體ト、三千

年來天皇ノ固有セラレル絶對崇高ナル御地位ニ付テ、何等ノ理會ナク天皇ヲ以テ畏クモ外國ノ君主、即チ革命前ノ露西亞ノ「ザー」ヤ、獨逸ノ「カイゼル」ヤ、或ハ清國ノ皇帝ナドト同一視スルヤウナ議論ヲ致シマスルガ爲ニ、勢ヒ途方モナイス様ナ結論ニ到著シ、斯様ナモノヲ產出スノデアリマス、帷幄ノ大權ヲ干犯スルヤウナ憲法論モ、詔勅ヲ批判スルモ勝手ダト云フヤウナ、不謹慎ナル暴論モ、皆此誤レル根本觀念カラ出發シテ來ルノデアリマス、殊ニ「日本國法學」ト云フ美濃部君ノ著述ニ於キマシテ、軍人ハ國家ノ爲ニ戰フノデアリテ、天皇ノ爲ニ戰フノデハナイト、斯様ニ說イテ憚ラザルニ至ツテハ、軍人ニ下シ給ヘル明治大帝ノ御勅諭ニモ、將又之ニ基イテ教養ヲ重ネテ來ッタ軍人精神モ、全然破壊シ盡サレル譯アリマセヌカ(拍手)其我ガ海陸軍ニ及ボス所ノ影響ニ想ヒ到リマシテハ、實ニ膚ニ栗ラ生ズルノ感ジラ致スノデアリマス(拍手)是レ皆我ガ國體ヲ知ラザル機關論ノ產ム所デアリマシテ、實ニ恐ルベタ、又悲シムベキ副產物ト言ハナケレバナラヌ、德富蘇峰君ハ、先日日新聞紙上ニ於キマシテ、機關論ニ言及致シテ居リマス、其中ニ斯様ナ事ヲ申シテ居ル、「日本ノ國家ハ法制的ニ成立セズシテ、倫理的ニ成立シテ居ル、雄略天皇ノ聖詔ニ「義ハ乃チ君臣ニシテ情ハ父子ヲ兼ヌ」トアルハ、實ニ恐レナガラ我ガ國體ノ精義ヲ囊括アラセラレタル有難キ文句デアル」斯様ニ蘇峰君ハ申シテ居ル、實ニ

吾々幾千万國民ハ、此少數ノ機關論者ヲ除イテハ、悉ク蘇峰君ト觀念ヲ同ジウスルノデアリマス「何事ノ在シマスカハ知ラネトモ唯々有難ク涙コホル、」是ガ即チ我國民ノ天皇、皇室ニ對シ奉ル所ノ絶對的觀念、絕對的信仰ニアリマシテ、此觀念、此信仰ノ上ニ、世界ニ卓越セル所ノ我國體ガ築キ上ゲラレテ居ルノデアリマス(拍手)而モ此國體ヲ無視シテ掛ルト云フノガ、即チ機關論デアリマス、尤モ一部ノ機關論者ハ、倫理的國體觀念ハ、憲法論トシテハ之ヲ採入ルベキモノデハナイト言ウテ居ル、所ガ何處迄モ倫理的ニ出來上ツテ居ル所ノ我ガ國體ノ觀念ヲ除外シテ、一體ドウシテ我ガ憲法ヲ解釋スルコトガ出來マセウカ、此國體論ハ憲法ノ法律論ニ採入レル必要ガナイ、採入レルモノデハナイト云フ此論者ハ、憲法發布ノ御聖諭ヲ一體ドウ心得テ居ルデセウ、「憲法義解」ノ一冊モ精讀致シタルバ、我ガ憲法ハ我國體ヲ骨髓トシ、ノ主體ハ、天皇デアルカノヤウニ聞エルノデアル、ガ段々進ンデ美濃部君ハ說イテ行ク中ニ、何時ノ間ニヤラ到頭統治權ノ主體ハ、法人トシテノ國家デアル、天皇ハ國家ヲ代表シテ、此權利ヲ行ハセラル、最高機關論者ニナリアツテ居ルノデアル、サウシテ見ルト、初メノ美濃部君ガ君主主權トハ、統治權ハ天皇ニ屬スルトカ言ウタカ、<sup>ト</sup>ハ、統治權ハ天皇ナリト言フノデコトハ、統治ノ主體ガ天皇ナリト言フノデナクシテ、單ニ天皇ガ統治權ヲ保有セラル、ト云フダケノ意味ニ過ギナニコトニナリマシテ、隨テ其統治權ハ天皇固有ノモノナリヤ、又他カラ委託サレタルモノナリヤト云フコトハ、全然不明ニ付サレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ風ニ、初メハ天皇ガ

元來機關論ハ西洋ノ君主政體ヲ説明スルヤダニ出來テ居ルノデアリマスルカラシテ、此理論ヲ日本ヘ持込ンデ、サウシテ日本ノ國體ト組合セヨウトシタ所ガ、ソレハ即チ國體論ヲ憲法論カラ除外スル、中々辻接ガ合フベキ所ノモノデハナインデアリマス、仍テ之ヲ憲法論ヨリ除外スル、即チ國體論ヲ憲法論カラ除外スルカ、然フズバ極メテ曖昧ナ纏合セラシテ、理論ヲ糊塗スルヨリ外ハ途ガナイノデアリマス、サレバコソ美濃部君ノ如キモ、過日ノ貴族院ノ演説ノ冒頭ニ於テハ、自分ハ君主主權ヲ否定スル者デハナイ、統治ノ大權ガ天皇ニ屬スルト云フコトハ、何人モ疑ハナイ所デアル、斯様ニ申シテ居ル、又斯ウ言ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

以上述ペマシタル所デ、大體天皇機關說ナルモノガ、我國體トハ到底相容レザルデアリマス、然レモ私共カラ見マスレバ、斯様ニシテ一般人ヲ迷ハシムル所ニ、實ハ此機關論ノ危險性ヲ益認メザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

ナルモノガ、我國體トハ到底相容レザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

ナラバ、我ガ憲法ハ我國體ヲ骨髓トシ、ノ主體ハ、天皇デアルカノヤウニ聞エルノデアル、ガ段々進ンデ美濃部君ハ說イテ行ク中ニ、何時ノ間ニヤラ到頭統治權ノ主體ハ、法人トシテノ國家デアル、天皇ハ國家ヲ代表シテ、此權利ヲ行ハセラル、最高機關論者ニナリアツテ居ルノデアル、サウシテ見ルト、初メノ美濃部君ガ君主主權トハ、統治權ハ天皇ニ屬スルトカ言ウタカ、<sup>ト</sup>ハ、統治權ハ天皇ナリト言フノデコトハ、統治ノ主體ガ天皇ナリト言フノデナクシテ、單ニ天皇ガ統治權ヲ保有セラル、ト云フダケノ意味ニ過ギナニコトニナリマシテ、隨テ其統治權ハ天皇固有ノモノナリヤ、又他カラ委託サレタルモノナリヤト云フコトハ、全然不明ニ付サレテ居ルノデアリマス、是ハ天皇機關說ヨリ分派スル當然ノ結論デアリマスガ、斯ノ如キ結論

ニサヘ到著スル所ノ、此天皇機關說ニ對シテ、軍部大臣トシテ同意カ、反対カ、端的明瞭ニ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス、次ニ第一ト致シテ、軍部大臣ニ御伺致シタイ、斯ノ如キ危險ナル學說ガ世間ニ公然流布サル、ノヲ、其儘ニ放任シテ置キマシテハ、遂ニ皇軍ニマデ天皇ノ尊嚴ヲ輕視スルヤウナ思想ヲ傳播スルノ虞アリト私ハ信ズルノデアリマス、果シテ然リト致シマスレバ、國法ヲ以テ其流布傳播ヲ防止スルト云フ御考ハ、軍部大臣ニハナインデアリマスカ、之ヲ御伺致シタイ

次ハ私ハ文部大臣ニ對シテ御尋ラスル、文部大臣ハ、天皇機關說ニハ反対デアルト度々明言サレテ居リマスガ、是ハ洵ニ欣幸ニ存ズル次第デアリマス、現下ノ文部大臣ト致シマシテハ、爾カアルベキモノトシテ、洵ニ敬意ヲ表スル者デアリマス、件シ其反対ノ理由如何ニ依リテハ、文部大臣トシテ此學說ノ取扱ラドウスルカト云フ問題モ起ルノデアリマスカラ、私ハ文部大臣ガ天皇機關說ニ反対デアルト云フ、其反対ノ理由ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレニ依ッテ更ニ御尋ヲ續ケル積リデアリマス、次ニ内務大臣ニ御尋ヲ致シタイノデアリマスケレドモ、今日御出席ガアリマセヌカラ、又他ノ機會ニ於テ伺フコト、致シマス

最後ニ總理大臣ニ御尋ヲ致シマス、總理大臣ハ二月十八日、本問題ニ關シテ、貴族院ニ於ケル井上清純男爵ニ御答ニナツク所スル、此憲法ノ第一條ヲ以テ御答ニナツテ居ルヤウデア

ニ依リマスレバ、美濃部ノ著書ハ全體ヲ通讀スレバ、國體ノ觀念ニ於テ誤リナイト思フガ、唯用語ニ穩當ナラザル所ガアルヤウデスト、斯様ニ申サレタヤウニ承知致シテ居リマスガ、其後三室戸子爵ノ質問ニ對シテ、法制局長官ヲ通ジテ、今度ハ全部的ニ天皇機關說ヲ否認スルガ如キ答辯ヲナサレタヤニ承知致シテ居リマス、私ハ前後ヲ通ジテ總理大臣ノ、此天皇機關說ニ對シテノ御意見ガ色々ニナツテ居リマスガ、爲ニ、ドレガ本當デアルカト云フコトニ甚ダ疑ヲ懷イテ居ルノデアリマス、故ニ私ハ茲ニ改メテ極メテ端的ニ御尋ヲ致シマス、即チ總理大臣ハ我が國體ノ上ヨリ見マシテ、又我ガ日本憲法ヲ解釋スル上ヨリ致シマスカ、是方要點ナノデアリマス、統治權ノ主體ハ天皇ナリト御考ニナリテ、統治權ノ主體ハ天皇ナリト御考ニナリト云フコトヲ、抽象的ニ御尋ハ致シマスカ、是方要點ナノデアリマス、統治權ノ主體ハ天皇ナリト御考ニナリテ、統治權ノ主體ハ天皇ナリト御考ニナリカ、又ハ天皇機關論者ノヤウニ統治權ノ主體ハ天皇ナリト御考ニナツテ居リマスカ、又ハ天皇機關論者ノヤウニ統治權ノ主體ハ天皇ナリト御考ニナツテ居ルノデアリマス、斯様ナ秋デアレバコソ、此第一ニ伺ヒタイノデアリマス、次ニ今迄國務大臣諸君ガ、種々ノ機會ニ於テ學說ハ學者ニ委シテ置クヨリ仕方ガナイ、斯様ニ申シテ居ラレマスガ、總理モ亦左様ニ御考ニタル所ノ、政府ノ斯様ナ問題ニ對スル所ノ答辯ヲ見マスルト云フト「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト云フ、アノ憲法ノ第一條ヲ以テ御答ニナツテ居ルヤウデア

マスカ、誰ガ異存ヲ申ス者ガアリマスカ、ソレヲ尋ネルノデハナイノデアル、此憲法第一條ヲ解釋スルニ付テ、既ニ機關論ト云フモノガ生ジテ居ルノデアル、此憲法第一條ニ申シテアル所ノ天皇ノ統治權ト云フモノ、此統治權ノ主體ハ一體何處ニ在ルカト云フコトガ、是ガ即チ問題ニナツテ居ルノデアル、吾々ノ信ズル所、吾々ノ解釋スル所ハ、固ヨリ統治權ノ主體ハ天皇デアル、斯様ニ私共ハ確信致シテ居ルノデアリマス、云フコトガ、是ガ即チ問題ニナツテ居ルノデアル、吾々ノ信ズル所、吾々ノ解釋スル所ノ主體ハ國家デアル、ソコデ天皇ハ機關デアルト云フ議論ガ出ルノデハアリマセヌカ、岡田總理ハ機關論ニ反対、機關論ニ賛成シナイト、斯ウ言ハレマスコトハ、即チ此意味デアルカドウカト云フコトヲ私ハ疑ヒマドウカト云フコトヲ、抽象的ニ御尋ハ致シマス又、端的ニ、統治權ノ主體ハ天皇デアルト御考ニナルカ、又ハ天皇機關論者ノ如クドウカト云フコトヲ、抽象的ニ御尋ハ致シマスカ、是方要點ナノデアリマス、統治權ノ主體ハ天皇ナリト御考ニナツテ居ルノデアリマス、斯様ナ秋デアレバコソ、此二三十年モ放ツタラカシテ置イタ天皇機關論ナルモノガ問題ニナツテ居ルノデアリマス、況ヤ此學說ニ對シテハ、駭擊ノ聲ガ澎湃トシテ天下ニ漲ツテ居ルノデアリマス、之ヲ此儘解決セズシテ、此儘ニ放ツテ置クト云フコトデアッタナラバ、人心ノ激スル所、如何ナル事態ヲ惹起スカモ分ラヌト、私ハ深キ憂ヲ有ツテ此成行ヲ見テ居ルノデアリマス、總理ハ其組閣ノ當初ニ於テ、國體ヲ明徴ニスルト云フコトヲ聲明サレテ居リマス、此所謂天皇機關論ナルモノガ善イカ悪ス、此憲法ノ第一條ニ誰ガ疑ヲ挿ム者ガア

リマスカ、誰ガ異存ヲ申ス者ガアリマスカ、ソレヲ以テ之ニ臨マナケレバナラヌト云フ御考デアリマスカ、特ニ此天皇機關論ノ場合ニ於キマシテハ、吾々ノ信ズル所ヲ以テ致シマスレバ、國體觀念ヲ惑亂致シテ金甌無缺ノ此國祚ニ傷ヲ付ケルト云フコトノ危険性ノアル此天皇機關論、之ニ對シテ總理ハドウ御考ニナツテ居ルカ、有害デアルカ無害デアルカ、危險ナラズト見ルカ、危險ナリト見ルカ、危險ナリト見タナラバ、有害ナリト見タナラバ、如何ナル態度ヲ以テ政府ハ之ニ臨ムノデアルカ、之ヲ御伺シタイノデアリマス

終リニ臨ミマシテ私ハ特ニ總理ニ申シテ置クノデアリマスルガ、今日ハ我ガ帝國ハ、漸ク歐米心醉ノ迷夢カラ覺メマシテ、初メテ帝國固有ノ大精神ニ蘇ラントシツ、アル秋デアリマス、斯様ナ秋デアレバコソ、此二三十年モ放ツタラカシテ置イタ天皇機關論ナルモノガ問題ニナツテ居ルノデアリマス、況ヤ此學說ニ對シテハ、駭擊ノ聲ガ澎湃トシテ天下ニ漲ツテ居ルノデアリマス、之ヲ此儘解決セズシテ、此儘ニ放ツテ置クト云フコトデアッタナラバ、人心ノ激スル所、如何ナル事態ヲ惹起スカモ分ラヌト、私ハ深キ憂ヲ有ツテ此成行ヲ見テ居ルノデアリマス、總理ハ其組閣ノ當初ニ於テ、國體ヲ明徴ニスルト云フコトヲ聲明サレテ居リマス、此所謂天皇機關論ナルモノガ善イカ悪ス、此憲法ノ第一條ニ誰ガ疑ヲ挿ム者ガア

スペキ問題デハアリマセヌ、之ヲ此儘ニ放

任シテ何等ノ之ニ對スル折目ヲ付ケナイ、即チ彼等ノ謂フ所ノ、天皇ハ機關ナリト云付ケズシテ放ツテ置クト云フコトニアッタナラバ、是ハ所謂アナタノ國體ヲ明徴ニスルト云フ、其御趣旨トハ決シテ相容レザルモノデアルト思フノデアリマス(拍手)初メ政綱ニ掲ゲラレタ所ノ國體ヲ明徴ニスルト云フ其御聲明ガ空念佛デナイ限りハ、此場合ニ於テ此問題ヲ必ズ折目ヲ付ケネバナラヌモノト私ハ確信致スノデアル(拍手)此問題ハ無論政黨派ノ別ノナイ問題デアリ、又政府、議會ノ別ノナイ問題デアル、實ニ全追窮シヨウナドト云フ觀念ハ少シモ持ツテ居リマセヌ、總理ニシテ眞ニ誠意ヲ以テ此問題ヲ片付ケヨウト云フ御考デアルナラバ、又其ヤウニ私モ微力ナガラ共ニ力ヲ致シテ、其解決ヲ致シタイト思フノデアリマスルカラ、斯様ノ意味ニ於テ私ノ質問ニ對シテ、誠意ヲ以テ御答辯アランコトヲ切望致ス次第アリマス(拍手)

(國務大臣大角岑生君登壇)

○國務大臣(大角岑生君) 山本君ノ御質疑ニ御答致シマス、第一私ハ憲法ニ關シ法律上ノ解釋ヲ御答致ス考ハアリマセヌ、極メテ常識的ニ軍人トシテノ信念ヲ申述ベタイト存ジマス、我ガ國體ノ世界無比尊嚴ナルコトハ、固ヨリ炳乎トシテ日月ノ如ク一切

ノ議論ヨリ超越シ、絕對無條件ニ其神聖ヲ信ズル者デアリマス、軍人ガ戰場ニ於テ戰死ノ直前ニ陛下ノ萬歳ヲ奉唱致シマス所以ノモノモ、實ニ此崇高ナル國體觀念ノ發露ニ外ナラナイノデアリマス(拍手)所謂古歌ノ「海行カヘ水ツク屍山行カヘ草ムス屍大君ノヘニコソ死ナメカヘリミハセシ」下ノ大精神コソ、古往今來易ラザル我等軍人ノ傳統の信念デアリマス(拍手)故ニ此信念ニ反スルガ如キ言論ハ、之ヲ承服スルコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)寧ロソレ等ノコトニ付テ彼此レ申スコトスマ、恐懼ノ至リニ堪ヘナイ者デアリマス(拍手)是ハ議論ニアラズシテ信念デアリマス、第二ニ此問題ノ處理ニ關シテノ御尋デアリマスルガ、事極メテ重大デアリマスルカラ、慎重ニ考慮ノ上善處致シタイト考ヘマス(拍手)

(國務大臣林銑十郎君登壇)

○國務大臣(林銑十郎君) 私ニ對スル山本君ノ御尋ノ第一簡條ハ、天皇機關說ニ對スル考ヲ御聞ニナッテ居リマス、第二ハ此說ガ流布傳播スルト云フコトハ國家ニ害アルト信ズル、果シテサウナラバ國法ヲ以テ之ヲ手緩イト呼フ者アリ)其點ニ付キマシテハアリマス(拍手)

(國務大臣林銑十郎君登壇)

第一ノ天皇機關說ニ對スル私ノ考ヲ申上ゲ

マス、私ハ吾々ノ信念トシマシテ、我ガ日本ノ國體ハ世界ニ冠絶シ、所謂尊嚴無比デアルコトヲ絕對ニ信ジテ居ル者デアリマシテ、吾々ノ信念トシマシテハ、吾ガ國體ニテ家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ」ト云フコトガアリマ

ス、私ハ皇位ト國家ハ同一體ト考ヘテ居リシマシテハ、萬邦無比ノ我ガ國體ニ對シマス(拍手)

(國務大臣岡田啓介君登壇)

確信シテ居ルノデアリマス(拍手)陸軍ト致シタヤウナ言説ニ付キマシテハ、斷ジテ承服ハ出來ナイノデアリマス(拍手)次ニ第一ノ問題ニ御答致シマス、私ハ天皇機關說ニ付キマシテハ既ニ申述ベマシタ通りニ、此種族院ノ議場デモ申述ベマシタ通りニ、此種ノ承服シテ居ル者デハアリマセヌ、隨テ貴族院ノ議場デモ申述ベマシタ通りニ、此種付キマシテハ既ニ申述ベマシタ通りニ、此種ノ承服シテ居ル者デハアリマスルガ、事極マス、憲法第一條モ之ヲ述ベテ居ルノダト捧げ奉ル、是ガ我國體ダト思フノデアリマス、憲法第一條モ之ヲ述ベテ居ルノダト思ヒマス、是デ非常ニ明瞭ダト思ヒマス、美濃部博士ノ機關說ニハ、私ハ贊成スル者ノ中カラ姿ヲ消ス、無クナルト云フコトハ吾々ノ希望スル所デ(拍手)吾々ノ承服シ得ル所ノ言説ニ歸シナケレバナラヌト云フコトハ、當然希望シテ居ル所デアリマス、此點ハ明ニ私ハ申上ゲテ宜イト思ヒマス、而シテ是等ノ言説ニ對スル處置トカ、取扱ト云フコトニナリマスト、過日モ貴族院デ申シマシタガ、ソレハ當局ノ大臣等ガ色々研究考慮サレテ居リマス(ソシナコトデハ手緩イト呼フ者アリ)其點ニ付キマシテハアリマス(拍手)

(山本悌二郎君登壇)

(山本悌二郎君登壇)

○山本悌二郎君 只今總理大臣並ニ諸大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマシタガ、皆態ト私ノ質問ノ要點ヲ回避シテ居ルヤウニ考ヘラレルノデアリマス、獨リ文部大臣ダケハ、其私ノ尋ねマシタコトニ付テ、略々要領ヲ得タ御答辯ヲ爲サツタコトニ對シテ敬意ヲ表シマス、文部大臣ガ此機關論ニ反對スル理由ハ、文部大臣ノ信ズル所ニ依レバ、我國ニ於テハ皇位ト國家ハ同一ノモノト考ヘルス様ニ申述ベテ居ル、是ハ此機關論ニ私共ガ反對ヲスル、國民ガ反對ヲスル其理由ト略々相近イ所ヘ來テ居ルノデアリマス、私共ハ天皇ト國家ガ分離スペカラザルモノデア

ル、一體ノモノデアルト云フ、此建前カラ來テ居ルノデアリマス、之ヲ文部大臣ハ、私共ノ申シテ居ルノデアリマス、即チ私ノ意見ト文部大臣ノ意見ハ、略、一致シテ居ルカノヤウニ私ハ考ヘマス、サウ致シマスルト、私ハ文部大臣ニモウ一ツ御尋ラシタインデアル、斯様ニ考ヘテ文部大臣ガ此機關論ニ反對ヲ爲サル以上ハ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、此機關論ナルモノハ我ガ國體ト合致シナイモノデアルト云フ此理由ナノデアル、我ガ國體ト合致シナイモノデアルカラ反對ヲスル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、此國體ト背馳スル所ノ機關論、ソレヲ學說ナリトシテ其儘ニ放置スルト云フ譯ニハ行カヌカノヤウニ思ヒマス、ソレデ文部大臣トシテハ、之ヲ文教上カラ見テ如何ニ取扱ッテ宜シイノデアルカト云フ御考ガナクテハナラヌ筈デアリマスルカラ、之ヲ重ネテ御尋ヲ致シマス、又總理竝ニ特ニ海軍大臣、此御一方ニモウ一應念ヲ押スノデアリマス、海軍大臣ハ私ノ質問ノ要點ノ第一、即チ統治權ノ主體ハ天皇ニアラズシテ國家ニ在リ、斯ウ云フ說ヲ肯定サル、カ、ソレトモ統治權ノ主體ハ天皇ナリト斯様ニ信ズルノデアルガ、之ヲ御尋ネシタ、所ガ海軍大臣ハ學說ハ私ノ關係スル所デハナイ、斯様ニ申サレタノハ、此質問ニ對シテノ御答辯デアルカノヤウニ私ハ承ッタ、是ヘ學說デアルカラ、ソレハドチラトモ自分ハ言フ譯ニ行カ

スト、斯様ニ御答辯ニナツタヤウニ私ハ承ッタ、ソレハ實ニ以テノ外ノコトデアルト思フ、即チ軍人ハ、天皇ノ爲ニ戰フノデアル、天皇陛下ノ馬前ニ討死ヲスルト云フノガ軍人精神デアルト、斯様ニ仰セラレマスガ、所ガ美濃部君ハ、軍人ハ國家ノ爲ニ戰フノデアル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、天皇ノ爲ニ戰フノデハナイト斯ウ言ウテ居ル、ソレハ何處カラ——何處カラサウ云フコトガ結論サレルカ、ドウ云フ理由ノ根柢ノ下ニサウ云フ結論ガ出ルノデアルカト云フト、是ハ即チ天皇機關論カラ出ルノデアル、天皇ハ機關デアル、國家ガ統治權ノ主體デアル、斯ウ云フ所カラ出ルノデアル、國家ガ統治權ノ主體デアルカラ、故ニ軍人ガ戰フノモ即チ國家ノ爲ニ戰フノデアル、斯ウ云フ結論ニナルノデアル、然ラバアナタ方が最モ厭ヤガル、又サウアルベキ、即チ軍人ハ唯國家ノ爲ニ戰フノデアッテ、天皇ノ爲ニ戰フノデハナイナゾト云フ、此最モアナタ方が嫌忌サレル所ノ軍人精神ニ抵觸スル此結論ト云フモノハ、是ハ機關說カラ出テ居ルノデアリマス、ソレダカラ私ハ此機關說ニ對シテ、此御一方ニモウ一應念ヲ押スノデアリマス、總理竝ニ海軍大臣ニ對シテ、此點ヲ明瞭ニ御答アランコトヲ切望致シマス(拍手)

(國務大臣松田源治君登壇)

○國務大臣(松田源治君) 御答致シマス、美濃部博士ノ機關論ハ、久シキニ於テ唱ヘラレマシテ、法律學說トシテ幾多ノ議論モノハナイナゾト云フ、此最モアナタ方が嫌忌サレル所ノ軍人精神ニ抵觸スル此結論ト云フモノハ、是ハ機關說カラ出テ居ルノデアリマス、ソレダカラ私ハ此機關說ニ對シテ、此儘ニ放置サレテ論議サレタト云フコトハ、要スルニ時代ガ然ラシメタノデアル、即チ總テ歐羅巴文明、外國文明ニ心醉シテ居タル、其當時何デモ彼デモ西洋デナクテハナラヌト云フ其時代ニ、此學說ガ外國カラシテ輸入サレタ、ソレダカラシテ、其時代ニ於テハ二十年モ三十年モ其儘ニ天下ニ行ハレタノデアリマスルケレドモ、私ガ最後ニ申シマシタ通り、今日我ガ帝國ハ、將ニ自己ノ精神ニ甦ラントシツ、アル時デアリマスカラ、ソコデ是ガ問題ニナツタノデアリマス、ソレデ之ヲ今日篤ト研究ラシナケレバナラナイト云フヤウナ問題デハナイノデ

之ヲ明瞭ニ御答ヲ願フト申シマシタケレドモ、其御答ガナイノデアル、日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治スト云フコトハ、是ハ固ヨリ何人モ異存ノナイ所デアリマス、ケレドモ其統治權、此日本帝國ヲ統治スル所ノ統治權ト云フモノ、主體ガ、一體天皇デアルノデアルカ、若クハ國家デアルノデアルカ、天皇デアルカ國家デアルカ、是ガ問題ナンデアリマス、是ガドチラデアルカト云フコトニ依ッテ、我ガ國體ト云フモノガドウ云フモノデアルカト云フコトガ始メテ確定サレルノデアル、重大ナ問題デアルノデアリマス、之ヲ避ケテ、之ニ御答ニナラニイト云フコトハ、或ハ御答ニナリニクイナズルカトモ存ズルノデアリマス、併ナノデアルカトモ存ズルノデアリマス、併ナガラモウ一應私ハ總理竝ニ海軍大臣ニ對シテ、此點ヲ明瞭ニ御答アランコトヲ切望致シマス(拍手)

(山本悌二郎君登壇)

○山本悌二郎君 幾度御尋ラシテモ——幾タビ御尋ラシテモ要領ヲ得ルコトガ出来ナイコトヲ遺憾ト致シマス、私ハ文部大臣ノ御答ニモ實ハ満足致スコトガ出來ヌノデ、二十年、三十年此說ガ放置サレテ居タカラ、之ヲドウ文教ノ府ニ於テ取扱ハウカトサレテ居リマシタガ、此問題ガ二三十年モ云フコトハ慎重ノ研究ヲ要スル、斯様ニ申シマス(拍手)

○國務大臣(大角岑生君) 御答致シマス、主體ハ國家デアルカ、若クハ天皇デアルカ、是ナリヤ否ナリヤト云フコトヲ御決メニナラナケレバナラヌ筈ト思フ、故ニ私ハ御尋ヲ致シタノデアリマス、總理大臣ニ對シテモ亦同ジコトヲ私ハ繰返サナケレバナラヌ、總理大臣ハ、稍頗ミテ他ヲ言フ、私ガ主權ノデアリマス、又教科書ニハ、美濃部博士ノモハ使ツテ居リマセヌ、サウシテ國體ノ尊嚴ナルコトヲ教科書ニハ生徒ニ教ヘテ居ルノデアリマス、御答ヘ申シマス(拍手)

アリマス、速ニ此說ノ文教、教育ノ上ニ及ボス所ノ影響ヲ御考慮ニナシテ、相當ノ處置ヲ執ルベキモノト信ズルノデアリマス、ケレドモ此以上御尋ヲシテモ、要スルニ要領ヲ得ナイグラウト思ヒマスルカラ、私ハ此以上申シマセヌ、而シテ總理大臣竝ニ海軍大臣ニ對シテハ、私ハ海軍大臣ガ只今機關論ニ反対デアリマスト云フコトヲ最後ニ申サレタコトハ諒ト致シマス、要スルニ機關論ニ反対デアル、其理由ハ、唯信念ニ依ルカノヤウニ海軍大臣ハ御説明ニナリマシタガ、ソレハ信念デモ宜シノデアル、要スルニ之ニ反対デアレバ宜シノデアル、反對デアレバ、隨テ之ニ對スル所ノ相當ノ處理ヲ御考ニナラナケレバナラヌノデアリマス、ケレドモ是モ今海軍大臣ニ御尋ヲシマシテモ、恐ラクハ要領ヲ得マスマイト思ヒマス、又總理ニ於テハ、私ハ懇々ト能ク御分リニナルヤウニ實ハ申シタ積リデアル、日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス、是ダケデハ、是ハ何モ異存ノナイ話ナノデアル、誰モ之ヲ彼此レ申スノデハナイノデアル、機闇論者ト雖モ、是ハ決シテ否定スルノデハナイノデアル、此憲法第一條、之ヲ以テ私ノ間ニ答ヘヨウトスルノハ、ソレハ全ク的ヲ外レテ居ル、此憲法第一條ト云フモノ、統治權、其統治權ノ所在ガ何處デアルカ、統治權ノ主體ガ天皇デアルカ、國家デアルカト云フコトガ、是ガ問題ナノデアル、ソレヲ私ハ御尋シテ居ルノデアリマスルケレドモ、之ニ答フルニ、即チ萬世一系

ノ天皇ハ日本帝國ヲ統治スルト云フ、憲法第一條ヲ以テスルノミデハ、是ハ何時迄ヤッテモ禪問答デアル、故ニ此以上ハ私ハ御尋ヲ致シマセヌガ、甚ダ私ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ニハ不満デアリマス、不満デアリマスルケレドモ、是レ以上如何ニ押シテモ、音モ音モシサウデアリマセヌカラ、私ハ此程度ニ止メテ、深キ政府ノ考慮ヲ促シテ置キマシテ、又他日ノ機會ニ於テ、政府ガ若シ之ニ對シテ相當ノ考ヲ決メテ、相當ノ折目ヲ付ケナケレバ、其時ニ於テ吾々ハ又更ニ政府ニ對シテ御尋モスルデアラウシ、又他ノ吾々ノ權限ニ依シテ爲サナケレバナラヌコトガ生ズルカモ知レマセヌガ、此度トシテハ、質問ハ此程度デ止メテ、深キ考慮ヲ政府ニ促シテ置キマス(拍手)○議長(濱田國松君) 質問第三、大演習時ノ御警衛ニ關スル質問ヲ許可致シマス——提出者中山福藏君

三 大演習時ノ御警衛ニ關スル質問(中 山福藏君提出) 大演習時ノ御警衛ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和十年三月九日 提出者 中山 福藏  
大演習時ノ御警衛ニ關スル質問主意書  
書  
大演習時ニ於ケル 天皇陛下ノ御警衛ニ關シ守則確立ノ必要ナキヤ陸軍大臣、海軍大臣及内務大臣ノ所見如何  
右及質問候也

○議長(濱田國松君) 此場合申上ゲマス、先刻後藤内務大臣ハ 皇后陛下ノ行啓ニ扈テモ禪問答デアル、故ニ此以上ハ私ハ御尋ヲ致シマセヌガ、甚ダ私ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ニハ不満デアリマス、不満デアリマスルケレドモ、是レ以上如何ニ押シテモ、音モ音モシサウデアリマセヌカラ、私ハ此程度ニ止メテ、深キ政府ノ考慮ヲ促シテ置キマシテ、又他日ノ機會ニ於テ、政府ガ若シ之ニ對シテ相當ノ考ヲ決メテ、相當ノ折目ヲ付ケナケレバ、其時ニ於テ吾々ハ又更ニ政府ニ對シテ御尋モスルデアラウシ、又他ノ吾々ノ權限ニ依シテ爲サナケレバナラヌコトガ生ズルカモ知レマセヌガ、此度トシテハ、質問ハ此程度デ止メテ、深キ考慮ヲ政府ニ促シテ置キマス(拍手)○議長(濱田國松君) 質問第三、大演習時ノ御警衛ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和十年三月九日 提出者 中山 福藏  
大演習時ノ御警衛ニ關スル質問主意書  
書  
大演習時ニ於ケル 天皇陛下ノ御警衛ニ關シ守則確立ノ必要ナキヤ陸軍大臣、海軍大臣及内務大臣ノ所見如何  
右及質問候也

私ハ近畿大演習以來、此點ハ國民トシテ忽諸ニ付スペカラザル所ノ重大問題トシテ、常ニ周到ナル注意ヲ拂シテ居シタノデアリマスルガ、從來特別大演習ノ際ハ、殆ド同一程度ノ入門者點検ヲ行ヒツ、アルト云フコトヲ發見シタノデアリマス、陸軍當局ハ、大演習時ニ於ケル 陛下ノ御警衛ハ、之ヲ以テ十分ナリト思考セラレテ居ルヤ否ヤ、尙ホ本問題ニ付キマシテ陸軍大臣同様、海軍大臣ニ此質問ヲナスト云フノハ、アリマスガ、畏クモ一天萬乘ノ 天皇陛下ニハ、龍顏殊ノ外麗ハシク大阪ニ御安著在ラセ給ヒ、大阪城内ノ大本營内ニ數日間御駐輦遊バシマシタコトハ、諸君ノ御記憶ニ尙ホ新ナル所デアラウト存ズルノデアリマス、其際私ハ直チニ 天機奉伺ノ爲メ大本營ニ罷リ出タノデアリマスルガ、不可解ニモ陸海軍ノ准士官以上ノ軍服ヲ著用シタル者ハ、其何人タルヲ問ハズ、何等查問點檢ナクシテ、自山ニ奉伺者名簿備付ノ所マデ参進シ得タノデアリマス、之ニ反シテ私共ハ、議員徽章ニ依リマシテ、其身分地位ヲ表示セラレ居ルニ拘ラズ、悉ク門鑑ナキ者ハ、入門ヲ拒否セラタノデアリマス、此場合明確ニ申上ゲテ置カナケレバナラヌコトハ、私ハ決シテ入門ヲ拒絶セラレタカラ、斯様ナ特殊故ニ軍服ヲ著用セル者ノミガ、斯様ナ特殊ノ待遇ヲ受ケルカト云フコトヲ、諒解出來ルヤウニ御釋明ヲ煩シタインノデアル(拍手)

健、忠孝義勇、一君萬民ノ大精神ニ則リ、  
其精神解釋ニ依リ近衛師團長、當該地ノ衛戍司令官、陸軍當局、並ニ地方官憲御協議ノ上ニ御決定ナサルモノト思考セラレルノデアリマスルガ、軍服著用ノ人間ヲ點検査問セズシテ、果シテ眞ノ御警衛ガ出來ルノデアリマセウカ、古來我ガ國民ハ質實剛

君國ニ對スル至高最大ノ御奉公ヲ致シテ居ルノデアリマスルガ、近時思想ノ悪化、風紀ノ頽廢、經濟界ノ混亂、國民生活ノ不安、外交ノ不振、國防ノ不備等、複雜多岐ナル原因ニ依リマシテ、社會各般ノ改造ヲ即時ニ斷行セントスル者アリ、甚シキニ至リマシテハ、國體ノ變革ヲ企圖スル大逆不逞ノ徒ガ存在スルト云フコトハ、閣員諸公皆御承知ノ通リデアリマス、這般ノ事情ニ鑑ミマシテ、如何ナル場合ニ於キマシテモ陛下ノ御警衛ハ徹底的ニ完璧ヲ期セナケレバナラヌト私ハ信ズル者デアル、之ヲ要スルニ大演習時ニ於ケル奉伺者ニシテ、軍服ヲ著用セル者ニ限り、無點檢デ以テ入門許可ノ方法ニ出ヅルガ如キハ、不用意、不謹慎、軍人ナルガ故ニ、忠節ニ缺クル處ナシト云フ獨斷的先入感ニ依リ、軍民ヲ差別スルト云フ一證左ナリトモ謂ヒ得ルノデアツチ、御警衛上不備不完全ノ極ナリト謂ハナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス（拍手）申スモ畏キコトナガラ、萬一軍服ヲ著用セル者ノ申ニ不逞ノ徒アリ、虎ノ門事件ノ如キ大逆事件ヲ惹起スルヤウナコトガアリ、或ハ測近ノ大官ニ危害ヲ加ヘ、震襟ヲ惱マシ奉ルガ如キコトガアリマシタナラバ、陸海軍大臣ハ上陛下ニ對シ奉リ、下國民ニ對シ如何ナル申開キヲ爲サル積リデアリマセウカ（拍手）心境ノ變化又ハ恐懼戒心ノ如キ遁辭ヲ以テシテ、斷ジテ國民大衆ノ納得ヲ得ルコトハ出來ナイノデアル（拍手）斯ク言ヘバ中山ノ申スコトハ悉ク是レ荒唐無

稽、單ナル杞憂ニ過ギナイト仰セラレルカモ知レマセヌガ、難波大助ノ如キ大逆ノ徒ガ、古著屋カラ軍服ヲ購入スルコト位ハ一リマシテハ、國體ノ變革ヲ企圖スルト云フ事實ガアリマシテ、私ノ論旨ニ誤リ御玉體ニ近ヅキ奉リタル實例、及ビ軍人必シモ絕對無限ノ忠節ヲ獨占スルモノニ非ザル所以ヲ立證致シマシテ、私ノ論旨ニ誤リ忘レモ致シマセヌ、昭和八年四月三日、陛下ノ御警衛ハ徹底的ニ完璧ヲ期セナケレバナラヌト私ハ信ズル者デアル、之ヲ要スルニ大演習時ニ於ケル奉伺者ニシテ、軍服ヲ著用セル者ニ限り、無點檢デ以テ入門許可ノ方法ニ出ヅルガ如キハ、不用意、不謹慎、軍人ナルガ故ニ、忠節ニ缺クル處ナシト云フ獨斷的先入感ニ依リ、軍民ヲ差別スルト云フ一證左ナリトモ謂ヒ得ルノデアツチ、御警衛上不備不完全ノ極ナリト謂ハナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス（拍手）申スモ畏キコトナガラ、萬一軍服ヲ著用セル者ノ申ニ不逞ノ徒アリ、虎ノ門事件ノ如キ大逆事件ヲ惹起スルヤウナコトガアリ、或ハ測近ノ大官ニ危害ヲ加ヘ、震襟ヲ惱マシ奉ルガ如キコトガアリマシタナラバ、陸海軍大臣ハ上陛下ニ對シ奉リ、下國民ニ對シ如何ナル申開キヲ爲サル積リデアリマセウカ（拍手）心境ノ變化又ハ恐懼戒心ノ如キ遁辭ヲ以テシテ、斷ジテ國民大衆ノ納得ヲ得ルコトハ出來ナイノデアル（拍手）斯ク言ヘバ中山ノ申スコトハ悉ク是レ荒唐無

稽、單ナル杞憂ニ過ギナイト仰セラレルカモ知レマセヌガ、難波大助ノ如キ大逆ノ徒ガ、古著屋カラ軍服ヲ購入スルコト位ハ一リマシテハ、國體ノ變革ヲ企圖スルト云フ事實ガアリマシテ、私ノ論旨ニ誤リ忘レモ致シマセヌ、昭和八年四月三日、陛下ノ御警衛ハ徹底的ニ完璧ヲ期セナケレバナラヌト私ハ信ズル者デアル、之ヲ要スルニ大演習時ニ於ケル警衛上ノ一大失敗ガレタノデアリマスルガ、彼ハ下關ノ在郷軍人會副分會長、東分會長ノ名譽職ニアリ、陸軍騎兵中尉從七位勳六等功五級ノ位階勳等ヲ有スト觸込ミマシテ、畏多クモ嘗テハ九州大演習ノ砌、明治大帝ノ御行幸ヲ拜スル爲ニ僞中尉トナリ、下關構内ニ立入リマシテ、サウシテ拜觀ノ光榮ニ浴シタノミナラズ、御大典ニモ二回、御賜餐ノ光榮アル場所ニ參列シ、在郷軍人功勞者トシテ有功章ヲ拜受シテ居ル、昂々溪ニ於ケル鬼デアリマス

昭和五年度ヨリ九年度ニ至ル所ノ陸軍軍人ノ中ニ左翼思想ヲ抱懷シ、檢舉セラレマシタル者ガ六十三名、起訴處罰セラレマシタル者ガ各四十名、反亂罪トシテ檢舉起訴アル者ガ各十名、桂内閣ノ當時ニ於キマシテ施行セラレタル衛戍條例及衛戍勤務令ヲ以テ、遺憾ナシトセラル、ノデアリマセウカ、又大演習時ニ於ケル御警衛ニ關スル單行法ヲ御作リニナルト云フ御考ハナインデアリマセウカ、右二法令ノ字句體裁ハ今日之ヲ見マスルト不備不完全洵ニ甚シキモノデアリマシテ、是非トモ此際守則ヲ確立シテ置ク必要ガアルト思フノデアリマスガ、此點ニ關スル陸軍大臣ノ所存ハ如何デアリマセウカ、海軍大臣ニ對シマシテハ衛戍勤務令第一章第十項ノ規

定ニ基キマシテ奉聯事項トシテ、是ハ御尋シテ置クノデアリマスガ、陸軍ト共同御警衛ノ場合ハ免ニ角、今日海軍ニ於キマシテハ御警衛ニ關スル單行法ガ存在シテ居ナイ、是ハドウ云フ譯デアリマスカ、陸軍ノ衛戍勤務令ニ相當スルモノハ鎮守府令、要港部令軍港衛兵規則、軍港巡察特種規則、明治四十五年達第六十二號陸上勤務居住規則、艦船部隊上陸外出規則、是等ノモノガアルダケデアリマシテ、單行法ト云フモノハ何處ヲ探シテモナイノデアリマス、斯様ナ意味合ニ於キマシテ、私ハ此際斯ウ云フコトハ、成程天皇機關説トカ色々ナ問題モ重大デアリマセウガ、一番重大ナルコトハ、我ガ國體ノ尊嚴ノ基本デアリマスル陛下ノ御警衛ニアルト云フコトヲ、オ互ニ考ヘナケレバナラヌト思ヒマス、此點ヲ粗漏ニシテ幾ラ論議シタ所ガ、一體何ノ價值ガアルカ、私ハ斯様ナ意味合ニ於キマシテ、内務大臣ハ御見エデアリマセヌカラ、此奉聯事項ハ後日ニ廻シマシテ、陸海軍大臣ニ今日此點ヲ特ニ御尋スル光榮ヲ有シタ者デアリマス

(國務大臣林銑十郎君登壇)

○國務大臣(林銑十郎君) 只今ノ中山君ノ御質問ニ御答致シマス、御警衛ノコトニ付キマシテノ大體ノ御議論ハ、洵ニ當然ト考ヘマス、私共モ此演習中ノ御警衛ニ付キマシテハ、關係各省、所謂軍部モ地方側モ、相當ニ頭ヲ惱マシマシテ、此御警衛ノ擔任區分デアルトカ、或ハ實行ノ方法デアルト

カ云フコトニ付キマシテハ、其時ノ狀況ニ應ジ、地方ノ狀況等ニ應ジマシテ、所謂大演習毎ニ特殊ノ趣意書、或ハ法令ト云フヤウナモノヲ作ッテ居リマス、ソレデ詳細ナル規定ヲ致シマシテ、豫メ各關係當事者ニ於テ十分之ヲ研究シテ、御警衛ノ任ニ當ッテ居ルノデアリマシテ、大體ニ於キマシテ違算ノナカッタコト、考ヘテ居ルノデアリマスルガ、併シ尙ホ此點ニ付キマシテハ、御話ノ通り今日ノ時勢ニ應ジマシテ、今後益々注意ヲ加ヘテ、法規等ノ改變ニ關シテ研究ヲスル必要アリト考ヘテ、ソレバ著手ヲ致シテ居ル次第デアリマス、之ヲ以テ御答ト致シマス

(國務大臣大角岑生君登壇)

○國務大臣(大角岑生君) 御答ヲ致シマス、行幸ノ際ニ於ケル御警衛ノ重大ナルコトハ、只今御述ニナリマシタ通リデアリマシテ、之ニ關シマシテハ、所在最高指揮官ハ、終始非常ナル注意ヲ拂テ居ルノデアリマスガ、成程法規等ノ不備ノ點ガアラウト思ヒマスルカラ、此點ニ關シテハ十分研究ヲ致シタイト考ヘマス、此大演習其他行幸ノアリマスル際、例ヘバ鎮守府、要港部等ニ於キマシテ、海軍港内以外ヘ直接海軍ハ警衛ニ當ツテ居リマセヌ、是ハ主トシテ地方警察、警官等ガヤッテ居リマスルガ、海軍港内ハ是ハ海軍ガ警衛ニ任ジテ居リマス、又海上ニ於キマシテハ、海軍自ラノ兵力ヲ以テ御警衛ニ任ジテ居ルコトハ御承知ノ通リデアリマス、只今纏々御述ニナリマシタコトハ、

私共拘ニ好個ノ資料ト致シマシテ、十分研究致シタイト考ヘマス  
○議長(濱田國松君) 中山君、モウ宜シウゴザイマスカ  
○中山福藏君 簡單デスカラ自席カラ發言ヲ御許シ願ヒマス  
○議長(濱田國松君) 許可致シマス  
○中山福藏君 私ハ只今ノ陸海軍兩大臣ノ御答辯ヲ、洵ニ敬意ヲ以テ拜聽シタノデアリマスガ、願クバ出來ルダケ早イ時期ニ於テ、陸海共通ノ御警衛方針ニ關スル規定ノ御作成アランコトヲ希望スルノデアリマス、私ノ得マシタ資料ハ、憲兵隊本部竝ニ豫備ノ海軍將官ノ方カラ、此大演習時ニ於ケル所ノ御警衛ノ取締ニ付テ、逐一實例ヲ擧ゲテ御聽キシタノデアリマスルカラ、斷ジテ誤リハナイト云フ確信ノ下ニ御質問ヲシタノデアリマス、願クハ陸海兩大臣ハ、總理大臣トモ御協議ニナリ、或ハ地方官憲ニ關係アル所ハ、内務大臣トモ御協議ニナリマシテ、立派ナル御警衛方針ヲ樹立セラレントコトヲ、此際希望致シマシテ質問ヲ打切りマス

○議長(濱田國松君) 次ノ質問ニ入リマス、此機會ニ念ノ爲メ申上ゲマス、質問ノ演說時間ハ、院議ニ依リ二十分ヲ以テ制限トサレシテ居リマス、議長ニ於キマシテ特別ノ多事ニシテ眞ニ舉國奮起スヘキノ秋ナリト云フ御言葉ヲ以テ見ルモ明デアリマシテ、非常時ノ解消セラレナイト云フコトハ、ハッキリシテ居ルト思フノデアリマス、此秋ニ

關スル質問ヲ許可致シマス——提出者畠桃

五 外交國防及國策ニ關スル質問(畠桃作君提出)

右成規ニ據リ提出候也

昭和十年三月七日 提出者 畠桃作  
外交國防及國策ニ關スル質問主意書  
○議長(濱田國松君) 外交國防及國策ニ關スル質問主意書充實及國策ノ運用ニ關スル内閣總理大臣、外務大臣、陸軍大臣、海軍大臣及大藏大臣ノ所見如何  
右及質問候也(畠桃作君登壇)  
○畠桃作君 (曩ニ帝國政府ガ滿洲國ノ承認、國際聯盟脫退、華府條約ノ廢棄通告ヲ斷行致シマシタコトハ、東亞安定ノ爲ニ特別ナル重責ヲ負擔スベキ我ガ帝國ノ臣民ト致シマシテ、最モ本懷トル所デアリマス、而シテ帝國ノ前途如何ト云フニ、畏多クモ一昨日陸軍記念日ニ、九段ヘ行幸遊バサレマシタ 至尊ノ御前ニ於テナサレマシタル、閑院宮殿下ノ御式辭ノ一節ニ、漏レ承ル御言葉デアル所ノ「今ヤ帝國內外ノ情勢ハ益々多事ニシテ眞ニ舉國奮起スヘキノ秋ナリ」ト云フ御言葉ヲ以テ見ルモ明デアリマシテ、

方リ我ガ國民ハ外交ノ成功ヲ贏チ得ンガ爲

ニ、我方ト相手國トノ間ニ存在スル諸般ノ關係ニ付キマシテ、正シキ認識ヲ求メントスルノハ當然デアリマス、又外交ヲ力強ク支持スル爲ニ、茲ニ國防ヲ充實スル必要ノアルコトハ勿論デアリマス、而シテ國防ヲ充實スル爲ニハ、兵農商工萬全ノ立場ニ於キマシテ、武力ト同様ニ民力ノ涵養ト充實ヲ圖ラネバナリマセヌ、而シテ民力ノ充實ヲ圖ル爲ニハ、吾等ハ茲ニ現在ノ產業經濟ノ機構ニ向シテ、大革新ヲ斷行シケレバナラナイ、而シテ人心ノ緊張ト安定トヲ策シ、國家有事ノ際ハ銃後ノ備ヘヲ全カラシメテ、國民ヲシテ久シキニ堪ヘシムルノ途ヲ講ジナケレバナリマセヌ、此重要ナル點ニ付テハ、我黨ハ勿論、國民同盟ノ諸君モ、民政黨ノ諸君モ、又陸軍ノ「パンフレット」モ、憂ヲ共ニスルモノト思フノデアリマス、洵ニ是レ自然ノ勢ト申シマスカ、天運ノ然ラシムル所デアリマシテ、此時代ノ轉換ト政局ノ推移トハ、何人モ阻止スルコトハ出來ナイノデアリマス、恐ラク此必至ノ趨勢ニ對シテハ、元老重臣ハ勿論ノコト、彼ノ金融資本王國ヲ誇る財閥ノ人ト雖モ、遂ニ反抗スルコトハ不可能デアリマセウ、此見地ニ立チマシテ、私ハ次ノ質問ヲ致シ、非常時ノ外交及國防ニ付テ見透シト認識トヲ、今少シク明ニ致シマシテ、諸般ノ準備ノ資料致シタイト思ヒマス、即チ第一ニ新海軍軍縮會議ニ對シ、最モ重要ナル點ヲ、茲ニ極メテ端的ニ御尋致シマス、新海軍軍縮會議ニ對シ、日本ガ飽迄モ平等權ヲ主張スル

コトハ、總理大臣、外務大臣、海軍大臣ノ確乎不拔ノ信念ト思ヒマスルケレドモ、ソレニ間違アリマセヌカ、若シ間違ガナマシテ、其平等權ノ標準ヲ何處ニ置クカト云フコトヲ御尋シタイ、即チ總頃數ノ上ニ置ク場合ニハ、最高度ノ海軍國タル英米ノ保有量ヲ以テ平等ノ基準圖ル爲ニハ、吾等ハ茲ニ現在ノ產業經濟ノ保有量ヲ以テ基準トスルカ、或ハ其中ト爲スカ、又ハ日本ノ如キ最低度ノ海軍國ノ保有量ヲ以テ基準トスルカ、或ハ其中間ヲ取ルカデス、其點ハ後日ノ爲ニ特ニ關係大臣ノ明確ナル答辯ヲ御願シテ置キマス。

ソレカラ若シ不幸ニシテ右協定ガ不成立ニ終リ、無條約狀態ニ立至ル場合ニハ、雙方ノ國民感情ノ上ニ及ボス影響ハ頗ル大デアル、延テ外交上經濟上ノ所謂危機ガ、結果トシテ現レテ來ルコトハ明デアリマス。

ソレカラ此際此軍縮問題ニ關聯致シマシテ、更ニ一ツ御伺シタイト思フ、ソレハ對英公債ノ償還期限ハ、故意カ偶然カ知リマセヌガ、何時モ軍縮會議ト或種ノ因縁ヲ以テ來シテ居ルヤウニ私ハ感ズルノデアリマス、現ニ滿鐵社債六百万磅ノ償還ト云フモノハ、明年ノ一月ニ迫シテ居ル、又對米各社債モ、廳テ其償還期限ガ來ルト思フノデアリマスガ、其場合債權國カラ軍縮會議ノ駐リマス、是デ國防上ノ責任ガ軍部大臣ハ持リマスカ、此點ヲ御答願ヒタイト思フ、而シテ今日銃後ノ國防ヲ完成スルニ當リテ妨

碍トナシテ居ル所ノモノハ何デアルカト言ヘバ、此妨ゲハ金融資本家本位ノ財政經濟政策シカ御持セソノナイ所ノ高橋財政其モノガ、私ハ妨ゲデアルト思フノデアリマス、此非常時ニ處スル國防ヲ完成スル爲ニハ、高橋財政ハ私ハ極メテ不適任ト思フノデアリマスガ、此點ニ付キマシテ陸海兩大臣ハ

如何ニ御思ヒニナリマスカ御答願ヒタイ、ソレトモ陸海兩大臣ハ、表面非常時ヲロニ

シナガラ、内心ハ自分ノ所管ニ屬スル豫算ダケ貰ヘバ、ソレデ銃後ノ國防ハ足レリトシテ居ルノデアリマスカ、若シサウデナイトスレバ、軍部大臣ハ茲ニ職ヲ賭シテモ、此内閣ニ列席シテ居ラレル以上ハ、自己ノ所信ヲ強要シ、主張致シマシテ、サウシテ銃後國防ノ完成ニ向シテ力ヲ致サルベキデアルト思フノデアリマスガ、其御決心アリヤ、御伺スルノデアリマス。

ソレカラ此際此軍縮問題ニ關聯致シマシテ、更ニ一ツ御伺シタイト思フ、ソレハ對英公債ノ償還期限ハ、故意カ偶然カ知リマセヌガ、何時モ軍縮會議ト或種ノ因縁ヲ以テ來シテ居ルヤウニ私ハ感ズルノデアリマス、現ニ滿鐵社債六百万磅ノ償還ト云フモノハ、明年ノ一月ニ迫シテ居ル、又對米各社債モ、廳テ其償還期限ガ來ルト思フノデアリマスガ、其場合債權國カラ軍縮會議ノ駐リマス、是デ國防上ノ責任ガ軍部大臣ハ持リマスカ、此點ヲ御答願ヒタイト思フ、而シテ今日銃後ノ國防ヲ完成スルニ當リテ妨

碍トナシテ居ル所ノモノハ何デアルカト言ヘバ、此妨ゲハ金融資本家本位ノ財政經濟政策シカ御持セソノナイ所ノ高橋財政其モノハ、私ハ妨ゲデアルト思フノデアリマス、此軍縮會議ヲ控ヘマシテ、敢テ此點ヲ念ノヲ、私ハ傳聞シテ居ルノデアリマスカラ、若概男爵ガ軍縮條約ノ締結ニ當ラレタ時ニ、英國側カラ深刻ナル交渉ヲ受ケテ、日本側ハ極メテ苦イ經驗ヲ有シテ居ルト云フコトヲ、私ハ傳聞シテ居ルノデアリマスカラ、此軍縮會議ヲ控ヘマシテ、敢テ此點ヲ念ノヲ、私ハ傳聞シテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ私ハ銃後ノ國防ヲ完成スル爲ニハ、ドウシテモ滿洲國ノ力ヲ重要トスルノ

デアリマス、其意味ニ於テ滿洲國ヲ固メルト云フコトハ、實ニ私ハ日本ノ國防ノ完成上、最モ重大意義ヲ有シテ居ルト思フノデアリマス、ソコデ此滿洲國ヲ固メル爲ニ、日本ノ財政當局者ハドウ云フ御考ヲ有シテ居ルカト申シマスト、此滿洲國ハ今建設途上ニアリマシテ、巨額ノ建設費ヲ必要トシテ居ルノデアリマスケレドモ、同國ノ國際的地位ハ、悲シイ哉日本ヲ除イテハ無援孤立ノ状態デアリマス、ソレデ自國建設資金ノ援助ヲ日本以外ノ他國ニ依ヅテ求メル場合ニハ、今ハ對手サヘナイノデアリマス、然ルニ唯一ノ援助國デアル我方日本ニ於テハドウデアルカ、大藏大臣高橋是清君ハ、日本財政ノ膨脹ト、赤字公債ノ増發ヲ忌避スルノ餘リ、對滿投資ヲ深ク警メテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ我が財政當局ノ態度デハ、果シテ滿洲國ハ成育シテ行クカドウカ、私ハ憂ヘザルヲ得ナイノデアリス、此點ニ對シテ高橋大藏大臣ノ財政政策ト云フモノハ、私ハ甚ダ不適當ナモノデアルト思フノデアリマスガ、對滿事務局總裁トシテノ御答辯ヲ要求致シマス、ソレデ若モ我國ガ滿洲ノ建設資金ノ必要ニ對シテ、ソレヲ充スコトガ出來ナイナラバ、已ムヲ得ズ満洲ハ、場合ニ依ツテハ亞米利加、又ハ佛蘭西ヨリ所要ノ資金ヲ求メルノ餘儀ナキニ至ルカモ知レナイ、其時ハ我方政府ニ於テ之ヲ是認スル意思ガアルカドウカ、此點ヲ御聽キシテ置キタインデアリマス

其次ニハ支那問題ニ付テ御尋シタイ、先

日此議場デ私ガ申上ゲマシタ、列國方對支九箇國條約ヲ曲解シ、又ハ惡用シテ、日支親善ヲ妨害スルコトアリタル場合、政府ハ之ヲ破棄スルノ御決心アリヤ否ヤ、此點ニ付キマシテ總理大臣ノ御答ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、ソレカラ其次ニハ借款問題デアリマス、日支ノ關係ヲ整調スル爲ニ新借款、ソレカラ新條約ヲ考ヘルヨリモ——ソレモ必要デアリマスケレドモ、私ハモット大切ナルコトガアルト思ヒマス、ソレハ日本ノ既得權デアル所ノ舊條約ノ整理、ソレカラ元利會計十億圓ニ垂ントシテ居ル舊借款ノ整理ヲ行フコトガ最モ必要デアルト思ヒマス、是ハ列國竝ニ日本ガ取扱ハレテハ困ル所ノ日支間ノ特別關係ノツデアリマス、此懸案ヲ解決スル爲ニ

ソレハ對露關係ノ一部デアリマス、全面的ニ對露關係ヲ見マス時ニ、吾々ハ決シテ樂モ——ソレモ必要デアリマスケレドモ、私ハモット大切ナルコトガアルト思ヒマス、ソレハ日本ノ既得權デアル所ノ舊條約ノ整理、ソレカラ元利會計十億圓ニ垂ントシテ居ル舊借款ノ整理ヲ行フコトガ最モ必要デアルト思ヒマス、是ハ列國竝ニ日本ガ取扱ハレテハ困ル所ノ日支間ノ特別關係ノツデアリマス、此懸案ヲ解決スル爲ニ

ソレハ對露關係ノ一部デアリマス、全面的ニ對露關係ヲ見マス時ニ、吾々ハ決シテ樂モ——ソレモ必要デアリマスケレドモ、私ハモット大切ナルコトガアルト思ヒマス、ソレカラ元利會計十億圓ニ垂ントシテ居ル舊借款ノ整理ヲ行フコトガ最モ必要デアルト思ヒマス、是ハ列國竝ニ日本ガ取扱ハレテハ困ル所ノ日支間ノ特別關係ノツデアリマス、此懸案ヲ解決スル爲ニ

ソレハ對露關係ノ一部デアリマス、全面的ニ對露關係ヲ見マス時ニ、吾々ハ決シテ樂モ——ソレモ必要デアリマスケレドモ、私ハモット大切ナルコトガアルト思ヒマス、ソレカラ元利會計十億圓ニ垂ントシテ居ル舊借款ノ整理ヲ行フコトガ最モ必要デアルト思ヒマス、是ハ列國竝ニ日本ガ取扱ハレテハ困ル所ノ日支間ノ特別關係ノツデアリマス、此懸案ヲ解決スル爲ニ

ソレハ對露關係ノ一部デアリマス、全面的ニ對露關係ヲ見マス時ニ、吾々ハ決シテ樂モ——ソレモ必要デアリマスケレドモ、私ハモット大切ナルコトガアルト思ヒマス、ソレカラ元利會計十億圓ニ垂ントシテ居ル舊借款ノ整理ヲ行フコトガ最モ必要デアルト思ヒマス、是ハ列國竝ニ日本ガ取扱ハレテハ困ル所ノ日支間ノ特別關係ノツデアリマス、此懸案ヲ解決スル爲ニ

豫言者ノヤウナコトヲ申シマシタケレドモ、此言ガ廣田外相一個ノ「ドグマ」ナラバ宜イケレドモ、帝國ノ外務大臣ノ責任アル言ト致シマシテハ、私ハ受取レナイ、若シ本當ニソレヲ證明スル御意思ガアルナラバ、世界ノ諸情勢ハ勿論、東洋ノ諸情勢ニ對シテ、予ノ在任中ハ戰爭來ラズトスル諸情勢ヲ茲ニ明ニ述べテ貰ヒタ、此處ニ外務大臣ハ居リマセヌガ、他日ノ機會ニ於テ此點ニ付テ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマスソレカラ特ニ此外交豫算ニ付テ大藏大臣ノ御意見ヲ伺ッテ置キマス、此外交第一主義ハ、軍部ヲ牽制スル爲ノ方便ニ、前内閣ニ於テ高橋サンハ此言葉ヲ御使ヒニナッタノデアラウト私ハ思フ、所ガ實際ハドウデアルカト言ヘバ、外務豫算ガ之ニ伴ハナイ、サウシテ外交ハ北鐵交渉ノ成功ヲ除イタナラバ、空宣傳ト空廣告デ、事實ハ伴ッテ居ナイ、ソレハ何故デアルカト言ヘバ、外交機能ノ活動ト云フモノガ滑カデナク、又力ガ伴ハナイカラデアルガ、ソレハドウシテモ豫算關係デアルト思フ、細カイ豫算デ縛ッテ、ドウシテ此非常時ノ外交ガ出來マスカ、デアリマスカラ廣田外務大臣ラシテ、外交第一主義ノ下ニ國防ヲ背景トシテ、ドンドン戰ハズシテ外交戰ニ勝ツト云フダケノ仕事ヲヤラセヨウト思フナラバ、大藏大臣ハモット／＼外務省ノ請求豫算ニ對シテ、私ハ同情ヲ有チ、應諾スルノ必要ガアルト思フノデアリマス、是ダケヲ御答ラ願ヒマス

(國務大臣大角岑生君登壇)

○國務大臣(大角岑生君) 畑君ヨリノ私ニ對スル御質問ニ御答致シマス、先づ第一ニ御尋ニナリマシタノハ、平等權ヲ恪守スルヤ否ヤト云フ御尋ト拜シマス、此軍縮會議ニ對スル方針ニ付キマシテハ、機會ノアル度毎ニ申述ベマシタ通り、國防ノ安全ヲ確保シテ、國民負擔ノ輕減ヲ圖リ、國際平和ノ増進ニ寄與セントスルモノナルコトハ、申ス迄モナライ次第デアリマス、而シテ是ガ爲ニハ各國ノ保有シ得ベキ最高限度ヲ設定スルコトヲ要スルト云フコトヲ、始終申シテ居ルノデアリマス、即チ共通最高限度デアリマスカラ、是ハ平等ニナルノデアリマス、此主義ハ何處マデモ恪守スル考デアリマス、而シテ其程度如何ト云フコトニ關シマシテハ、目下豫備交渉中止ノ場合デアリ、又遠カラズ本會議モ開カレルコト、思ヒマスカラ、其程度ニ關シテハ遺憾ナガラニナリマシタ第一ノ問題ヘ、銃後ノ國防ニ於テ缺陷ガアルヤウニ思ハレル、將來此點ニ付テドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカト云フ御質疑ト存ジマス、大體今日ノ國防狀態ニ於キマシテ、戰線ノ後方ニ於ケル國防ノ點ガ、所謂現代ノ國防ノ様式ニ十分備ツテ居ラナリト云フコトハ、私共モ痛感シテ居ル所デアリマス、從來ト雖モ屢々機會アル毎ニ其點ヲ力説致シテ居リマスルガ、今後ニ於キマシテモ、是等ノ點ニ關シマシテハ各關係大臣等トモ協議ヲ致シ、其完備センコトヲ希望致シテ居リマス、第二ノ御質疑ハ、對滿ノ投資ヲ大藏大臣ハ警メテ居ラレルヤウデアルガ、對滿事務局總裁トシテノ考ハドウカ、斯ウ云フコトニ拜シマシタ、大藏大臣ノ御說モ、對滿ノ投資ヲ悉ク制限シテ居ラレルノデハナクシテ、所謂放漫ナル投資ヲ戒メテ居ラレルコト、私ハ考ヘテ居リマス、隨テ將來滿洲ノ堅實ナル發達ニ資スル堅實ナル投資ニ付シテハ、之ヲ止メルト云フヤウナ意味ハナイモノト信ジテ居リマス、次ニ外國ノ投資ニ付テ、ドウ云フ風ニ御尋ニナリマシタノハ、平等權ヲ恪守スルヤ否ヤト云フ御尋ト拜シマス、此軍縮會議ニ對スル方針ニ付キマシテハ、機會ノアル度毎ニ申述ベマシタ通り、國防ノ安全ヲ確保シテ、國民負擔ノ輕減ヲ圖リ、國際平和ノ増進ニ寄與セントスルモノナルコトハ、申ス迄モナライ次第デアリマス、而シテ是ガ爲ニハ各國ノ保有シ得ベキ最高限度ヲ設定スルコトヲ要スルト云フコトヲ、始終申シテ居ルノデアリマス、即チ共通最高限度デアリマスカラ、是ハ平等ニナルノデアリマス、而シテ其程度如何ト云フコトニ關シマシテハ、目下豫備交渉中止ノ場合デアリ、又遠カラズ本會議モ開カレルコト、思ヒマスカラ、其程度ニ關シテハ遺憾ナガラニナリマシタ第一ノ問題ヘ、銃後ノ國防ニ於テ缺陷ガアルヤウニ思ハレル、將來此點ニ付テドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカト云フ御質疑ト存ジマス、大體今日ノ國防狀態ニ於キマシテ、戰線ノ後方ニ於ケル國防ノ點ガ、所謂現代ノ國防ノ様式ニ十分備ツテ居ラナリト云フコトハ、私共モ痛感シテ居ル所デアリマス、從來ト雖モ屢々機會アル毎ニ其點ヲ力説致シテ居リマスルガ、今後ニ於キマシテモ、是等ノ點ニ關シマシテハ各關係大臣等トモ協議ヲ致シ、其完備センコトヲ希望致シテ居リマス、第二ノ御質疑ハ、對滿ノ投資ヲ大藏大臣ハ警メテ居ラレルヤウデアルガ、對滿事務局總裁トシテノ考ハドウカ、斯ウ云フコトニ拜シマシタ、大藏大臣ノ御說モ、對滿ノ投資ヲ悉ク制限シテ居ラレルノデハナクシテ、所謂放漫ナル投資ヲ戒メテ居ラレルコト、私ハ考ヘテ居リマス

ト、結局吾々ノ意見ガ通ルヤウニ、飽マデス、隨テ將來滿洲ノ堅實ナル發達ニ資スル堅實ナル投資ニ付シテハ、之ヲ止メルト云フヤウナ意味ハナイモノト信ジテ居リマス、次ニ外國ノ投資ニ付テ、ドウ云フ風ニ御尋ニナリマシタノハ、平等權ヲ恪守スルヤ否ヤト云フ御尋ト拜シマス、此軍縮會議ニ對スル方針ニ付キマシテハ、機會ノアル度毎ニ申述ベマシタ通り、國防ノ安全ヲ確保シテ、國民負擔ノ輕減ヲ圖リ、國際平和ノ増進ニ寄與セントスルモノナルコトハ、申ス迄モナライ次第デアリマス、而シテ是ガ爲ニハ各國ノ保有シ得ベキ最高限度ヲ設定スルコトヲ要スルト云フコトヲ、始終申シテ居ルノデアリマス、即チ共通最高限度デアリマスカラ、是ハ平等ニナルノデアリマス、而シテ其程度如何ト云フコトニ關シマシテハ、目下豫備交渉中止ノ場合デアリ、又遠カラズ本會議モ開カレルコト、思ヒマスカラ、其程度ニ關シテハ遺憾ナガラニナリマシタ第一ノ問題ヘ、銃後ノ國防ニ於テ缺陷ガアルヤウニ思ハレル、將來此點ニ付テドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカト云フ御質疑ト存ジマス、大體今日ノ國防狀態ニ於キマシテ、戰線ノ後方ニ於ケル國防ノ點ガ、所謂現代ノ國防ノ様式ニ十分備ツテ居ラナリト云フコトハ、私共モ痛感シテ居ル所デアリマス、從來ト雖モ屢々機會アル毎ニ其點ヲ力説致シテ居リマスルガ、今後ニ於キマシテモ、是等ノ點ニ關シマシテハ各關係大臣等トモ協議ヲ致シ、其完備センコトヲ希望致シテ居リマス、第二ノ御質疑ハ、對滿ノ投資ヲ大藏大臣ハ警メテ居ラレルヤウデアルガ、對滿事務局總裁トシテノ考ハドウカ、斯ウ云フコトニ拜シマシタ、大藏大臣ノ御說モ、對滿ノ投資ヲ悉ク制限シテ居ラレルノデハナクシテ、所謂放漫ナル投資ヲ戒メテ居ラレルコト、私ハ考ヘテ居リマス

ス、隨テ將來滿洲ノ堅實ナル發達ニ資スル堅實ナル投資ニ付シテハ、之ヲ止メルト云フヤウナ意味ハナイモノト信ジテ居リマス、次ニ外國ノ投資ニ付テ、ドウ云フ風ニ御尋ニナリマシタノハ、平等權ヲ恪守スルヤ否ヤト云フ御尋ト拜シマス、此軍縮會議ニ對スル方針ニ付キマシテハ、機會ノアル度毎ニ申述ベマシタ通り、國防ノ安全ヲ確保シテ、國民負擔ノ輕減ヲ圖リ、國際平和ノ増進ニ寄與セントスルモノナルコトハ、申ス迄モナライ次第デアリマス、而シテ是ガ爲ニハ各國ノ保有シ得ベキ最高限度ヲ設定スルコトヲ要スルト云フコトヲ、始終申シテ居ルノデアリマス、即チ共通最高限度デアリマスカラ、是ハ平等ニナルノデアリマス、而シテ其程度如何ト云フコトニ關シマシテハ、目下豫備交渉中止ノ場合デアリ、又遠カラズ本會議モ開カレルコト、思ヒマスカラ、其程度ニ關シテハ遺憾ナガラニナリマシタ第一ノ問題ヘ、銃後ノ國防ニ於テ缺陷ガアルヤウニ思ハレル、將來此點ニ付テドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカト云フ御質疑ト存ジマス、大體今日ノ國防狀態ニ於キマシテ、戰線ノ後方ニ於ケル國防ノ點ガ、所謂現代ノ國防ノ様式ニ十分備ツテ居ラナリト云フコトハ、私共モ痛感シテ居ル所デアリマス、從來ト雖モ屢々機會アル毎ニ其點ヲ力説致シテ居リマスルガ、今後ニ於キマシテモ、是等ノ點ニ關シマシテハ各關係大臣等トモ協議ヲ致シ、其完備センコトヲ希望致シテ居リマス、第二ノ御質疑ハ、對滿ノ投資ヲ大藏大臣ハ警メテ居ラレルヤウデアルガ、對滿事務局總裁トシテノ考ハドウカ、斯ウ云フコトニ拜シマシタ、大藏大臣ノ御說モ、對滿ノ投資ヲ悉ク制限シテ居ラレルノデハナクシテ、所謂放漫ナル投資ヲ戒メテ居ラレルコト、私ハ考ヘテ居リマス

マシテハ、中々外ニ向ッテ手ヲ出スト言ツタヤウナ餘力ハナク、自ラノ充實ニ日モ是レ足ラヌト云フ狀況ダト考ヘテ居リマス、大體之ヲ以テ御答ト致シマス(拍手)

(國務大臣岡田啓介君登壇)

○國務大臣(岡田啓介君) 畑君ニ御答致シマス、外交ノ事、殊ニ條約ヲ廢棄スルト云フヤウナコトハ、非常ニ重大ナル問題デアリマシテ、豫想ヲ設ケテ論議スペキモノデナイト思ヒマス、唯私ハ日華兩國ハ親善ナラザルベカラズト考ヘテ居ルノデアリマス、幸ニ蔣介石氏モ日華親善ナラザルベカラズトノ考ヲ起シマシテ、ソレニ向ッテ努力ヲシテ居ルノデアリマス、唯此問題ハ兩國トモ誠意ヲ以テヤラナケレバイケナイト考ヘテ居リマス、又之ニ對シテ他ノ國カラ妨害ガ起ラウトハ考ヘテ居リマセヌ、次ニ支那ノ共產軍討伐ニ付テ、私ニモ御尋ガアリマシタガ、是モ蔣介石氏ノ努力ニ依リマシテ、中央カラハ段々退ケテ居ルノデアリマス、又支那ノ赤化ニ付キマシテハ、日本トシテハ大ニ考慮スベキモノガアルト考ヘテ居リマス(拍手)

(國務大臣高橋是清君登壇)

○國務大臣(高橋是清君) 御答ヲ致シマス、何ヲ答ヘテ宜イカ、御質問ノ要旨ガ分ラナカッタガ、私ハ外交ト云フモノハ金デ行クモノヂヤナイ、外務省ノ豫算ガ少イカラト云フ攻撃デアルガ、先づ第一ニ外交ノ事ニ付テハ先ニ外務大臣ニ問ハレテ、ソレカラ若シ金ガナニ爲ニ、斯ウ云フコトガ出來ヌト云

フヤウナ、必要ナ事ガ控ヘテ居ラレルト云フヤウナコトガアルナラバ、ソレニ付テ御豫算ノ上カラ見テ金ガ少イト言フ、ドノ點ガ少イノカ、ソコガ分ラナイ、先づ外交ト云フコトハ、今日國際間ニ於テ互ニ疑ヲ解キ、理會ヲシテ、サウシテ平和ヲ進メルト云フコトガ、第一ノ外交ノ方針デナケレバナラヌ、金ヲ以テ外交ノ間ヲ巧クヤルナント云フコトハ、是ハ今日ハ行ハレナインオデス、ソレデ高橋財政ハイケナイト云フ質問者ノ考ダガ、ソコハマア勝手ニ仰シヤルガ宜シイ、第一其譯ガ分ラナインダ、私ニ尋ネラレタ譯ガ分ラナイ、金ガ少イカラ外交ガ巧ク行カヌト言フ、今日ノ外交ノ有様ヲ御覽ナサツタラ、日ニ日ニ好轉シテ居ルノハ、是ハ金ノ力デヤナイデヤナイカ、今日世界ノ外交官、政治家ノ最モ憂ヘル所ハ、ドウモ國々ニ依ジテハ、マダ經濟本位ノ外交ヲ主タガ、是モ蔣介石氏ノ努力ニ依リマシテ、中央カラハ段々退ケテ居ルノデアリマス、又支那ノ赤化ニ付キマシテハ、日本トシテハ大ニ考慮スベキモノガアルト考ヘテ居リマス(拍手)

○國務大臣高橋是清君登壇) 御答ヲ致シマス、何ヲ答ヘテ宜イカ、御質問ノ要旨ガ分ラナカッタガ、私ハ外交ト云フモノハ金デ行クモノヂヤナイ、外務省ノ豫算ガ少イカラト云フ攻撃デアルガ、先づ第一ニ外交ノ事ニ付テハ先ニ外務大臣ニ問ハレテ、ソレカラ若シ金ガナニ爲ニ、斯ウ云フコトガ出來ヌト云

フヤウナ、必要ナ事ガ控ヘテ居ラレルト云フヤウナコトガアルナラバ、ソレニ付テ御豫算ノ上カラ見テ金ガ少イト言フ、ドノ點ガ少イノカ、ソコガ分ラナイ、先づ外交ト云フコトハ、今日國際間ニ於テ互ニ疑ヲ解キ、理會ヲシテ、サウシテ平和ヲ進メルト云フコトガ、第一ノ外交ノ方針デナケレバナラヌ、金ヲ以テ外交ノ間ヲ巧クヤルナント云フコトハ、是ハ今日ハ行ハレナインオデス、ソレデ高橋財政ハイケナイト云フ質問者ノ考ダガ、ソコハマア勝手ニ仰シヤルガ宜シイ、第一其譯ガ分ラナインダ、私ニ尋ネラレタ譯ガ分ラナイ、金ガ少イカラ外交ガ巧ク行カヌト言フ、今日ノ外交ノ有様ヲ御覽ナサツタラ、日ニ日ニ好轉シテ居ルノハ、是ハ金ノ力デヤナイデヤナイカ、今日世界ノ外交官、政治家ノ最モ憂ヘル所ハ、ドウモ國々ニ依ジテハ、マダ經濟本位ノ外交ヲ主タガ、是モ蔣介石氏ノ努力ニ依リマシテ、中央カラハ段々退ケテ居ルノデアリマス、又支那ノ赤化ニ付キマシテハ、日本トシテハ大ニ考慮スベキモノガアルト考ヘテ居リマス(拍手)

○烟桃作君(煙桃作君登壇) 御答ヲ致シマス、何ヲ答ヘテ宜イカ、御質問ノ要旨ガ分ラナカッタガ、私ハ外交ト云フモノハ金デ行クモノヂヤナイ、外務省ノ豫算ガ少イカラト云フ攻撃デアルガ、先づ第一ニ外交ノ事ニ付テハ先ニ外務大臣ニ問ハレテ、ソレカラ若シ金ガナニ爲ニ、斯ウ云フコトガ出來ヌト云

フヤウナ、必要ナ事ガ控ヘテ居ラレルト云フヤウナコトガアルナラバ、ソレニ付テ御豫算ノ上カラ見テ金ガ少イト言フ、ドノ點ガ少イノカ、ソコガ分ラナイ、先づ外交ト云フコトハ、今日國際間ニ於テ互ニ疑ヲ解キ、理會ヲシテ、サウシテ平和ヲ進メルト云フコトガ、第一ノ外交ノ方針デナケレバナラヌ、金ヲ以テ外交ノ間ヲ巧クヤルナント云フコトハ、是ハ今日ハ行ハレナインオデス、ソレデ高橋財政ハイケナイト云フ質問者ノ考ダガ、ソコハマア勝手ニ仰シヤルガ宜シイ、第一其譯ガ分ラナインダ、私ニ尋ネラレタ譯ガ分ラナイ、金ガ少イカラ外交ガ巧ク行カヌト言フ、今日ノ外交ノ有様ヲ御覽ナサツタラ、日ニ日ニ好轉シテ居ルノハ、是ハ金ノ力デヤナイデヤナイカ、今日世界ノ外交官、政治家ノ最モ憂ヘル所ハ、ドウモ國々ニ依ジテハ、マダ經濟本位ノ外交ヲ主タガ、是モ蔣介石氏ノ努力ニ依リマシテ、中央カラハ段々退ケテ居ルノデアリマス、又支那ノ赤化ニ付キマシテハ、日本トシテハ大ニ考慮スベキモノガアルト考ヘテ居リマス(拍手)

○烟桃作君(煙桃作君登壇) 御答ヲ致シマス、何ヲ答ヘテ宜イカ、御質問ノ要旨ガ分ラナカッタガ、私ハ外交ト云フモノハ金デ行クモノヂヤナイ、外務省ノ豫算ガ少イカラト云フ攻撃デアルガ、先づ第一ニ外交ノ事ニ付テハ先ニ外務大臣ニ問ハレテ、ソレカラ若シ金ガナニ爲ニ、斯ウ云フコトガ出來ヌト云



ト議決致候此段及報告候也

昭和十年三月十一日

委員長 岡田 忠彦  
衆議院議長濱田國松殿

(別紙)

(小字及一ハ委員會修正)

臨時利得稅法案中左ノ通修正ス

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往

事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ

於テ其ノ超過額中年二千圓ヲ控除シタ

ル金額ヲ以テ法人ノ利得金額トス

前項利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各

號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ

依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一 何レノ既往事業年度ニ於テモ利益

ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利

益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ

對シ年百分ノ七未滿ナルトキハ既往

事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百

分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二 法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七

年一月一日以後ニ於テ終了シタルト

キハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年

百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金

額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益ト

ス

三 現事業年度ノ資本金額ガ既往事業

年度ノ平均資本金額ニ對シ増減アル

トキハ既往事業年度ノ平均資本金額

ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年

度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金

額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益ト

ス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適

用ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ヲ

既往事業年度ノ平均資本金額ト看做

ス

四 現事業年度ノ期間ガ既往事業年度

ノ期間ト異ルトキハ現事業年度ノ月

數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ

利益ヲ計算ス

本法施行後資本金額ニ增加アリタル場合ニ

於テ其ノ資本增加ガ臨時利得稅通脫ノ目的

ニ出デタルモノト認メラルトキハ前項第

三號ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ增加シタル資本金額ニ付前項第二號ノ

規定ヲ準用シ其ノ平均利益ヲ計算ス

本法ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和

十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事

業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ

昭和六年十二月三十一日以前二年内ニ

終了シタル各事業年度ヲ謂フ

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ

各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金

額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以

テ之ヲ計算ス

前項ニ於テ積立金額ト稱スルハ積立金

其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ利

益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ

有セザル法人ノ各事業年度ノ資本金額

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

昭和七年一月一日以後本法施行ニ至ル迄ノ

間ニ資本金額ヲ減少シタル法人ノ各事業年

度ノ資本金額ハ第四條第二項第三號ノ規定

ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ減資前ノ資

本金額ニ依リ之ヲ計算ス

第九條 個人ノ利益ガ昭和六年以前三年

ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ

起過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以

テ個人ノ利得金額トス

營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續シタルト認ムベキ

事實アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ

前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト

看做ス

營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケ

ル平均利益ノ計算ハ命令ノ定ムル所ニ

依ル

利得金額計算ノ場合ニ於テ昭和六年以

前二年ノ平均利益三千圓未滿ナルトキ

又ハ其ノ平均利益ナキトキハ三千圓ヲ

以テ平均利益トス

ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

百分ノ十トス

一 法人ノ利得 利得金額百分ノ十

二 個人ノ利得 利得金額百分ノ七・五

附 則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含

ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十

四年ヨリ之ヲ適用ス

本法ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ

昭和十二年十二月三十一日ヲ含ム事業年度分

限り個人ニ付テハ昭和十二年分限リトス

第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭

和十年ニ限リ四月二十五日トス

明治四十年法律第二十一號第一條第一項

ニ左ノ一號ヲ加フ

六 臨時利得稅

附帶決議

政府ハ本法ノ施行ニ當リ産業ノ振展ヲ阻

害セザルコトニ留意スルト共ニ速ニ窮迫

セル地方財政補整ノ途ヲ講ズベシ

右決議ス

報告書

一日日本銀行納付金法中改正法律案(政府

提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十年三月十一日

委員長 岡田 忠彦

衆議院議長濱田國松殿

(岡田忠彦君登壇)

○岡田忠彦君 本委員會ハ、曩ニ御報告申

上ガマシタ通リニ、一月二十六日第一回ノ

會議ヲ起シマシテ、爾來昨三月十一日ニ至

ル迄、前後十九回ノ會議ヲ重ねタ次第デア

リマスル、此委員會ニ付託サレタ案件ハ十

件デアリマシテ、其中六件ハ既ニ御報告済

デアリマス、只今御報告申上ゲルノハ残り

四件デアリマス、此委員會ノ審議ニ付テ、

世間或ハ審議ヲ遲延シテ居ルデハナイカト

云フ聲ヲ聞キマスガ、併ナガラ此案件ハ孰レモ重要ナル案件デアリ、殊ニ利得税ノ如キハ、多數ノ質疑ノ點ガアリマシテ、且又審議中ニ於ケル大臣ノ答辯ノ態度ニ付テ、特ニ政府ニ警告ヲ與ヘタコトモアリマス、又材料ニ付テモ、其提出ガ甚ダ不満デアッタノデアリマシテ、現ニ今日ニ於テモ、未だ災害豫算ニ關スル基礎的ノ材料ノ十分ナ付テモ、御辯明ガナイト云フ有様デアリマス、且又貴族院回付後ニ於テハ、國務大臣ノ出席ヲ求メルコトガ不便デアリマシテ、其爲ニモ遲レテ居ツタノデアリマスガ、特ニ審議ヲ通ジテ私ノ痛感致セシコトハ、一面ニ政黨トノ關係ガ現内閣ノ如キモノニアリ、他面ニ官場ノ祕密主義ヲ満幅ニ漂ハシテ居ルコト、現内閣ノ如キモノニアリマシテハ、審議ノ遲延スルコトハ又當然デアリマス、即チ吾々ハ法案提出ノ瞬間ニ於テ、初メテ審議ヲ始メルモノデアリマシテ、平素ニ於テ政府ガ何ヲ企ンデ居ルノカ、何ヲ考ヘテ居ルノデアルカ、如何ナル材料ニ依リテ、如何ナル研究ヲ爲シテ居ルモノデアルカ、一切不明デアリマス、即チ何等ノ豫備の連絡ガ政黨トノ間ニナイト云フコトガ、法案ノ審議ヲ遲ラス所ノ一大原因デアルト云フコトヲ痛感致シタノデアリマス（拍手）斯ル狀態ノ下ニアリナガラ、本案ハ別ト致シテモ、會期逼迫セル際ニ、ドシトト多數ノ重要法案ヲ、政府ハ大膽ニ出シテ居ルヤウデアリマスガ、私ハ其政府ノ勇氣

ニ對シテ深ク感嘆ラスモノデアリマス、併ナガラ本審議ノ遲レタル大半ノ理由ハ、ヤハリ此點ニ存スルコトヲ特ニ御報告申上ゲル次第デアリマス質問應答ノ詳細ハ、既ニ速記錄ニ依リマシテ諸君ハ御承知ト存ジマス、仍テ只今ハ御質問應答ノ要點ノミヲ掲ゲテ、御参考ニ供スル次第デアリマス、利得税ニ付キマシテハ、税ノ目標、即チ收入主義ニ依ツタモノデアリマスカ、或ハ負擔ノ公平ヲ期スル爲ニシタノデアルカ、即チ政府ノ收入ヲ補フト云フ點ニ重キヲ置キシヤ、或ハ此時局ニ對スル利得ノ關係ガ不公平デアル、仍テ此税目ニ依ツテ負擔ヲ公平ニスルト云フ趣旨デアルカト云フコトノ質問ガ、第一ノ主ナル點デアリマス、就中軍需工業、輸出工業ノミニ對シテ重キヲ課スルヤウデアルガ、一面ニ於テ時局ノ影響ノ爲ニ、株式若クハ公債ノ値上リ、或ハ所謂弗買等ノ關係ノ爲ニ巨利ヲ博シタ者ガアルガ、是等トノ均衡ハ如何デアルカト云フ質問ガアッタノデアル、遂ニ政府ハ政治的ノ意味ヲ區別スルコトガ、主ナル點デアルト云フ答辯ニナツタノデアリマシテ、然ラバ政治的ニ見テ、非常時局ノ爲ニ被害ヲ被ツテ居ル農村ハ甚ダ均衡ヲ得ヌデハナイカト云フ質問、其他ノ窮乏セル部分ニ對シテ、此税ヲ向ケルカト云フ質問ニ對シテハ、政府ハ明確ナル答辯ハ致シマセヌ、次ニ利得ノ控除基準ニ關スル質問、又基準年度ニ關スル質問、資本増減ノ場合ノ取扱ガ

不公平デアルニ依ツテ、之ヲ如何ニ修正スルカト云フ質問、個人、法人ノ間ニ同一ノ稅率ヲ付キマシテ、命令要綱ノ見込ヲ出

率ヲ課スルコトハ甚ダ不當デハナイカト云フ質問、又觀方ヲ變ヘテ、國家のノ恩恵ニ依ツテ居ルモノ、即チ爲替安若クハ軍事豫算ニ付キマシテ諸君ハ御承知ト存ジマス、仍テ只今ハ御質問應答ノ要點ノミヲ掲ゲテ、御参考ニ供スル次第デアリマス質問ハ、既ニ速記錄ニ依リマシテ諸君ハ御承知ト存ジマス、仍テ只今ハ御質問應答ノ要點ノミヲ掲ゲテ、御参考ニ供スル次第デアリマス、利得税ニ付キマシテハ、税ノ目標、即チ收入主義ニ依ツタモノデアリマスカ、或ハ負担ノ公平ヲ期スル爲ニシタノデアルカ、即チ政府ノ收入ヲ補フト云フ點ニ重キヲ置キシヤ、或ハ此時局ニ對スル利得ノ關係ガ不公平デアル、仍テ此税目ニ依ツテ負担ヲ公平ニスルト云フ趣旨デアルカト云フコトノ質問ガ、第一ノ主ナル點デアリマス、就中軍需工業、輸出工業ノミニ對シテ重キヲ課スルヤウデアルガ、一面ニ於テ時局ノ影響ノ爲ニ、株式若クハ公債ノ値上リ、或ハ所謂弗買等ノ關係ノ爲ニ巨利ヲ博シタ者ガアルガ、是等トノ均衡ハ如何デアルカト云フ質問ガアッタノデアル、遂ニ政府ハ政治的ノ意味ヲ區別スルコトガ、主ナル點デアルト云フ答辯ニナツタノデアリマシテ、然ラバ政治的ニ見テ、非常時局ノ爲ニ被害ヲ被ツテ居ル農村ハ甚ダ均衡ヲ得ヌデハナイカト云フ質問、其他ノ窮乏セル部分ニ對シテ、此税ヲ向ケルカト云フ質問ニ對シテハ、政府ハ明確ナル答辯ハ致シマセヌ、次ニ利得ノ控除基準ニ關スル質問、又基準年度ニ關スル質問、資本増減ノ場合ノ取扱ガ

不公平デアルニ依ツテ、之ヲ如何ニ修正スルカト云フ質問、個人、法人ノ間ニ同一ノ稅率ヲ付キマシテ、命令要綱ノ見込ヲ出

率ヲ課スルコトハ甚ダ不當デハナイカト云フ質問、又觀方ヲ變ヘテ、國家のノ恩恵ニ依ツテ居ル場合ト、總テガ新會社トナル二ツノ場合ニ付キマシテ、此計算方法異ニシテ居ルノデアルガ、併ナガラ是ハ單ニ商法ノ手續上ノ相違ニ過ギナイモノデアッテ、其内容ニ於テ區別ハナイノデアル、然ラバ之ヲ同ニ依ツテ、力メテ其御趣旨ニ副フヤウニ命令要綱ヲ編成スルト云フ御返事ガアツタノデアリマス、是ハ特ニ申上ガテ置ク、第二ノ小笠原君ノ御質問ハ、所得稅、營業收益稅ノ兩稅ノ附加稅ト云フモノガ、本法施行ノ爲ニ減ズルデハナイカ、即チ地方ノ財政ハ、此爲ニ却テ減額ヲ來スデハナイカ、其額凡ソ三百五十万圓デアリマス、是ハ政府ハ如何ニ思ツテ居ルカト云フ質問デアッタノデアルガ、政府ハ其事實ハ認メル、併ナガラ一方ニハ自然増ガアルノデアリマスカラシテ、是ハ致方ノナイコトデアル、斯様ニ申シテ居ル、即チ地方ノ財政ニ對シテハ、相當ヲ斟酌ヲ加ヘテ欲シイト云フコトス政府ハ冷淡デアルト云フコトヲ、茲ニ申上ゲテ置ク譯デアリマス、第三ノ御質問ハ、「ストライキ」ノアツタ場合ニ、會社ノ利益ガ減ツテ居ル、ソレニ對シテハ課稅ノ場合ニ於テ相當ヲ斟酌ヲ加ヘテ欲シイト云フコトデアリマシテ、政府モ其意ヲ諒トシ、法規ニ許ス範圍ニ於テ、力メテ其緩和ヲ圖ルト

云フコトヲ答へテ居リマス、更ニ所謂赤字公債ニ付テノ問答デアリマスガ、第一ニ國際貸借ノ關係ガ主ナル問題トナツタ、即チ十年度ニ於テ海外拂ハ幾ラ程アル見込デアリ、ソレガ如何ニ爲替ノ値段ニ影響スルノアルカト云フコトデアル、第二ニハ電力會社ノ外債ノ償還、之ニ對シテ政府ハ禁止ヲ致スヤウナ意圖ガアルヤウデアルガ、併ナガラ此禁止如何ト云フコトハ、曩ニ獎勵ヲ加ヘテ外債ヲ募ラスト云フ程度ニ至ッテ居ツタガ、今日政府ノ政策ノ下ニ損害ヲ蒙ルコトハ甚ダ氣ノ毒デアル、會社ノ經濟ノ上ニ重大影響ノアルコトデアルカラシテ、慎重ノ考慮ヲ要スベシト云フ質問、又北滿鐵道ノ契約成立ノ上、其支拂ト爲替相場トノ關係、是ガ主ナル應答デアッタノデアリマス、更ニ國難ニ對スル不安脅威ノ觀念ガ、公債ノ消化力ノ上ニ大キナル關係ガアル、之ニ付テ政府ハ如何ナル考デアルカ、次ニハ公債ノ低利借換ノ時期ニ付テノ應答、發行餘力ニ付テノ應答、減債基金ニ關スル問答、是ガ主ナル公債ニ關スル問答デアリマス

更ニ一般的ノ質問トシテハ、満洲國防費分擔金ノ本質論ガアッタノデアリマス、更ニ満洲國ヘ資本ノ誘致ヲ爲ス爲ニ、今日満洲國ニ行ハレテ居ル經濟統制ト云フモノハ、甚ダ此豫算ノ誘致ニ妨ゲアルデハナイカト云フ疑問的ノ御質問、満洲事件費ト爲替相場トノ關係、軍事費ト勞働賃銀、其他雇傭條件改善ニ關スル政府ノ見込、是ガ主ナモノデアリマス

斯ノ如ク致シマシテ昨日討論ニ入リマシタ、政友會ヲ代表シテ松村君ヨリ法文ノ修正竝ニ附帶決議ノ提案ガアリマシタ、國民同盟ヲ代表シテ中村繼男君ヨリテ、國民同盟ヲ提出サレマシタ、第一條文修正ノ動議ガ提出サレマシタ、第一控室ノ龜井君ヨリハ原案賛成ノ御發議ガアリマシタ、民政黨ハ前田君ヨリ、政友會ノ修正點ニ付キ政府ノ意見ヲ御伺相成ツタノアル、斯ノ如クシテ岡田君ヨリ本會議マデ意見ヲ留保スルト云フコトデ、何等ノ意見ノ發表ハナカズタノデアリマス、採決ノ結果、國民同盟ノ案ハ少數ヲ以テ敗レマシタ、政友會ノ修正竝ニ決議案ハ成立致シタノデアリマスルガ、此決議案竝ニ修正ノ點ハ、既ニ諸君ノ御手許ニ配付シテアリマスカラ、重ネテ茲ニ說クコトヲ省略致シマス、又國民同盟ノ提案ニ付テハ、何レ代表的ノ御討議ガアリマセウカラ、私ハ之ヲ省略シテ其方ニ讓リタイト思フノデアリマス、其他修正以外ノ條文ニ付テハ、民政黨ヲ除キ、満場ノ同意ヲ以テ成立致シタノデアリマス、希望致シマス（拍手）

○議長（濱田國松君） 只今委員長ノ御報告ニナリマシク中、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案（第一讀會（確定議））、昭和七年法律第一號中改正法律案、及日本銀行納付金法中改正法律案、委員長報告可決デアリマス、臨時利得稅法案ハ修正デアリマス、仍テ先づ委員長報告可決ノ三案ニ付テ審議ヲ進メ、次デ臨時利得稅委員長報告通リ可決確定致サレマシタ（拍手）

法案ノ審議ヲ致シタイト存ジマス、即チ昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、昭和七年法律第一號中改正法律案、日本銀行納付金法中改正法律案外三件 第二讀會 第一讀會

五八〇

法案ノ審議ヲ致シタイト存ジマス、即チ昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、昭和七年法律第一號中改正法律案、日本銀行納付金法中改正法律案外三件 第二讀會 第一讀會 第二讀會

手）――次ニ臨時利得稅法案ノ審議ニ入りマス、本案ニ對シテハ野田文一郎君外五名ヨリ成規ニ依リ修正案ガ提出サレテ居リマス、討論ヘ便宜上第二讀會ニ於テ之ヲ許スコトニ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（濱田國松君） 御異議ナシト認メマス、仍テ右三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長（濱田國松君） 〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（濱田國松君） 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長（濱田國松君） 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長（濱田國松君） 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長（濱田國松君） 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長（濱田國松君） 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレシトヲ望ミマス

○議長（濱田國松君） 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長（濱田國松君） 〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（濱田國松君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長（濱田國松君） 〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（濱田國松君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長（濱田國松君） 〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（濱田國松君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長（濱田國松君） 〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（濱田國松君） 第二讀會 第二讀會

臨時利得稅法案（政府提出）ニ對スル修正案（野田文一郎君外五名提出）

臨時利得稅法案（政府提出）ニ對スル修正案（野田文一郎君外五名提出）

第四條第二項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ増減アルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乗ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス但シ本法施行後ニ増加シタル資本

金額中法人ノ積立金ヲ以テシタル部  
分ヲ除キタル金額ニ對スル平均利益  
八年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタ  
ル金額ニ依ルモノトス  
右ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適用  
ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ヲ既  
往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス  
第十四條 臨時利得税ハ左ノ税率ニ依リ  
之ヲ賦課ス

甲 法人ニ在リテハ  
一 既往事業年度ノ平均利益ヲ年百  
分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル利  
得金額ニ付テハ百分ノ七・五  
二 既往事業年度ノ平均利益ヲ年百  
分ノ七ヲ超エ百分ノ十以内ノ割合  
ヲ以テ算出シタル利得金額ニ付テ  
ハ百分ノ十  
三 既往事業年度ノ平均利益ヲ年百  
分ノ七ヲ超ユル割合ヲ以テ算出シ  
タル利得金額ニ付テハ百分ノ十二  
乙 個人ニ在リテハ  
一 昭和六年以前三年ノ平均利益ガ  
六千圓以下ノモノノ利得金額ニ付  
テハ百分ノ七・五  
二 昭和六年以前三年ノ平均利益ガ  
六千圓ヲ超エ一萬圓以下ノモノノ  
利得金額ニ付テハ百分ノ十  
三 昭和六年以前二年ノ平均利益ガ  
一萬圓ヲ超ユルモノノ利得金額ニ  
付テハ百分ノ十二

（矢野庄太郎君登壇）  
○矢野庄太郎君 私ハ先づ一般論ト致シマ  
シテ、本法案ニ付テ政府原案ニ賛成致シマ  
スルガ、本法案ニ付テハ折角伸ビカケタ產  
業ノ若芽ヲ摘取ルモノデハナイカ、斯ウ云  
フヤウナ疑ガアリマス、又金融ヲ梗塞シテ  
公債發行ヲ困難ニシハシナイカト云フ危惧  
ノ念ガアルヤウデアリマス、其言フ所ヲ檢  
討致シテ見マスルニ、本稅ヲ賦課スル結果  
トシテ、保護助長ラシナクテモ宜イ産業ヲ  
保護スルコトニナリ、發達ノ途上ニアッテ、  
幼稚ナ産業デアルカラ保護シナケレバナラ  
ナイ産業ヲ保護セズシテ、ソレニ重キ稅ヲ  
課スルコトニナルト、ソレハ不適切デア  
リ、不公平デアル、斯ウ云フ風ニ論ズルノ  
デアリマス、斯様ナ反對論ノ出マス所以ヲ  
考ヘテ見ルノニ、今回ノ利得税ハ、時局ノ  
影響ヲヨリ多ク受ケル所ノ產業ニ對シテ、  
ヨリ多クノ課稅ヲスルコトニナツデ居リマ  
ス、例ヘバ紡績、瓦斯ト云フガ如キ老熟產  
業、獨占事業ニ對シテハ、時局ノ影響ガ割  
合ニ少イノデアリマスルノデ、輕クナルノ  
デアリマスルガ、鐵トカ、機械トカ、或ハ  
造船トカ、鑛山トカ、肥料、染料、藥品、  
人絹ノヤウナ重工業或ハ化學工業、方面ヲ

一郎君外五名ノ修正案ノ趣旨辯明ハ、提出  
者ヨリ省略ノ申出ガアリマス、仍テ是ヨリ  
討論ニ入りマス、通告順ニ依ッテ發言ヲ許  
シマス、委員長報告ニ反對通告——矢野庄  
太郎君  
（矢野庄太郎君登壇）  
○矢野庄太郎君 私ハ先づ一般論ト致シマ  
シテ、修正條項ニ反對ラスル者デゴザイマ  
スルガ、本法案ニ付テハ折角伸ビカケタ產  
業ノ若芽ヲ摘取ルモノデハナイカ、斯ウ云  
フヤウナ疑ガアリマス、又金融ヲ梗塞シテ  
公債發行ヲ困難ニシハシナイカト云フ危惧  
ノ念ガアルヤウデアリマス、其言フ所ヲ檢  
討致シテ見マスルニ、本稅ヲ賦課スル結果  
トシテ、保護助長ラシナクテモ宜イ産業ヲ  
保護スルコトニナリ、發達ノ途上ニアッテ、  
幼稚ナ産業デアルカラ保護シナケレバナラ  
ナイ産業ヲ保護セズシテ、ソレニ重キ稅ヲ  
課スルコトニナルト、ソレハ不適切デア  
リ、不公平デアル、斯ウ云フ風ニ論ズルノ  
デアリマス、斯様ナ反對論ノ出マス所以ヲ  
考ヘテ見ルノニ、今回ノ利得税ハ、時局ノ  
影響ヲヨリ多ク受ケル所ノ產業ニ對シテ、  
ヨリ多クノ課稅ヲスルコトニナツデ居リマ  
ス、例ヘバ紡績、瓦斯ト云フガ如キ老熟產  
業、獨占事業ニ對シテハ、時局ノ影響ガ割  
合ニ少イノデアリマスルノデ、輕クナルノ  
デアリマスルガ、鐵トカ、機械トカ、或ハ  
造船トカ、鑛山トカ、肥料、染料、藥品、  
人絹ノヤウナ重工業或ハ化學工業、方面ヲ

一郎君外五名ノ修正案ノ趣旨辯明ハ、提出  
者ヨリ省略ノ申出ガアリマス、仍テ是ヨリ  
討論ニ入りマス、通告順ニ依ッテ發言ヲ許  
シマス、委員長報告ニ反對通告——矢野庄  
太郎君  
（矢野庄太郎君登壇）  
○矢野庄太郎君 私ハ先づ一般論ト致シマ  
シテ、修正條項ニ反對ラスル者デゴザイマ  
スルガ、本法案ニ付テハ折角伸ビカケタ產  
業ノ若芽ヲ摘取ルモノデハナイカ、斯ウ云  
フヤウナ疑ガアリマス、又金融ヲ梗塞シテ  
公債發行ヲ困難ニシハシナイカト云フ危惧  
ノ念ガアルヤウデアリマス、其言フ所ヲ檢  
討致シテ見マスルニ、本稅ヲ賦課スル結果  
トシテ、保護助長ラシナクテモ宜イ産業ヲ  
保護スルコトニナリ、發達ノ途上ニアッテ、  
幼稚ナ産業デアルカラ保護シナケレバナラ  
ナイ産業ヲ保護セズシテ、ソレニ重キ稅ヲ  
課スルコトニナルト、ソレハ不適切デア  
リ、不公平デアル、斯ウ云フ風ニ論ズルノ  
デアリマス、斯様ナ反對論ノ出マス所以ヲ  
考ヘテ見ルノニ、今回ノ利得税ハ、時局ノ  
影響ヲヨリ多ク受ケル所ノ產業ニ對シテ、  
ヨリ多クノ課稅ヲスルコトニナツデ居リマ  
ス、例ヘバ紡績、瓦斯ト云フガ如キ老熟產  
業、獨占事業ニ對シテハ、時局ノ影響ガ割  
合ニ少イノデアリマスルノデ、輕クナルノ  
デアリマスルガ、鐵トカ、機械トカ、或ハ  
造船トカ、鑛山トカ、肥料、染料、藥品、  
人絹ノヤウナ重工業或ハ化學工業、方面ヲ

ニ遭遇シテ居リマス、轉換時期ニ入ッテ  
居ルコトニ氣付カナイモノデアルト私  
ハ思ヒマス、曾テ堂島ノ米相場ハ、財界ノ  
羅針盤デアツタノデアリマスルガ、其時代ハ  
疾クニ過去リマシタ、又續イテ東新ヤ大新  
ガ堂島ノ米相場ト同ジヤウニ、羅針盤デア  
ル時代ガ來タノデスガ、ソレモ將ニ去ラン  
トシツ、アルノデアリマス、左様ナ變革ヲ  
知ラナイ所ノ論デアリマス、私ハ抽象的ノ  
議論ハ出來マセヌノデ、ソレハ儲措キマシ  
テ、果シテ轉換時代ニ入ッテ居ルカドウカ、  
變革ノ兆候ハ何處ニ現レテ居ルカト云フコ  
トヲ、具體的ノ例ニ採シテ考察シテ見タイ  
ト思ヒマス

今産金會社ノ前途ガ雲ノ如キモノデアル  
カ、水ノヤウナモノデアルカ、ソレトモ前  
途有望デ、青年ノ如キモノデアルカト云フ  
コトヲ見マスルノニ、兩三年前マデ御承知  
ノ通リニ一匁ノ金ヲ掘ツテ引合フトカ引合  
ハナイトカ言ツテ居ツタノデアリマスガ、將  
來再ビ一匁五圓ダノ六圓ダノト云フ金ヲ見  
ルコトガ出來ルデセウカ、餘程勇敢ナ人デ  
ナイ限リハ、之ヲ肯定スルコトハ不可能デ  
アラウト思ヒマス(拍手)否一匁ガ五圓六圓  
ドコロカ、一匁十圓ノ金ト雖モ容易ニ考ヘ  
ルコトハ出來スト私ハ思ヒマス、政府買上  
ハ御承知ノ通リ昭和七年ニ一匁七圓臺カラ  
始マリマシテ、先頃一月ニナリマシテ一匁  
十一圓六錢デアツタノヲ、一匁五十二錢値上  
ゲラ致シマシテ、十一圓五十八錢ニナッテ  
居ルノデアリマスルガ、倫敦ノ金塊相場

ハドウカト見ルナラバ、最近ニ至ッテハ躍進  
ニ躍進ヲ續ケテ居リマス、固ヨリ其日ニ依ツ  
テ動搖ハアリマスルケレドモ、異常ノ躍進ヲ  
遂ゲテ居ルコトハ、新聞ニテ御承知ノ通り  
デゴザイマスルガ、昨今デハ一「オンス」七  
磅八志臺ニナツテ居リマス、七磅八志臺ト云  
フヤウナ金ノ一「オンス」値段ハ、破格ナ値  
段デアリマス、斯様ナ破格ナ値段ヲ基準ニ  
シテ考ヘルコトハ、或ハ突飛デアルカモ知  
レマセヌガ、假ニ此破格ナ値段ヲ基準ニシ  
テ考ヘテ見ルト、日英爲替一圓對一志二片  
ノ爲替相場デ之ヲ換算スルト、實ニ金一匁  
ハ十五圓何十錢カニナルノデアリマス、日  
本銀行ノ買上値段ハ一圓五十八錢デアリ  
マスガ、ソレヲ抜クコトハ三圓餘以上デア  
リマス、或ハ四圓近クニナルカモ分リマセ  
ヌ、斯様ナ昨今ノ破格ナ相場ハ儲措イテ、  
先頃來ノ七磅二志三志臺ヲ取リマシテモ、  
一圓對一志二片デ換算シテ一匁十四圓七八  
十錢ニナリマス、又米國ハドウカト見ルト、  
米國準備銀行ノ買上ハ一「オンス」三十五弗  
デアリマス、之ヲ對米爲替百圓對二十八弗  
ハ八分ノ三ノ相場ハ、先頃來ノ高イ對米爲替  
ノ値段デアリマスガ、ソレデ爲替相場ニテ  
ナリマス、最近ハ今申ス通リニ、磅ノ下落デ  
金塊ガ上リマシタノデ、日米爲替ガ下落シ  
テ二十八弗、或ハ二十七弗臺ニナリマシタ  
カラ、矢張金一匁ハ米國ノ相場ニ致シマシ  
テモ、倫敦ノ金塊相場ト同様ニ十五圓ヲ拔  
クノデアリマス、即チ金ハ一匁十四圓カラ

十五圓以上ト云フノガ、昨年秋以來ノ常態  
ノ相場デアリマスカラ、私ハ一匁十圓ノ値  
段ハ容易ニ想像スルコトガ出來ヌト申ス所  
以デアリマス、然ラバ一匁十圓ト云フヤウ  
金ハ、ドウ云フ經濟狀態ガ生レテ來タ場  
合ニ、ソレヲ想像スルコトガ出來ルカト申  
シマスト、ソレニハ金塊相場ノコトヲ考ヘ  
ナケレバナリマセヌ、御承知ノ通リニ金塊  
相場ハ、倫敦ト紐育デ立ツノデアリマス、  
ソレデアリマスカラ弗或ハ磅ノ金ノ値段ト  
云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、第二ニ爲  
替相場ト云フコトヲ考ヘテ行カナケレバナ  
ラヌノデアリマスガ、此爲替關係ダケヲ見  
テ參リマスト、今申述ペタヤウニ米國準備  
銀行ノ買上値段ハ、「オンス」三十五弗デア  
リマス、一「オンス」ハ八匁二四九ニナル  
デ、之ヲ日本ノ十匁ニスルト四十二弗デア  
リマス、デスカラ對米爲替ガ百圓對四十二  
弗ニ上ツタト假定致シマシタナラバ、其時初  
メテ金一匁ガ十圓ニナル勘定デアリマス、  
此處デ一言致シマスガ、吾々ハ長イ間言慣  
ラサレテ來マシタ、ドウ云フコトニ言慣ラ  
サレテ來タカト云ヘバ、對米爲替ト云ヘバ  
百圓對四九弗八四六ガ平價ダト云フコトニ  
言慣ラサレテ來タノデアリマスガ、米國ノ  
新平價改訂デ百圓對約八十四弗ニ現在ハナツ  
テ居ルノデアリマス、「オンス」三十五弗、  
即チ十匁約四十二弗ノ買上値段ハ、此改  
訂セラレタ米國ノ新平價ニ依ルノデアリマ  
スガ、此新平價カラ見テ、金一匁ガ十圓ニ  
ナル爲ニハ、對米爲替ガ四十二弗ニ上ラナ

ケレバナラヌコトハ今申上ゲル通リデス  
ガ、私ハ昨今ニ二十八弗或ハ二十八弗ヲ下ラン  
トスル所ノ對米爲替ガ、四十二弗ニ上ルコ  
トハ想像スルコトガ困難デアルト考ヘルノ  
デアリマス、或ハ二十弗割レカラ段々ト上ッ  
テ來テ、二十八弗ニナリ、三十弗ニナリ、  
三十一弗ニナツタ爲替相場ダカラ、又恢復ヲ  
シヤセヌカト云フヤウニ考ヘル人モアリマ  
セウ、是ハ一應御尤ナ考方デアリマス、併  
ナガラニ二十八弗ト云フ現在ノ爲替相場ハ、  
テハ恢復シタ値段デハゴザイマセヌ、一見  
シヤセヌカト云フヤウニ見エマスケレドモ、  
ナガラニ二十八弗ト云フ現在ノ爲替相場ハ、  
テ來リ今日ノ平價カラ言ヘバ、對米爲替ハ  
八十四弗デナケレバナラヌノデアリマスカ  
ラ、半分以下、六割六分ダケ値下リラシテ  
居ルノデアリマスカラ、昔ノ百圓對四十九  
弗ニ下ツテ居ルト云フコトニナルノデアリ  
マス、或ハ金「ブロック」ガ破壊サレタラ、對  
米ノ爲替ハ四十弗ニモ、五十弗ニモナルノ  
デハナカラウカト懸念スル人モアリマスケ  
レドモ、金「ブロック」ガ破壊スルコトハナカラ  
ウカ、是ハ將來ノ事デアルカラ分リマセヌ  
ケレドモ、モウ三四年以前カラ耳ニ脾脰ガ出來ル  
トハ、モウ三四年以前カラ耳ニ脾脰ガ出來ル  
程私共ハ聽カサレマシタ、最近ノ佛蘭西ノ  
事情ハ分リマセヌガ、私ノ知レル限リデハ  
「ブロック」ガ破壊スルコトハナカラウト思  
ヒマス、假ニ破壊セラレタト致シマシテモ、  
サウ爲替ガ上ルモノデナイト云フコトハ、



マセヌ、寧ロ紡績トカ電鐵トカノ老成產業ニ較ベルト、前途有爲有望ナ青年產業、壯年產業トモ見ルベキモノデアルカラ、多少重課ニナッテモ已ムヲ得ナイト私ハ思ヒマス

斯ク論ジ來リマスト、利得稅ハ折角伸ビ掛ケタ産業ノ若芽ヲ摘取ルモノデアルト申ス説ハ、是ハ「ユーモア」ナ魅力ニ富ンダ表現方法デハアリマセスガ、事態ヲ見抜キ得ナイ議論デアッテ、私ハソレニ首肯スルコトハ出來マセヌ(拍手)若シ同ジ比喩ヲ用ユルトルナラバ「インフレ」ノ若芽ハ既ニ枝トナリ、幹トナッテ、開花シ結實セルモノモアリマスカラシテ、三千万圓ヤ五千万圓ハ摘ンデ取ツテモ、本來ノ幹ニハ何ノ影響モナイト云フコトヲ申スコトガ出來マセウ、サウシテ其幹、枝、其實トモ申スベキ軍需「インフレ」爲替「インフレ」ノ儲ケハ、大部分ガ銀行預金トナッテ居眠ツテ居ル、此居眠ツテ居ル儲ケノ中カラ、利得稅ヲ取立テル譯デアリマスカラ、其稅金ハドウナルカト言ヘバ、言ハズシテ政府ノ手ニ依リテ民間ニバラ撒カレルノアリマス、新ナル購買力ノ發動ガ、景氣上昇ノ是ガ原因トナルコトハ申上ゲル迄モアリマセヌ、ダカラ利得稅ガ不景氣ノ原因トナリ、伸ビ掛ケタ若芽ヲ摘取ルト云フコト

ハ斷ジテアリマセヌ、ソレコソ杞憂ト言フベキデアリマス、私ハ銀行預金ガ稅金トシテ引上ゲラレルト、預金ガ減少スルカラ金融ガ逼迫シ、公債ノ消化力ガ減退シテ、赤字公債ノ發行ガ困難ニナリハシナイカト云フ懸念ヲスル者モアリマスケレドモ、日銀ノ公債ノ保有力ハ、マダニ億ヤ三億増シタトテ問題ニハナリマセヌ、安全保有量ノ限度ハソレ以上デアリマス、私ハ銀行預金ノ残高ガ五千万圓ヤ八千万圓減少スルコトガアッテモ、公債ノ發行ガ困難ニナルトハ想像スルコトハ出來ヌノデアリマス私ハ以上述ベマシタ理由ニ依リマシテ、今回ノ增稅案ニ賛成ヲスル、原案ニ賛成ヲスル次第デアリマスガ、吾々ハ昭和七年赤字公債ノ發行ヲ見ルニ至リマスルト、將來増稅ノ必要ナル所以ヲ有ユル機會ニ於テ黨第三ハ、增資ガ脱稅ノ爲ナルカ否カハ實際ニ於テハ判定ガ出來ヌト思フノデアリマス、マス、ソレガ第二ノ反對ノ理由デアリマス、故ニ適用出來ナイコトニナルト思ヒ、言ハマス、ソレハ極メテ實例ニ乏シカラウト思ヒガ、ソレハ法人個人共ニ二千圓ノ控除ヲ臨時利得一万圓以下ノモノニ限ルト云フ修正案ヲ考ヘタノデアリマス、是ハ社會政策カラニ及ル虞レガアルカラ反對デアリマスモ、亦租稅ノ公正ト云フコトカラモ、合理的ノ修正デアルト考ヘタノデアリマスルガ、豫算ガ通過シタ後ニ、豫算ノ金額ニ増減ノアルガ如キ修正ハ、吾々ノ執ルベキ所デナイト考ヘテ、之ニ反對スルノデアリマス(拍手)、修正ノ第三點ハ減資ノ規定デアリマス、ソレハ昭和七年一月一日以後ノ減資ニ付テハ、減資セヌモノト看做スト云フノ方デハ五年、六年ヲ基準ニ取ルト云フデアリマスガ、其長短ニ付テハ餘程考慮フコトハ、無論理論上正當デアル、所ガ政府ノ方デハ五年、六年ヲ基準ニ取ルト云フノ方デハ五年、六年ヲ基準ニ取ルト云フデアリマスガ、其長短ニ付テハ餘程考慮フ

タノデアリマスガ、今日此案ニ賛成セラレルコトハ、國家財政前途ノ爲ニ慶賀スペキコト、存ズルノデアリマス(拍手)、ソコデ以下修正點ニ付テ極ク簡單ニ私ノ考ヘル所ヲ申上ゲマシテ贊否ヲ明ニシタイル、故ニ其最モ悪カツタ時期ヲ加ヘルナラバ、世界恐慌ノ始マツタ所ノ四年ヲ加ヘテシテ、是ハ十分考慮ノ餘地ガアルト私共モ考ヘマス、又法人個人併セテ納稅義務者ハ一万一千人カラアルノデアリマシテ、各事情ガ異リマスカラシテ、ソレ等相互ノ權衡カラ言ツテモ、四年ヲ加ヘルコトガ妥當トモ考ヘルノデアリマス、吾々ハ此修正ハ相當考慮ヲ致シマシタ、併シ之ニ依ル減收ガ百二十万圓程アルト云フコトデアリマス、之ニ相當スル增收ノ案ガナケレバナラナイ、ソレニハ法人個人共ニ二千圓ノ控除ヲ臨時利得一万圓以下ノモノニ限ルト云フ修正案ヲ考ヘタノデアリマス、是ハ社會政策カラニ及ル虞レガアルカラ反對デアリマスモ、亦租稅ノ公正ト云フコトカラモ、合理的ノ修正デアルト考ヘタノデアリマスルガ、豫算ガ通過シタ後ニ、豫算ノ金額ニ増減ノアルガ如キ修正ハ、吾々ノ執ルベキ所デナイト考ヘテ、之ニ反対スルノデアリマス(拍手)、修正ノ第三點ハ減資ノ規定デアリマス、ソレハ昭和七年一月一日以後ノ減資ニ付テハ、減資セヌモノト看做スト云フノ方デハ五年、六年ヲ基準ニ取ルト云フデアリマスガ、其長短ニ付テハ餘程考慮フコトハ、無論理論上正當デアル、所ガ政府ノ方デハ五年、六年ヲ基準ニ取ルト云フデアリマスガ、其長短ニ付テハ餘程考慮フコトハ、無論理論上正當デアル、所ガ政府ガアルト思ヒマス、併ナガラ六年中ニ減資ラシタ者ニ付テハ適用ガアリマセヌカラシテ、其點デ不公平ニナルト思ヒマス、七年以後ノ増資ハ極メテ少イ、或ハ多イカモ知レマセヌガ、多イトシテモサウ澤山ハナイトヒマスルガ、ソレニ態々一箇條ヲ設ケテ公平ガ保タレルナラバ、私共モ賛成スルニ考

デナインデアリマスルケレドモ、今申ス通  
リ六年中ニ減資ラシタモノニ付テハ、少ク  
トモ公平ヲ缺クト思ヒマスルノデ、修正案  
ニ反対ヲ致シマス、最後ニハ、修正點ハモ  
ウ一點アリマスルケレドモ、是ハ基準年度  
ニ關スル點デアリマスカラ論外ト致シテ、  
法人一割、個人七分五厘ニ修正スルト云フ  
税率ノ修正デアリマスガ、此點ニ付テモ反  
對ヲ致シマス、ソレハ本税ハ超過所得税ヲ  
取ラレル所ノ法人ニ付テハ、本税ハ其點ニ  
重複ヲ致シテ居ルノデアリマス、ソレデ超  
過所得税ニ於テ累進率ヲ設ケテ、相當重イ  
稅ヲ法人ニ課シテ居リマスルカラシテ、尤  
モ其累進稅ハ個人ニハアリマセヌ、デアリ  
マスルカラ、其點ニ相當ニ法人ト個人トハ  
開キガアルノデアリマスルカラシテ、此法  
案デ殊更個人ト法人ニ開キヲ付ケル必要  
ハナイト思ヒマス、ノミナラズ法人ニアッ  
テハ、此個人ノヤウナ所得六千圓以下  
ノ者ニ免稅ヲシテ居ルト云フヤウナ規定  
定ハナイノデアリマス、個人ニハ斯ウ云  
フ特典ト申シマスカ、斯ウ云フ規定モア  
ルノデアリマスルカラシテ、其以上個人  
ノ大小ヲ計算スルニ當ツテ、資本ト對比シテ  
政友會ノ委員ノ方カラ、法人ニハ臨時所得  
居ルガ、個人ニハ資本ヲ見テ居ラナイカラ、  
自然重クナルト質問ヲサレマシタ、併ナガ

ヲ個人ニ付テハ資本ヲ見ナイノハ本税バカ  
リデハナク、營業收益稅デモ、亦所得稅デ  
モ皆同ジ建前デアッテ、日本ノ租稅組織ガ、  
個人ノ場合ニハ資本ト云フモノヲ見ナイト  
シテ、其理由ノ下ニ私ハ修正スルト云フコ  
トハ穩當デナイト思ヒマス、仍テ之ニハ反  
對ヲ致シマス、最後ニハ施行期限ノ修正デ  
アリマスガ、是ハ今申シタ通リニ、日本ノ  
經濟機構ハ轉換時代ニ入ッテ居ル、ソレハ低  
爲替ト技術ノ躍進——技術ノ躍進ニ付テハ  
吾々民政黨ガ合理化ヲ叫ンダ、ソレガ非常  
ニ效イテ居ルト信ジテ居リマスガ、免ニ角  
サウ云フヤウナ變革期ニ入ッテ居ルノデ、此  
利得ト云フモノハ臨時的ノモノデハナイ、  
大藏省ノ原案ニハ臨時ト云フ文字ヲ使ッテ  
居リマスケレドモ、臨時的ノモノデハナク  
シテ恒久性ヲ有ツテ居ルモノデアル、五年、八  
年、十年ト續クベキ性質ノモノデアルカラ  
シテ、隨テ此法律案ニ施行期限ヲ置クト云  
フコトハ、私ノ立論上ト矛盾ラスルコトニ  
ナルノデ、之ニハ其理由デ反対ヲ致シマス、  
但シ大稅制整理ヲ急グト云フ意味デ期限ヲ  
附ケルノナラバ、ソレハ理由ニナリマスケ  
レドモ、ソレナラバ三年ト云フヤウナ期限  
ハ長イト思ヒマス、仍テ此施行期限ヲ附ケ  
ル所ノ修正案ニハ同意ガ出來マセヌ

最後ニ國民同盟ノ中村君ガ、昨日委員會  
官報號外 昭和十年三月十三日 衆議院議事速記錄第二十六號 臨時利得稅法案 第二讀會

ニ於テ説明セラレマシタ修正點ニ付テ一言  
モ皆同ジ建前デアッテ、日本ノ租稅組織ガ、  
個人ノ場合ニハ資本ト云フモノヲ見ナイト  
シテ、其理由ノ下ニ私ハ修正スルト云フコ  
トハ穩當デナイト思ヒマス、仍テ之ニハ反  
對ヲ致シマス、最後ニハ施行期限ノ修正デ  
アリマスガ、是ハ今申シタ通リニ、日本ノ  
經濟機構ハ轉換時代ニ入ッテ居ル、ソレハ低  
爲替ト技術ノ躍進——技術ノ躍進ニ付テハ  
吾々民政黨ガ合理化ヲ叫ンダ、ソレガ非常  
ニ效イテ居ルト信ジテ居リマスガ、免ニ角  
サウ云フヤウナ變革期ニ入ッテ居ルノデ、此  
利得ト云フモノハ臨時的ノモノデハナイ、  
大藏省ノ原案ニハ臨時ト云フ文字ヲ使ッテ  
居リマスケレドモ、臨時的ノモノデハナク  
シテ恒久性ヲ有ツテ居ルモノデアル、五年、八  
年、十年ト續クベキ性質ノモノデアルカラ  
シテ、隨テ此法律案ニ施行期限ヲ置クト云  
フコトハ、私ノ立論上ト矛盾ラスルコトニ  
ナルノデ、之ニハ其理由デ反対ヲ致シマス、  
但シ大稅制整理ヲ急グト云フ意味デ期限ヲ  
附ケルノナラバ、ソレハ理由ニナリマスケ  
レドモ、ソレナラバ三年ト云フヤウナ期限  
ハ長イト思ヒマス、仍テ此施行期限ヲ附ケ  
ル所ノ修正案ニハ同意ガ出來マセヌ

○副議長(植原悅二郎君) 太田正孝君  
(太田正孝君登壇)

○太田正孝君 私ハ茲ニ討論ノ議題トナッ  
テ居ル臨時利得稅ニ付キマシテ、岡田委員  
長ノ報告通り、政友會ノ修正條項並ニ附帶  
決議ニ賛成セントスル者デアリマス、其理  
由ヲ述べ、旁、只今民政黨ラ代表シテ御述  
ニナリマシタ矢野庄太郎君ノ論旨ニ對シテ  
反駁ヲ加ヘテ行キタイト思ヒマス、併シ矢  
野君ノ前半カト思ハル、部分ニ於テ御説キ  
スル限リニ於テハ觸レタイト思ヒマスルガ、  
其大部分ハ私ノ解釋ガ誤リマスカ、餘り此  
税ト關係ガナイト信ジマスルノデ、其點

ニ觸レナイコトハ御許シラ願ヒタイト思フ  
ノデアリマス  
ニ觸レナイトハ御許シラ願ヒタイト思フ  
ノデアリマス  
臨時利得稅ハ臨時ニ儲ケタ者ニ課ケル、  
負擔能力ノアル所カラ取ル、世間一般ノ常  
識カラ申シマシテモ當リ前デハナイカト言  
ハレテ居リマス、事改メテ言フマデモナク、  
新シク稅ヲ起スニ付キマシテハ、之ニ對ス  
入ッテ居ル、是ハ永久性ヲ有ツテ居ル、低爲  
替ト云フコト、今申ス技術ノ躍進ト云フ  
コトガ基礎ニナルノデアッテ、全然様替リデ  
アッテ、一時的ノ現象デハナイデアルカラシ  
テ、餘リ過去ニ因ハレタ所ノ中村君ノ修正  
意見ニハ、私ハ反対デアリマス、以上ヲ以  
テ私ノ演説ヲ終リマス(拍手)

○副議長(植原悅二郎君) 太田正孝君  
(太田正孝君登壇)

○太田正孝君 私ハ茲ニ討論ノ議題トナッ  
テ居ル臨時利得稅ニ付キマシテ、岡田委員  
長ノ報告通り、政友會ノ修正條項並ニ附帶  
決議ニ賛成セントスル者デアリマス、其理  
由ヲ述べ、旁、只今民政黨ラ代表シテ御述  
ニナリマシタ矢野庄太郎君ノ論旨ニ對シテ  
反駁ヲ加ヘテ行キタイト思ヒマス、併シ矢  
野君ノ前半カト思ハル、部分ニ於テ御説キ  
スル限リニ於テハ觸レタイト思ヒマスルガ、  
其用意ノ足ラザルコト驚クノ外アリマセヌ、  
更ニ苟モ稅ヲ起スニ當リマシテハ、殊ニ矢









ウト云フノガ此精神デアリマス、一步ヲ譲リマス、内閣審議會ニ掛ケテ成案ヲ得ル、ソレ迄ノ繫ギガアレバ宜イト云フコトノ御說ヲ承リマス、併ナガラ其繫ギノ材料ノ一端トシテ御出シニナツテ居ル低利資金ニ付キマシテハ、之ヲ借リラレナイヤウナ町ガアル、借リラレナイ村ガアルト云フコトヲ考ヘナケレバナリマセヌ、イヤ借リラレナイ村ガアリ、町ガアルナラバ、借リルコトノ出來ル府縣デ借リルヤウニシクナラバ宜イト申サレマスガ、代ツテ借リラレナイ府縣ガアツクナラバ、之ヲ何トスルノデゴザイマセウカ、私ノ考ヘル所ニシテ誤リガナイト致シマシタナラバ、例ヘバ沖繩縣ノ如キ、鳥取縣ノ如キ、或ハ高知縣ノ如キモ、此一部ニ屬スルデハナイカト考ヘルノデアリマス、斯様ナ意味ニ於キマシテ、私ハ能ク世間デ言合ニ於テハ、是亦一般會計ニ於ケル歲入歲出ノ見積ヲ要スル譯デアリマス、端的ニ申取縣ノ如キ、或ハ高知縣ノ如キモ、此一部ニ屬スルデハナイカト考ヘルノデアリマス、斯様ナ意味ニ於キマシテ、私ハ能ク世間デ言合ニ於テハ、是亦一般會計ニ於ケル歲入歲出ノ見積ヲ要スル譯デアリマス、端的ニ申

ルニ付テノ特別會計ニ、歲入歲出ヲ見積ラナケレバナリマセヌ、其得タ歲入ヲ一般會計ニ渡シテ、地方財政補整ノ目的ニ出斯場合ニ於テハ、是亦一般會計ニ於ケル歲入歲出ノ見積ヲ要スル譯デアリマス、端的ニ申上ゲル迄モナク公債ヲ募

○中村繼男君 只今議題トナツテ居リマスル臨時利得稅ニ付キマシテ、私共ノ修正ノ要點ヲ説明ヲ致シ、政友會ノ修正案ト吾々ノ案トノ違フ所以ヲ、御説明ヲ致シタイト思フノデアリマス

○副議長植原悅二郎君 中村繼男君登壇

〔中村繼男君登壇〕

○中村繼男君 只今議題トナツテ居リマスル臨時利得稅ニ付キマシテ、私共ノ修正ノ要點ヲ説明ヲ致シ、政友會ノ修正案ト吾々ノ案トノ違フ所以ヲ、御説明ヲ致シタイト思フノデアリマス

時局ノ影響ニ依ツテ特別ノ利益ヲ得タモノニ對シマシテ、特別ノ負擔ヲ命ズルト云ノミ與ヘラレタ所デアリマスカラ、私達ハ茲ニ政治道德トシテ、又農村認識ノ此際ニ於テ、政府ハ考ヘラレマシテ、此決議ノ案ニアル如ク、速ニ窮迫セル地方財政補整ノ途ヲ講ズベシト云フ附帶決議ヲ以テセントスルノデアリマス

私ノ法文ノ修正竝ニ附帶決議ニ對シテノ豫算ノ財源ヲ補充スル意味ニ於テ、赤字公債法ヲ修正シナケレバナリマセヌ、尤モ豫算以上ノ收入ガアリ、ソレガ三千万圓ヲ埋

メルトカ、或ハ更ニ地方財政補整ノ目的ノ質上ニ於テハ、打遣ツテ宜イコトデゴザイマセウガ、形式上豫算トノ辻接ヲ合ス關係ニ於テハ、赤字公債法ノ修正ヲ要スルト思正シ、本稅ヲ目的稅ト致シマシテモ、現實ニ地方財政補整等ノ目的ノ爲ニ支出スルニ當リマシテハ、申上ゲル迄モナク公債ヲ募

○副議長植原悅二郎君 中村繼男君登壇

〔中村繼男君登壇〕

アリマス、私達ノ主張ハ、單ニ世間デ言ハレル如ク、單純ナ技術的修正デナイト信ジテ居リマス、殆ド體ヲ成シテ居ナイト思ハレル政府ノ原案ニ對シテ、生命ヲ吹キ込マツス(拍手)然ルニ政府提出ノ原案ニ依リマス云フト、其點ガ甚シク不十分デアル、負擔ノ不權衡ヲ來スノハ勿論ノコト、之ヲ極言致シマスルナラバ、應能負擔ト云フ原則ヲ引シ繰返シテ、無能負擔ニ逆轉セシメテ居ルカノ如キ感ガナイデハナインデアリマス、ソレハドノ點デアルカ、先程太田君モ餘程此點ニ付テ觸レタカツダデアラウト私ハ考ヘテ居ツカガ、核心ニ行カナカツ、枝葉ノ點ヲ廻ツテ居ラレル、一番此稅法ノ瘤トスル所ハドノ點デアルカト云フト、所謂基準年度ノ利益ト云フモノヲ目標ニ致シ、今度施行セラレタル後ニ於ケル年度ノ利益ト之ヲ對照致シマシテ、基準年度ノ利益ガ多ケレバ多イ程、利得金額ハ少ク計算スルト云フコトニナツテ居ル、又基準年度ニ利益ガ小デアレバ、利得金額ハ益々大ニナルト云フ計算方法ニナツテ居ル、此點ガ此利得稅ヲ通ジテノ一大病デアルト言ハナケレバナラヌ、之ヲダウ直シテ行クカト云フコトガ、是ガ本利得稅案ニ對スル所ノ眞面目ナ檢討デアリ、ソレガ眼目デハナクテハナラヌト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)

御承知ノ如ク法人ニアリマシテハ、昭和五年ト六年トヲ基準ト致シマシテ、其利廻ノ大アル所ノ、負擔ノ均衡ヲ圖ルト云フコト

カツテ居ラウガ、基準年度ノ其利廻ハ之ヲ構ハ  
ナイデ、利得金額ダケ計算スル、詰リ儲ケタ  
モノハ餘計引イテヤル、儲ケノ少イモノハ少  
シシカ引イテヤラヌ、斯ウ云フコトニ依ッテ、  
而モソレニ對スル所ノ税率ハ、千篇一律ニ百  
分ノ十トシテ計算シテアルノデアリマス、個  
人ノ方ハ御承知ノ通リ昭和五年、六年ノ平均  
利得金額ノ大小ハ最モ構ハヌ、此昭和五  
年、六年兩年ノ平均所得ヲ基礎トシテ、利  
得金額ヲ計算致シマシテ、税率ハ矢張百分  
ノ十デアルト云フコトニナツテ居ル、此昭  
和五年、六年ヲ基準年度トスベキヤ否ヤト  
云フ點ニ付キマシテハ、是ハ委員會ニ於テ  
モ非常ナ議論ノアツタ點デアリマスルシ、只  
今モ政友會カラ之ニ對シテ四年度ヲ加ヘ  
テ、四年、五年、六年ト云フモノヲ基準ニ  
シナケレバナラヌト云フ御説明ガアツタノ  
デアリマス、成程四年ヲ加ヘタナラバ、モッ  
ト公正ニ行クデアラウト云フヤウナコトニ  
ナルカモ知レマセヌ、併ナガラ四年ヲ加ヘ  
テ見マシテモ、四年、五年、六年ノ利益ノ  
大小ニ應ジテ、其儘ヲ大キイモノハ大キ  
引イテヤルト云フコトニナツテ來マスナラ  
痛ハ除カレタト云フコトハ出來ナイ(ヒヤ  
ヒヤ)何年ヲ加ヘテ見テモ、此基準年度ノ  
利廻ハ其儘引イテヤルト云フヤウニナツテ  
居ツタナラバ、百年經ツテモ是ハ利得稅ノ癌

ハ除カレナイノデアリマシテ、只今太田君  
ハ、此點ニ付テ非常ニ御利益ガアルヤウニ  
シシカ引イテヤラヌ、斯ウ云フコトニ依ッテ、  
而モソレニ對スル所ノ税率ハ、千篇一律ニ百  
分ノ十トシテ計算シテアルノデアリマス、個  
人ノ方ハ御承知ノ通リ昭和五年、六年ノ平均  
利得金額ノ大小ハ最モ構ハヌ、此昭和五  
年、六年兩年ノ平均所得ヲ基礎トシテ、利  
得金額ヲ計算致シマシテ、税率ハ矢張百分  
ノ十デアルト云フコトヲ補ツテ行  
手)即チ何レノ年度ヲ採リマシテモ、二年  
間ヲ採ツテモ、三年間ヲ採ツテモ、其基準年  
度ニ多額ノ利益ガアルモノト、然ラザルモ  
ノト、又ハ全然利益ノ無カツタモノトノ間ニ  
ハ、負擔力ニ厚薄ノ差ヲ生ズルト云フコト  
ハ、是ハ必然的ノコトデアル、然ルニ政府  
案デハ、此負擔力ト云フコトニ何等考慮ヲ  
拂ツテ居ラヌ、唯政府ノ最モ得意トシテ、之  
ニ對シテ陳辯ヲ致サレマスル所ハ、此點ニ  
關スル緩和規定トシテ、法文ノ上デ基準ノ  
年度ニ於テ利益ガ無カツタモノ、又ハ利益ガ  
非常ニ少クシテ、資本金額ニ對シテ七分以  
下デアツタ場合ニハ、其平均利益ハ之ヲ七分  
ト看做シテヤルト云フ規定ヲ申サレマス、  
又個人ニアリマシテハ基準年度ノ平均利益  
ガナイカ、又ハ平均利益ガ三千圓未滿デアッ  
タ場合ニ於テハ、三千圓トシテ之ヲ計算シ  
テヤルト云フノガ、大ニ之ニ依ツテ緩和スル  
チ此結果トシテ昭和五年六年ノ利益ガ大デ  
アレバアル程、法人モ個人モ共ニ利得金額  
ト致シマスナラバ、即チ其負擔能力ニ適應  
セシムベキ適當ノ修正策ガアルトスルナラ  
バ、是ハ所謂已ムヲ得ザル所ノ缺陷ヲ補正  
シ得ルト云フコトニナルノデアリマシテ、  
是ハ帝國議會トシテハ當然執ルペキ責任ダ

御説明ガアツタノデアリマスガ、其御利益タ  
ルヤ、唯僅ノ零レタ人間ヲ救フ位ノ效果ハ  
アリマセウ、併ナガラ利得稅全體ヲ通ジテ  
ノ、此制度ノ不完全ト云フコトヲ補ツテ行  
クト云フコトニハ、是デハナラナイト私共  
ハ言ハナケレバナラナイノデアリマス(拍  
手)即チ何レノ年度ヲ採リマシテモ、二年  
間ヲ採ツテモ、三年間ヲ採ツテモ、其基準年  
度ニ多額ノ利益ガアルモノト、ソレヲ超スモ  
ノトノ間ニ、此不權衡ハ矢張出テ來ル、又  
アツテハ利益ノ割合が七分以下デアルトカ、  
或ハ又ハ缺損デアルト云フモノガ甚ダ多イ  
ノデアリマス、即チ昭和五年ト云フモノ  
ハ、經濟界ガ亂高下ノ狀態ニナツテ居ル、亂  
高下ノ狀態ニナツテ居ルニモ拘ラズ、政府案  
ニ依リマスレバ、七分ヲ以テ限界線トシテ  
仕切ツテシマッタ、法人ニアツテハ昭和五年  
ニ於テ平均利益ガナイカ、又ハ利益ガ七分  
以下デアツタモノハ七分ニ止メテシマフ、サ  
ウシテ二割、三割ノ儲ケガアツタモノハ、其  
儘二割、三割ノ儲ケヲ、現在ノ利益ヨリ控  
除シテヤルト云フコトニセラレタノデアリ  
マス、個人ニアツテハ矢張同様ノ方法ヲ以  
テ、昭和五年六年ニ利益ノ無カツタモノハ、  
三千圓トシテ三千圓迄ハ引イテヤルト云  
フ、緩和規定ヲ作ラレタノデアリマス、即  
トハ、是ハ看透スペカラザル事實デアリマ  
スカラ、基礎ニ輩固ナルモノト、サウデナ  
モノトガ、負擔力ノ違ヒガアルト云フコ  
トハ、是ハ争フベカラザルモノト、サウデナ  
モノトガ、負擔力ノ違ヒガアルト云フコ  
トハ、是ハ看透スペカラザル事實デアリマ  
スカラ、之ニ對シテ正當ナル匡救策ガアル  
ト、是シムベキ適當ノ修正策ガアルトスルナラ  
バ、是ハ所謂已ムヲ得ザル所ノ缺陷ヲ補正  
シ得ルト云フコトニナルノデアリマシテ、  
是ハ帝國議會トシテハ當然執ルペキ責任ダ

ル、即チ昭和五六ニ於キマシテ、法人ニア  
均資本ニ對シテハ、一割モ、二割モ、乃至三割  
モ儲カツテ居ル所ノ會社ガ相當多數ニアルコ  
トハ、大藏省ガ發表シテ居ラレマス所ノ稅額  
表ニ明ニ示サレテ居ル所デアリマス、然ル  
ニ昭和五六ニ於キマシテハ、一方ハ所謂  
アリマセウ、併ナガラ利得稅全體ヲ通ジテ  
ハ言ハナケレバナラナイノデアリマス(拍  
手)即チ何レノ年度ヲ採リマシテモ、二年  
間ヲ採ツテモ、三年間ヲ採ツテモ、其基準年  
度ニ多額ノ利益ガアルモノト、ソレヲ超スモ  
ノトノ間ニ、此不權衡ハ矢張出テ來ル、又  
アツテハ利益ノ割合が七分以下デアルトカ、  
或ハ又ハ缺損デアルト云フモノガ甚ダ多イ  
ノデアリマス、即チ昭和五年ト云フモノ  
ハ、經濟界ガ亂高下ノ狀態ニナツテ居ル、亂  
高下ノ狀態ニナツテ居ルニモ拘ラズ、政府案  
ニ依リマスレバ、七分ヲ以テ限界線トシテ  
仕切ツテシマッタ、法人ニアツテハ昭和五年  
ニ於テ平均利益ガナイカ、又ハ利益ガ七分  
以下デアツタモノハ七分ニ止メテシマフ、サ  
ウシテ二割、三割ノ儲ケガアツタモノハ、其  
儘二割、三割ノ儲ケヲ、現在ノ利益ヨリ控  
除シテヤルト云フコトニセラレタノデアリ  
マス、個人ニアツテハ矢張同様ノ方法ヲ以  
テ、昭和五年六年ニ利益ノ無カツタモノハ、  
三千圓トシテ三千圓迄ハ引イテヤルト云  
フ、緩和規定ヲ作ラレタノデアリマス、即  
トハ、是ハ看透スペカラザル事實デアリマ  
スカラ、基礎ニ輩固ナルモノト、サウデナ  
モノトガ、負擔力ノ違ヒガアルト云フコ  
トハ、是ハ争フベカラザルモノト、サウデナ  
モノトガ、負擔力ノ違ヒガアルト云フコ  
トハ、是ハ看透スペカラザル事實デアリマ  
スカラ、之ニ對シテ正當ナル匡救策ガアル  
ト、是シムベキ適當ノ修正策ガアルトスルナラ  
バ、是ハ所謂已ムヲ得ザル所ノ缺陷ヲ補正  
シ得ルト云フコトニナルノデアリマシテ、  
是ハ帝國議會トシテハ當然執ルペキ責任ダ



ノアルモノニ對シテ引イテヤル、然ルニ資  
本ガ增加シテ、愈、資本ガ多クナレバ、ソレ  
ニ對シテ又二割三割ヲ引イテヤル、其處マ  
デ此增加資本ニ對シテ餘計ナ引方ヲシテヤ  
ル必要ガ一體何處ニアルカ、サウ云フコト  
ヲヤル結果トシテ、一二三割モ過去ニ於テ儲  
カツテ居ツタ會社ハ、競ウテ資本增加ヲスル  
ニ至ルベキハ當然デアリマセウ、之ヲ如何  
ニシテ防グカ、此問題デゴザイマスガ、私  
共ノ考方ト致シマシテハ、之ヲ七分ニ限定  
シテシマフ、此新ニ増加スル資本ニ付テハ、  
事ノ如何ヲ問ハズ、是ガ過去ニ於テ二割儲  
ケテ居ラウガ、三割儲ケテ居ラウガ、サウ  
云フコトニ拘泥シナイデ、七分ダケシカ引  
イテヤラナイト云フコトニ限定シテシマフ  
コトガ、一番妥當デアルト考ヘテ、其修正  
案ヲ出シテ居ルノデアリマス、此點ニ關シ  
マシテ政友會ノ修正案ヲ見マスト、御承知  
ノ通り「其資本増加ガ臨時利得稅逋脫ノ目  
的ニ出デタルト認メラルトキハ」ト云フ  
コトヲ御書キニナツテ居リマス、精神的ニ、  
理論トシテ、用意周到ニ斯ノ如キ修正案ヲ  
出サレタト云フ心持ニハ、私ハ賛成ヲ致シ  
マス、併ナガラ此脱稅ノ目的ニ出デタカド  
ウカト云フコトノ認定權、之ヲ稅務署ノ役  
人ニ有タセテ置クト云フコトハ、甚シイ誤  
リデアルト考ヘル者デアリマス、稅務署ノ  
役人ガ、時ニ納稅者ノ意見ト異ツタ考方ヲ

有ツテ、其爲ニ所謂稅務ニ關スル所ノ官民  
ノ意思ノ疏通ヲ缺クヤウナコトガ能クアル  
ニ對シテ又二割三割ヲ引イテヤル、而モ  
此增加資本ニ對シテ餘計ナ引方ヲシテヤ  
ル必要ガ一體何處ニアルカ、サウ云フコト  
ヲヤル結果トシテ、一二三割モ過去ニ於テ儲  
カツテ居ツタ會社ハ、競ウテ資本增加ヲスル  
ニ至ルベキハ當然デアリマセウ、之ヲ如何  
ニシテ防グカ、此問題デゴザイマスガ、私  
共ノ考方ト致シマシテハ、之ヲ七分ニ限定  
シテシマフ、此新ニ増加スル資本ニ付テハ、  
事ノ如何ヲ問ハズ、是ガ過去ニ於テ二割儲  
ケテ居ラウガ、三割儲ケテ居ラウガ、サウ  
云フコトニ拘泥シナイデ、七分ダケシカ引  
イテヤラナイト云フコトニ限定シテシマフ  
コトガ、一番妥當デアルト考ヘテ、其修正  
案ヲ出シテ居ルノデアリマス、此點ニ關シ  
マシテ政友會ノ修正案ヲ見マスト、御承知  
ノ通り「其資本増加ガ臨時利得稅逋脫ノ目  
的ニ出デタルト認メラルトキハ」ト云フ  
コトヲ御書キニナツテ居リマス、精神的ニ、  
理論トシテ、用意周到ニ斯ノ如キ修正案ヲ  
出サレタト云フ心持ニハ、私ハ賛成ヲ致シ  
マス、併ナガラ此脱稅ノ目的ニ出デタカド  
ウカト云フコトノ認定權、之ヲ稅務署ノ役  
人ニ有タセテ置クト云フコトハ、甚シイ誤  
リデアルト考ヘル者デアリマス、稅務署ノ  
役人ガ、時ニ納稅者ノ意見ト異ツタ考方ヲ

甲ノ稅務署ト、乙ノ稅務署ト、丙ノ稅務署  
トノ取扱ハ、甚ダ統一ヲ缺キ、亂雜ヲ來シ  
テ、其歸一スル所ヲ知ラスト云フ弊害ニ陷  
ルコトモ御承知ノ通リデアル、況ヤ認定權  
ヲ一つノ役人、而モ判任官程度ノ者ガ持ツ  
ト云フコトニナリマシタ場合ニ於テハ、所  
謂噂ヲサレテ居ル所ノ納稅者ト役人トノ間  
ニ生ズル種々ノ弊害、是ガ愈、助長サレルト  
云フ結果ニナルノデアリマスカラ、斯ノ如  
キ重大ナル問題ノアル認定權ヲ、稅務官吏  
ニ與ヘテ置クガ如キハ、成ベク之ヲ避ケテ  
行カナケレバナラヌ筈デアル、然ルニ拘ラ  
ズ、此處ニ其資本増加ガ臨時利得稅、逋脫  
ノ目的ニ出デタルトキト云フヤウナコトヲ  
書イテ、其認定權ヲ稅務署ニ委セルバカリ  
デハナク、而モ〔調査會ガアルデハナイ  
カ〕ト呼フ者アリ、個人ニ付テハ調査會ハア  
ノ短カイ期間ヲ取ルト云フコトガ、是ガ利  
得稅ノ本質ニ鑑ミテ然リデアルト言ハナケ  
レバナリマセヌ（拍手）之ヲ延長致シマシテ  
三年ニ致シ、四年ニ致シ、五年ニ致スト云フ  
コトニナツタナラバ、臨時利得稅ノ臨時タル  
ス、實在デナイ、無イ資本ヲ有ルトシテヤ  
ルト言フ、是ガ親切心、御親切ノ點ハ御尤  
デアリマスケレドモ、反対ニ昭和七年ヨリ  
資本ノ増加ヲヤッテ居ルモノハ、何故之ヲ認  
メナイト云フ規定ヲ此處ニ同ジク入れナイ  
カ、此處マデ行クト云フコトデアツタナラバ、  
ダケハ、有ルモノト見テヤルト云フナラバ、

脫稅ノ目的等ニ依ツテ増加ヲシタモノハ、無イモノト見ナケレバ、當然是ハ理窟方釣合ハヌ苦デアル、ソレヲ一方ダケ見テ、此減少シタル資本ダケハ之ヲ有ルモノト見テヤルケレドモ、一方ノ無イニ等シイ脫稅等ノ目的ヲ以テ増資シタモノヲ其儘置クト云フコトデアツテハ、是ハ課稅ノ公正ヲ得タル所以デアルトハ言ハレナイト考へマス、ソレノミナラズ稅法ニ於テ——私ハ獨リ臨時利得稅ノミニ付テ申スノデハゴザイマセヌガ、總テ稅法ニ於テ、假定ト云フコトヲ基礎ニシテ租稅ヲ課スルト云フガ如キ觀念ハ、是ハ一體稅法ノ上カラ驅逐シテ行カナケレバナラヌ、又斯ウ云フ認定ヲ基礎トシテ負擔ガ減ッタリ殖エタリスルト云フヤウナコトハ、當局者ノ扱ヒ方、考へ方如何ニ依ツテ、非常ニ負擔ニ過重或ハ輕減ヲ生ズルト云フ結果ニナルノデアリマシテ、斯ウ云フモノハ成ベク實在ヲ基礎トシテ課稅シテ行カナケレバナラヌト云フ租稅本來ノ見地カラ致シマシテモ、無イ資本ヲ有ルヤウニ認メテヤルトカ云フヤウナ事柄ハ、是レ自身ガ租稅ノ體系ヲ棄シ、或ハ負擔ノ公正ヲ打破スル所ノ惡イ修正デアルト私ハ信ジテ疑ハナイノデアリマス(拍手)其次ノ第四ハ、是ハ第二項ト同ジデアリマスカラ、改メテ申上ゲマセヌ、次ニ「第十四條ヲ左ノ如ク修正ス」トシテ、法人ト個人トニ御分

ケニナリマシタ、是ハ私方先程申シマシタ通り、法人ト個人ダケ分ケルト云フコトハ意義ヲ爲サヌ、即チ基準年度ノ利益ノ如何ニ依ツテ、法人モ個人モ各階級ニ分クルノガルケレドモ、一方ノ無イニ等シイ脫稅等ノ至當デアラウ、斯ウ云フ意見ヲ申上ゲテ置ク次第デアリマス、尙ホ本法ノ施行期間ヲ三年間ト限ラル、ト云フ點ニ付キマシテハ、私共ハ敢テ反對ヲ致シマセヌ、即チ政府ハ成ベク速ニ稅制整理ヲ實行セラレナケレバナラヌ、ソレニハ或ル程度ノ背水ノ陣ヲ布イテ、或ハ軍部ノ見透シヲ付ケル必要ガアルダラウ、或ハ農村對策等ニ對スル所ノ根本的國策ヲ御決メニナル必要モアルダラウト思フ、是ハ同時ニ餘リ調査研究ダケヤツテ居ラレタノデハ、是ハ全く國民ハヤリ切レナイト言ハナケレバナラヌ、此意味ニ於キマシテ、年限ヲ相當ニ切ツテ、此間ニ背水ノ陣ヲ布イテ、國策乃至稅制ノ整理、之ヲ實行セラレルト云フ點ニ付キマシテハ、私ハ贊成デアル、又政友會ノ附帶決議デアリス所ノ、所謂「政府ハ本法ノ施行ニ當リ産業ノ振展ヲ阻害セザルコトニ留意スルト共ニ速ニ窮迫セル地方財政補整ノ途ヲ講ズベシ」と云フ此附帶決議ニ對シマシテハ、是

所モゴザイマスシ、其大眼目デアル所ノ所謂利得稅計算ノ不均衡ヨリ生ズル負擔ノ不權衡、之ニ對シテ政友會ガ何故熱々入レラナカツタノデ、多クハ假定ノ上ニ色々議論サツテ居ル、其點ヲ修正シナイデ、何故此レナカツタカ、之ニ對シテハ非常ニ遠慮ナリ得稅法ヲ活カスコトガ出來ルカ、斯ウ云三年間ト限ラル、ト云フ點ニ付キマシテハ、私共ハ敢テ反對ヲ致シマセヌ、即チ政府ハ成ベク速ニ稅制整理ヲ實行セラレナケレバナラヌ、ソレニハ或ル程度ノ背水ノ陣ヲ布イテ、或ハ軍部ノ見透シヲ付ケル必要ガアルダラウ、或ハ農村對策等ニ對スル所ノ根本的國策ヲ御決メニナル必要モアルダラウト思フ、是ハ同時ニ餘リ調査研究ダケヤツテ居ラレタノデハ、是ハ全く國民ハヤリ切レナイト言ハナケレバナラヌ、此意味ニ於キマシテ、年限ヲ相當ニ切ツテ、此間ニ背水ノ陣ヲ布イテ、國策乃至稅制ノ整理、之ヲ實行セラレルト云フ點ニ付キマシテハ、私ハ贊成デアル、又政友會ノ附帶決議デアリス所ノ、所謂「政府ハ本法ノ施行ニ當リ産業ノ振展ヲ阻害セザルコトニ留意スルト共ニ速ニ窮迫セル地方財政補整ノ途ヲ講ズベシ」と云フ此附帶決議ニ對シマシテハ、是

所モゴザイマスシ、其大眼目デアル所ノ所謂利得稅計算ノ不均衡ヨリ生ズル負擔ノ不權衡、之ニ對シテ政友會ガ何故熱々入レラナカツタノデ、多クハ假定ノ上ニ色々議論サツテ居ル、其點ヲ修正シナイデ、何故此レナカツタカ、之ニ對シテハ非常ニ遠慮ナリ得稅法ヲ活カスコトガ出來ルカ、斯ウ云三年間ト限ラル、ト云フ點ニ付キマシテハ、私共ハ敢テ反對ヲ致シマセヌ、即チ政府ハ成ベク速ニ稅制整理ヲ實行セラレナケレバナラヌ、ソレニハ或ル程度ノ背水ノ陣ヲ布イテ、或ハ軍部ノ見透シヲ付ケル必要ガアルダラウ、或ハ農村對策等ニ對スル所ノ根本的國策ヲ御決メニナル必要モアルダラウト思フ、是ハ同時ニ餘リ調査研究ダケヤツテ居ラレタノデハ、是ハ全く國民ハヤリ切レナイト言ハナケレバナラヌ、此意味ニ於キマシテ、年限ヲ相當ニ切ツテ、此間ニ背水ノ陣ヲ布イテ、國策乃至稅制ノ整理、之ヲ實行セラレルト云フ點ニ付キマシテハ、私ハ贊成デアル、又政友會ノ附帶決議デアリス所ノ、所謂「政府ハ本法ノ施行ニ當リ産業ノ振展ヲ阻害セザルコトニ留意スルト共ニ速ニ窮迫セル地方財政補整ノ途ヲ講ズベシ」と云フ此附帶決議ニ對シマシテハ、是

所モゴザイマスシ、其大眼目デアル所ノ所謂利得稅計算ノ不均衡ヨリ生ズル負擔ノ不權衡、之ニ對シテ政友會ガ何故熱々入レラナカツタノデ、多クハ假定ノ上ニ色々議論サツテ居ル、其點ヲ修正シナイデ、何故此レナカツタカ、之ニ對シテハ非常ニ遠慮ナリ得稅法ヲ活カスコトガ出來ルカ、斯ウ云三年間ト限ラル、ト云フ點ニ付キマシテハ、私共ハ敢テ反對ヲ致シマセヌ、即チ政府ハ成ベク速ニ稅制整理ヲ實行セラレナケレバナラヌ、ソレニハ或ル程度ノ背水ノ陣ヲ布イテ、或ハ軍部ノ見透シヲ付ケル必要ガアルダラウ、或ハ農村對策等ニ對スル所ノ根本的國策ヲ御決メニナル必要モアルダラウト思フ、是ハ同時ニ餘リ調査研究ダケヤツテ居ラレタノデハ、是ハ全く國民ハヤリ切レナイト言ハナケレバナラヌ、此意味ニ於キマシテ、年限ヲ相當ニ切ツテ、此間ニ背水ノ陣ヲ布イテ、國策乃至稅制ノ整理、之ヲ實行セラレルト云フ點ニ付キマシテハ、私ハ贊成デアル、又政友會ノ附帶決議デアリス所ノ、所謂「政府ハ本法ノ施行ニ當リ産業ノ振展ヲ阻害セザルコトニ留意スルト共ニ速ニ窮迫セル地方財政補整ノ途ヲ講ズベシ」と云フ此附帶決議ニ對シマシテハ、是

君ハ大膽ニ申シテ居ルノデアリマス、中島君ハ本税ノ見積ノ平年度四千万圆、初年度三千万圆ト云フノハ、是ハ低キニ過ギルノデアル、此點カラ考ヘマスト、本税ハ少クトモ平年度六七千万圆、初年度四五十万圆ニ達スルト云フコトハ、是ハ間違ナイ云々ト言ヒマシテ、尙ホ此點ニ付キマシテハ、詳細ナル數字ノ根據ヲ持合シテ居ルガ、此處ニ發表スルコトノ出來ナイノヲ深ク遺憾トスルモノデアリマス云々、斯ウ云フコトヲ述ベテ居ラレルノデアリマス（拍手）即チ民政黨ノ中島君ハ、本税ハ平年度六七千萬圓、初年度四五千萬圓ニ達スルト云フコトヲ主張セラレテ、而モ詳細ナル數字ノ根據ヲ持合シテ居ルノデアリマス（其通り）ト呼フ者アリ）若シ其通りデアリマスルナラバ、是ハ二百五十万圓ノ歲入減ニ對シテ、彼此レ反對ヲナサル所ノ御趣旨ガ、私共全ク分ラナイコトニナルノデアリマス（拍手）尙ホ此機會ニ於キマシテ、是ハ私ハ政府ニ一言申シマスルガ、政府ハ歲入減ヲ來ス虞アリ、斯ウ云フ理由ノ下ニ私共ノ修正案ニ賛成ヲ躊躇シテ居ラレルノデハナイカト考ヘルノデアリマス、ケレドモ、政府ガ御提示ニナリマシタ八年度ノ實績ニ對シマシテ、法人ニ對シテハ三割、個人ニ對シテ五分ヲソレト（增加

スルモノトシテ、是ヨリ控除額ヲ控除シテ計算サレテ居ルニ過ギナインデアリマスルガ、大體政府ノ此計算ト云フモノハ、甚ダ内輪ニ失シテ居ラテ、却テ實際ニ遠キモノト言ヒマシテ、尙ホ此點ニ付キマシテハ、詳細ナル數字ノ根據ヲ持合シテ居ルガ、此處ニ發表スルコトノ出來ナイノヲ深ク遺憾トスルモノデアリマス云々、斯ウ云フコトヲ述ベテ居ラレルノデアリマス（拍手）即チ民政黨ノ中島君ハ、本税ハ平年度六七千萬圓ハ、此少シク見積リテ多ク取ラレルト云フ點ニ存スルノデアリマスルカラ、固ヨリ我黨ノ修正ニ依リマシテ、豫定ノ歲入ニ缺陷ヲ生ズルガ如キコトハ萬ナイノデアリマスルガ、私ハ政府當局ニ於カセラレテハ快ク我心ヲ棄テ、我黨ノ修正案ニ同意セラレンコトヲ切望シ、且ツ期待致ス者デアリマス（拍手）

次ニ民政黨ニ於テ、幾ラカ其道理ノアルコトハ認メテ居ルガ、併シ豫算ノ收入ニ影響スルカラト云フコトデ御贊成ガナカッタ點ハ、此基準年度ノ點デアリマス、私共ハ原案ノ儘五、六兩年デ宜イト云フヤウナ工合ニ御考ニナリマスルナラバ、此臨時利得税ノ納稅者ハ、本利得稅ノ存續スル限り、民政黨デハ今日モ尙ホ依然トシテ金解禁ノ非ヲ悟ラズ、我方財界ノ最不況期間ノミラ基準トシテ、控除率ヲ最モ少キ時期ヲ選ンデ國民ニ負擔ノ苛重ヲ強ヒントシタモノダト、呪フコトニナルノデアラウト考ヘルノデアリマス（拍手）私ハ特ニ反對スル程ノ理由モナインノニ、好シニ我黨ノ修正ニ目ヲ鎖シテ御反對ヲナサルノハ、是ハ反對センガスルカラ、是ノミヲ基準ニ致シマスルコトハ、如何ニモ穩當ヲ缺キ、且ツ苛酷ニ過ギルト思フノデアリマス、是ハ世界財界變動

ノ時期デモアリマスルシ、又諸國ニ於キマシテモ、色々基礎ト爲シテ居ル千九百二十一年、即チ昭和四年ヲ加ヘマスルコトニ依ダテ餘程穩當トナリ、且ツ合理化サレテ參ルノデアリマス、特ニ日本ニ於キマシテハ昭和四年七月ハ、濱口内閣ガ成立致シタ時デアリマシテ、金解禁政策ヲ中外ニ發表シテ、是ガ實行ニ著手スルト、對米爲替ノ例デ申シマスルナラバ、三十八弗臺カラ四十九弗臺マデ大幅ニ動イタ、財界動搖ノ啓端コトハ、一層本法ノ所期シテ居ル所ノ時局ニ因ル好影響ヲ、反映鮮明ナラシムル點ヨリ致シマシテ、是非共此四年ヲ加フル必要ガアルノデアリマシテ、若モ民政黨ニ於テセラレルコトハ當然デアルト考ヘルノデアリマス——民政黨ノ各位ハ此演説ヲ想起サレマシテ、君子豹變、我黨ノ修正案ニ賛成ノ倍ニスルカ、少クトモ五割増位ノ程度ニ税率ヲ區別シナカッタカ、法人ノ課稅ハ個人セラレルコトヲ望ムモノデアリマス、尙ホ私ノ悟ラズ、我方財界ノ最不況期間ノミラニ、個人ニハ法人ノ如クニ增資ト云フコトハ補足致シテ申上ゲマスガ、御承知ノ如クニ、個人ニハ法人ノ如クニ増資ト云フコトハ認メラレテ居ナイコトハ、太田君ノ言ッタ通リデアリマス、サウシテ個人ハ主トシテ中小ノ商工業者デアリマスルカラ、其擔稅力ガ十分デナインデアリマス、又個人ガ自分ノ店、工場デ働イテモ、其勞務並ニ營業上ノ諸經費ニ對スル控除取扱ト云フモノハ非常ニ不十分デアリマスカラ、個人ヲ法人ニ比シ

マシテ、課稅上若干低率ニシナケレバナラヌコトハ、中島君ノ演説ヲ俟ツマデモナイ、理  
ナカ云々ト言ツテ居ラレマシタガ、ソレナ  
リマシテ、サウ云フコトハ俗ニ謂フ五分五  
分ト申サナケレバナラヌノデアリマス、私  
ハ我黨ノ修正ガ特ニ中小商工業者ニ相當ノ  
負擔緩和ヲ爲シ、是等國民ノ中堅階級ヲ爲  
シテ居ル人々ニ對スル思想上、好影響ヲ與  
ヘルモノデアルコトヲ確信シテ疑ハヌ者デ  
アリマス(拍手)

尙ホ民政黨ニ於テ、政友會ノ修正ノ中ニ  
ハ、理窟ノ上デハ贊成が出來ルヤウデアル  
ガ、併シ政府ガ修正案ニ反對スルカラ、本  
稅ガ成立シナクテハイカヌカラ反對スル外  
ナイト云々タヤウナ口吻モ見エルノデアリ  
マスガ、是ハ御立場上私ハ御察シ申上ゲマ  
スケレドモ、翻シテ考ヘテ見マスト、立法府  
タル議會ノ審議權ヲ拋棄スルノト同様デア  
リマシテ、單ニ政府案ヲ支持シテ、國民負  
擔ノ重大問題ヲ疎カニスルモノト申サレテ  
モ致シ方ガナカラウト考ヘルノデアリマス  
(拍手)

次ニ國民同盟ノ修正案ト中村君ノ御主張  
ニ對シマシテ一言致シマス、中村君ハ、稅  
制ノ「エキスパート」デアラセラレマスガ、  
ナイカ云々ト言ツテ居ラレマシタガ、ソレナ  
ス、又納稅者ノ立場ヨリモ、課稅者ノ立場  
ニナシテ物ヲ御考ニナルノデハナイカト考  
ヘルノデアリマス(拍手)中村君ハ政友會ノ  
修正案中、本稅施行後ノ增加資本金ノ取扱  
ニ付キマシテ、政友會ノ修正ノ趣旨ニハ贊  
成デアルガ、臨時利得稅遁脱ノ目的ニ出デ  
タルモノト認メラレル時ハ云々ト書イテ  
アッテ、司稅官ニ其逋脱ノ目的カ否カノ  
判定ヲ任セルコトハ、稅法上面白クナイ  
ト言ハレマスガ、私共ト致シマシテハ、眞  
ニ事業擴張上必要ナモノデアルカ、ソレト  
モ脱稅ノ爲ニ増資ヲスルモノデアルカ、此  
區別ヲスルコトハ極メテ必要デアリマシ  
テ、眞ニ事業擴張ノ爲ニスル所ノ者ガ、資  
金ノ充實ヲ必要トシテ増資ヲ致シマスル場  
合ニ於テハ、其增加資本ニ對スル控除モ之  
ヲ七分ニセントスルノハ、不合理デアルト  
考ヘルノデアリマス、ノミナラズ近來ノ立  
法ハ、或ル程度マデ法ノ運用ヲ、法ヲ取扱  
フ者ニ任セテ居ルノデアリマシテ、此裁量  
ニ任スルコトニ依ツテ、現實ニ適應スルコ  
トニナシテ參ルノデアリマスルカラ、此點ハ私  
共ハ我黨ノ修正ガ是ナリト信ジテ疑ハザル  
ト云フコトヲ申サレマシタガ、總テ罰則其

大體ニ於キマシテ、擔稅力ニ重キヲ置イテ  
居ツテ、臨時利得稅ノ性質ニ對シテ御理解  
ナカ云々ト言ツテ居ラレマシタガ、ソレナ  
ス、又納稅者ノ立場ヨリモ、課稅者ノ立場  
ニナシテ物ヲ御考ニナルノデハナイカト考  
ヘルノデアリマス(拍手)又昨  
日デアリマシタカ、民政黨ノ方カラ是ハ脫  
稅ノ目的ナリヤ否ヤト云フコトガ分ラヌデ  
ハナイカト云フコトデ、特ニ判定ガ困難ダ  
ト云フヤウニ言ハレタノデアリマスガ、私  
共ハ是レ位ノ認定ガ出來ナイ司稅官デアル  
ナラバ、ドウシテ各種ノ脱稅ヲ防止若クハ  
發見スルコトガ出來ルカト反問セザルヲ得  
ナインデアリマス(拍手)老練ナ刑事ガ能ク  
犯罪ヲ發見スル如クニ、心アル司稅官ナラ  
バ是レ位ノコトヲ判定シ得ル所ノ十分ナル、  
俗ニ謂フ勘ト云フモノヲ持合セテ居ルコト  
ハ、是ハ私ガ申上ゲルマデモナイコト、存  
ズルノデアリマス(拍手)又中村君ハ屢々本  
稅ガ業態別デナク、又過去ニ於テ成績ヲ舉  
ゲテ儲ヶタ者程負擔ガ少クナリ、損ヲシタ  
利益ノ少カタ者程、本利得稅が餘計課ケラ  
レルノハ、洵ニ國民負擔ヲ不均衡ナラシム  
モノデ、本利得稅ノ癌デアルト云フコト  
ヲ申サレテ居ルノデアリマス、是ハ先刻私  
ガ申シマシタ如クニ、中村君ガ課稅者ノ立  
場ニ立タレルカラ、サウ云フコトニナルノ  
デアリマシテ、又臨時利得稅ノ性質ニ對シ  
ニ導ク外、何モノデモナイト考ヘルノデア  
ルコトハ、中位ノ商工業者ノ沒落過程

他ノコトハ、サウ云フ犯罪其他ノコトヲ豫  
想シテ出來テ居ルノデアリマシテ、斯ノ如  
クンバ總テノ罰則規定ハ作レヌヤウニナリ  
マスカラシテ、是ハ何カ中村君ノ誤解デア  
ラウト考ヘラレルノデアリマス(拍手)又昨

云フコトニナルノデアリマス、私共ハ此臨  
時利得稅ノ性質ニ鑑ミ  
(副議長退席 議長著席)  
即チ時局ニ依ル影響デ儲ヶタ者ニ課稅ヲス  
ルト云フノデアリマスカラ、其利益金ノ絶  
對額ガ多カラウガ少カラウガ、其時局ニ依  
ル利益ノ大小ニ依ツテ、課稅ノ大小差等ガア  
ルコトハ、是ハ當然デアルト考ヘルノデア  
リマス、又業態別ニシマスルコトハ、是ハ  
先列太田君ガ申サレマシタ通りニ、是ハ事  
業上殆ド不可能ヲ望ムモノデアリマス、左  
リマス、又業態別ニシマスルコトハ、是ハ  
スケレドモ、此種ノ癌ハ已ムヲ得ザル癌ト  
申ス外ハナイト存ズルノデアリマス(拍手)  
又國民同盟ニ於キマシテ御主張ニナシテ居  
ル所ノ累進稅率ト云フモノハ、是ハ洵ニ私  
共ニ理窟アルコトヲ認メマスガ、是モ矢張  
本稅ガ臨時ノモノデアルト云フ點ニ御著眼  
ガナカタカ、或ハ缺ヶテ居ルノデハナイカ  
ト思フノデアリマス、臨時利得稅ノ本質ニ  
鑑ミ、私共ハ左様ナル必要ガナインノミナラ  
ズ、就中國民同盟ノ案ニ依リマスルト、個  
人ノ場合ニ於キマシテ利益金一万圓以上ヲ  
得タ者ノ如キハ、一割二分ト云フ重稅ヲ課  
セラレルコトニナルノデアリマシテ、所得  
稅、營業收益稅ニ加フルニ、此重壓ヲ與ヘ



會、國民同盟、御同様甚ダ不鮮明ナルモノアリト考ヘテ居ルノデアル、大藏大臣ガ委員會ニ於テ何ト御答辯ニ相成ッタカト申シマスルナラバ、臨時利得稅ヲ設ケタ趣旨ハ、關係スル所カラ言ヘバ、ソレハ收入ヲ圖ル點モアルダラウ、又負擔ノ公平ニ關スル點モアルダラウ、ケレドモ是ハ一般歲入ノ不足ヲ補フト云フ眼前ノ目的カラ起ッタモノデハナイ、唯世ノ中ニ何トナク資本家トカ有產家對無產家ノ間ニ爭ヲ生ジテ來ルヤウナ風潮ガアッタ、ソコヘ持ッテ來ルヤウナ風潮ガアッタ、ソコヘ持ッテ軍需工業ガ獨リ目立ッタ儲ケラシテ居ル、ダカラ其營業ガ荒レナイヤウナ極ク輕イ稅ヲ設ケテ、一方ニ於テハ之ヲ羨シガツテ僻ンデ居ル人達ノ心ヲ、幾分カ之ニ依ッテ直ストモ出來ルダラウト云フ風ナ趣旨デシタ、モット突込ンダコトヲ言ヒタイノダガ、是ハ森田君ノ御質問ニ對スル御答デアリマスガ、前大藏大臣ノ言ハル、ノモ十分赤裸々ニ聽イテハ居ルガ、斯ウ云フ公開ノ席上デ申上グルベキ限リデハナイ、斯ウ言ッテ居ラレルノデアリマス、隨テ吾々ハ、大藏大臣ノ御言葉ニ依リマシテハ、政府ノ御提案ノ趣旨ガ奈邊ニアリヤ、甚ダ判斷ニ苦ムノデアリマス、是ハ收入ヲ目的ニシタノデモナケレバ、負擔ノ公平デモナケレバ、軍需工業ノ統制デモナクテ、唯美ンデ居ル人達ノ心持ラ和ゲルノデアリマス、即チ之ヲ政治的ナ

大所高所ノ達觀カラ出シタノダト云フコトニナルノデゴザイマスルガ、斯様ナコトニナリマシテハ本稅ヲ起ス理論的根據ハ、遺憾ナガラ曖昧模稜デアルト言ハザルヲ得ヌ足ヲ補フト云フ眼前ノ目的カラ起ッタモノデアリマス、隨ヒマシテ吾々ハ已ムヲ得ズ本稅ノ案ガ起サレタル當時ノ事情ヲ考ヘテ、本稅ガ何故ニ提案セラレタカヲ推斷セザルヲ得ナイノデゴザイマス、故藤井前藏相ガ信念ヲ以テ國難ニ當ラント云フ盡忠至誠ノ人格ニ至リマシテハ、天下之ヲ疑フ者ハゴザイマスマイ、併ナガラ若夫レ其政策ニ至リマシテハ、而モ其政策ガ今日吾々立法府ノ眼ノ前ニ現ハレテ居ル場合ニ於キマシテハ、勢ヒ吾々ハ矢張其考カラ解剖ラシテ置カナケレバナラナイト考ヘマス、本稅法ノ案ガ起サレマシタル當時ノ政府ノ財政政策ノ根幹ヲ指シテ、道途傳ヘテ之ヲ健全財政主義、或ハ公債漸減主義ト申シテ居リマス、固ヨリ財政ノ健全、公債ノ漸減ハ望マシイコトデアリマス、現下ノ非常時局ガ一トヲ端的ニ示シテ、軍部ニ一つノ壓力ヲ加ヘル必要ヲ考ヘラレテ居タト思フ、サウナリマスレバ、本稅ハ所謂藤井前大藏大臣ノ軍部ニ對シ、軍事費增加ニ對シマスル一ツノ警告トシテ、案ヲ起サレタモノデゴザイマシテ、軍部ニ對スル一ツノ「ジエスチユア」デアリ、一ツノ「デモンストレーション」デアルト解シ得ルノデアリマス、ダカラ其公ニ發表セラレマシタル理由ハ兔モ角ト致シマシテ、公債發行ノ限度ヲ示シ、豫算ニ於テ歲入

歲出ノ帳尻ヲ合シテ見セルト云フ建前ヲ執ト云フ景氣デハナイト吾々ハ考ヘテ居ル、其點ニ於テハ矢野君モ御同様デアラウト思ヒマス、デアリマスルカラ詰リ今ノ非常時局ガ自由主義ノ經濟ノオ爺サンガ車屋ヲヤツテ居ルノガ、是ガ參ッテ來ク、息子ガ自動車屋ヲヤツテ居テ、是ガ新シク家督ヲ取テ新シイ方法デ更生ヲヤルニ至ルト云フ其過程ノ經過デ、即チ自由經濟カラ社會的統制經濟ニ移ルト云フ過程デアルトスルナラヤ、藤井前藏相ガ本稅ヲ起サレマシタル一ツノ理由ハ、金融資本ニ對シマスル矢張一ツノ「ジエスチユア」デアツタト私共ハ考ヘル、御承知ノ通り當時所謂健全財政、或ハ公債漸減ト云フモノ、議論ノ背景ニ存シテ居リマシタノハ「マーケット・オペレーション」ニ依リ「リフレーション」ノ限度ガ來タト云フ議論デアリマス、是ハ固ヨリ金融資本家ノ間ニシメル總テノ方向ニ向ツテ行カナケレバナラナイノデアリマス、然ルニ軍事費ハ増大シ、公債ハ増加スル、放漫家計ヲ放任スレバ破産ニナル、斯ル見地カラ前藤井藏相ハ家計ヲ引締ムベシト考ヘ、軍事費ヲ引締メナケルヲ端的ニ示シテ、軍部ニ一つノ壓力ヲ加ヘル必要ヲ考ヘラレテ居タト思フ、サウナリマスレバ、本稅ハ所謂藤井前大藏大臣ノ軍部ニ對シ、軍事費增加ニ對シマスル一ツノ警告トシテ、案ヲ起サレタモノデゴザイマシテ、軍部ニ對スル一ツノ「ジエスチユア」デアリ、一ツノ「デモンストレーション」デアルト解シ得ルノデアリマス、ダカラ其公ニ發表セラレマシタル理由ハ兔モ角ト致シマシテ、公債發行ノ限度ヲ示シ、豫算ニ於テ歲入

歲出ノ帳尻ヲ合シテ見セルト云フ建前ヲ執ト云フ景氣デハナイト吾々ハ考ヘテ居ル、其點ニ於テハ矢野君モ御同様デアラウト思ヒマス、デアリマスルカラ詰リ今ノ非常時局ガ自由主義ノ經濟ノオ爺サンガ車屋ヲヤツテ居ルノガ、是ガ參ッテ來ク、息子ガ自動車屋ヲヤツテ居テ、是ガ新シク家督ヲ取テ新シイ方法デ更生ヲヤルニ至ルト云フ其過程ノ經過デ、即チ自由經濟カラ社會的統制經濟ニ移ルト云フ過程デアルトスルナラヤ、藤井前藏相ガ本稅ヲ起サレマシタル一ツノ理由ハ、金融資本ニ對シマスル矢張一ツノ「ジエスチユア」デアツタト私共ハ考ヘル、御承知ノ通り當時所謂健全財政、或ハ公債漸減ト云フモノ、議論ノ背景ニ存シテ居リマシタノハ「マーケット・オペレーション」ニ依リ「リフレーション」ノ限度ガ來タト云フ議論デアリマス、是ハ固ヨリ金融資本家ノ間ニシメル總テノ方向ニ向ツテ行カナケレバナラナイノデアリマス、然ルニ軍事費ハ増大シ、公債ハ増加スル、放漫家計ヲ放任スレバ破産ニナル、斯ル見地カラ前藤井藏相ハ家計ヲ引締ムベシト考ヘ、軍事費ヲ引締メナケルヲ端的ニ示シテ、軍部ニ一つノ壓力ヲ加ヘル必要ヲ考ヘラレテ居タト思フ、サウナリマスレバ、本稅ハ所謂藤井前大藏大臣ノ軍部ニ對シ、軍事費增加ニ對シマスル一ツノ警告トシテ、案ヲ起サレタモノデゴザイマシテ、軍部ニ對スル一ツノ「ジエスチユア」デアリ、一ツノ「デモンストレーション」デアルト解シ得ルノデアリマス、ダカラ其公ニ發表セラレマシタル理由ハ兔モ角ト致シマシテ、公債發行ノ限度ヲ示シ、豫算ニ於テ歲入

チ國民經濟ノ上ニ於キマシテ、國家ノ財政政策及財政ノ機能ガ占メテ居リマシタル地位ガ、一段ト躍進ヲシタコトデアリマス、之ヲ裏カラ申シマスルナラバ、金融資本ガ國民經濟ニ於テ自由主義時代ニ占メテ居リマシタル王座カラニリ落チマシテ、其獨裁權力ヲ國家ニ譲ラナケレバナラナクナックコトヲ意味スルノデアリマス、金融資本ガ昔ノ地位ニ還ルコトヲ欲シテ居ルコトハ言フマデモナイ、ソコニ復歸スルコトハ「リフレーション」ノ限度論ヲ通ジ、健全財政及公債漸減主義ヲ通ジテ、昔其支配下ニ在ツク銀行ノ貸付資本、國民貯蓄高ト云フモノヲ、再ビ其金融獨裁權ノ下ニ置クト云フ希望ガ出ルノハ當然デアリマス、ソコニ藤井サンノ御政策ト、金融資本ノ考方トノ一致ヲ發見スルノデゴザイマス、固ヨリ本稅ハ金融資本ガ持ツテ居リマス、或ハ銀行保險工業有價證券ノ値下リヲ通ジマシテ、金融資本ニモ損害ガ來ルコトハ是ハ分ルコトデアリマスルガ、金融資本ニ對シテ、產業資本バカリ儲ケサシテ置クノデヤナイ、跛行景氣ヲ平準化シ、廳テハ自由主義經濟ニ戻ルノデアルゾト云フ身構ヲ示スコトニ於テハ、是ハ金融資本ニ對シテハ非常ニ有力ナル「ゼスチニア」デアリ「デモンストレーション」デアル思ヒマス、此點ヲ森田君ガ委員會及

本議場ニ於テ、十分糺明セラレタノデアルト思フノデアリマス、併ナガラ高橋サンハ衆ノ意ヲ迎ヘ、此三ツノ「ゼスチュア」ノ間カラ本稅が生レテ來タノデゴザイマスルカラ、軍部ト金融資本ト大衆ノ意ヲ迎ヘルト云フ「デモンストレーション」或ハ「ゼスチュア」ソコカラ發展ヲシテ參リマシタル限リニ於テ、本稅ハ固ヨリ收入ヲ目的トシ、景氣平準化ノ意圖ヲ有チ、大衆ニ對スル一ノ氣構ヲ示シタモノト言ヒ得ルノデアリマス、隨ヒマシテ高橋大藏大臣ガ現内閣ノ當初ヨリ御入閣デゴザイマシタナラバ、恐ラク本稅法ハ吾々ノ前ニ現レテ來ナカッタト想像致サレマス、景氣ノ平準化モ結構デアリマスガ、恐ラク高橋サンノ御考ニ從フナラバ、其增益ニ課稅ヲ致シマシテ、一ノ社會的正義感ヲ見タル產業ガ存在スルコト、第二ハ軍需工業モ何モ惡イ事ヲシテ儲ケテ居ルノデハナイ、特ニ之ニ課稅スルト云フコトモシナイデ宜イコトデハナイカ、公債ノ發行ノ限度モ、サウハッキリ決ッテ居ルモノデナクシテ、何モ銀行バカリ見ナクテモ、睡眠シテ居ル國民貯蓄ト云フモノモアルノダト評言致シマスレバ、本稅法ハ藤井サンノ金

融資本的自由主義ノ鬼子ヲ、高橋サンノ事業資本的自由主義ノ御家庭ニ、御養子ニ相成ッタ所ノモノト考ヘルノデアリマス、デアスチニア」デアリ「デモンストレーション」成ッタ所ノモノト考ヘルノデアリマス、デアスチニア」デアリ「デモンストレーション」淘ニ好イオ爺様デアラセラレマスルカラ（笑聲）此御養子ヲ、世間體ハ成程養子デハアルガ、實子デアルト、溫情主義デ示サウトシテ居ラレマスガ故ニ、茲ニ社會的正義上カラ人ノ僻ミヲ直スト云フ一ノ社會的政治考慮ト、斯ウ云フ風ニ理由付ケラレテ居ラレルノデアラウト、吾々ハ考ヘルノデアリマス、斯ウ考ヘマスルト、大體本稅ニ對シマスル政府ノ建前ト云フモノハ、先づ明瞭ニ相成リマス、第一ハ時局ノ影響ニ依ツテ増益ヲ見タル產業ガ存在スルコト、第二ハ雲フコトデアリマス、第三ハ矢張歲入豫算上相當有力ナル收入トシテ御考ニナッテト云フコトデアリマス、私共ハ固ヨリ現居ラッシャルト思ヒマス、私共ハ固ヨリ現ノ一歩デハナイ、半歩デモアリマセヌガ、ソッチノ方へ向イタト云フダケノ誠意ノ片鱗ヲ認メルコトが出來ルノデアリマス、ソコデ吾々ハ大體其建前ヲ一ツ建前トシテ、ノ一歩デハナイ、半歩デモアリマセヌガ、ソチノ方へ向イタト云フダケノ誠意ノ片鱗ヲ認メルコトが出來ルノデアリマス、ソコデ吾々ハ大體臨時のナ增益ノ課稅、社會的正義感ニ依ル課稅、資本家ヘノ課稅、斯ウ云時局ニ因ル臨時のナ增益ノ課稅、社會的正義感ニ依ル課稅、資本家ヘノ課稅、斯ウ云ノ課稅ノ建前カラ考ヘテ參リマスルナラバ、斯ウ云フ際ニハ、ハッキリト一ツノ行キ方ガアルト思ヒマス、一ツハ資本ノ元本ニ對シ、元本ニ手ヲ著ケテ、國家ノ統制ヲ行フ所ノ方法デゴザイマシテ、換言致シマス、國家資本ノ產業的總動員計畫デアリマス、國民所得ヲ完全ニ根本的ニ把握致シマシテ、其上ニ新シイ觀方ヲ以テ一般的ノ稅制整理ヲ行フコトデゴザイマスガ、併シは金利政策、公債政策、景氣政策ト一ツノ脈絡ヲ持チ、世界景氣ニ對スル確乎タ

ル見透シノ上ニ行ハレナケレバナラナイコトハ勿論デアリマス、其方法ト致シマシテ、元本ノ價值ヲ下ゲル方法モソレハゴザイマセウ、併シ是ハ低金利政策ノ一層ノ徹底ヲ必要ト致シマセウ、又一方ニハ財產稅、相續稅、物納等ヲ通ジテ、元本ノ一部ノ國家歸屬ヲ促進致シマスル方法モゴザイマセウ、是ハ併ナガラ圓滑ナル遂行ヲ期シマスル爲ニハ、產業ノ經營ニ對スル統制ガ必要デアリ、同時ニ賠償ヲ致サナケレバナリマセヌ、即チ公債ノ發行、公債政策ヲ伴ツテ參ラナケレバナリマセヌ、例ヘバ軍需工業ヲ國營ニ致シマスレバ、公債ヲ交付スル、サウスルト生產貨財トシテ共利潤カラ又資本ヲ捨出シ得テ居リマシタ者ニ對シテ、公債ヲ交付シテ金利生活者ト致スノデアリマスガ故ニ、強制的ニ生產貨財ヲ消費貨財ト取替ヘルノデアリマスカラ、是ハ各般ノ大改革ヲ必要トルモノニアリマス、ソコデ是等ハ現下ノ情勢ニ於テハ行ハレナイ、又行フコトヲ必要トル情勢ニモ參ッテ居リマセヌ、斯ウ云フコトニナリマスレバ、ル方法ニ依ラズシテ、殘サレタル問題ハ、臨時のナモノニ對シテ繫ギトシテ、アッサリト課ケテ行ク、斯ウ云フ方法ヲ執ツテ行クコサリ賛成シ給ヘ」ト呼フ者アリ、笑聲臨時

的ニ、繫ギトシテ、アッサリ課ケテ行クコト

ニナリマスレバ、茲ニ臨時利得稅創設ノ意義ガ初メテ活キテ來ルノデアリマス

併ナガラ此建前ニ於キマシテ私ハ決シテ此稅種ヲ——臨時利得稅ヲ決シテ良イ稅ト

ハ思ツテ居ラヌノデアリマス、寧ロ賣上稅、或ハ取引高稅ト云フ行キ方ノ方ガ適當デ

ナイカト思ハレルノデアリマス、是ハ松村君ノ御議論ニモアツクノデアリマスガ、本稅ニ於テハ人納ト紡績ト負擔ガ公平ニナラヌ、事實其通リデアリマス、是ハ稅率ヲ如何ニシテモ中々困難ナ事デアルノデアリマシテ、寧ロ取引高稅ニ依リマシテ其公平ノ目的ヲ達シ得ルト思フノデアリマス、一企業體ニ統一サレマシタ利益ニ課ケルノデハナイ、簡々ノ經濟行爲ニ課ケテ行ク、サウスルト人絹ト紡績方明ニ區別サレルバカリデナガ、工場生產費價ガ一圓デ、賣價ガ十圓、一般ノ商品ハ五圓デ十圓、其簡々ノ利益ニ對シテ、別ニ別箇ニ課ケテ行カレルノデアリマスガ故ニ、寧ロ斯ル稅ノ方ガ適當デアルト思ヒマスケレドモ、政府方免ニ角臨時利得稅デ行クトスルナラバ、ソレヲ大體吾吾ノ考ヘテ居リマス取引高稅ノヤウニ、臨時ノモノ、繫ギトシテ、アッサリ課ケテ行クト云フ建前ナラバ——此三ツノ原則ガ出テ來ルト思フノデアリマス、即チ本稅ノ如キトシテ臨時ノモノニアッサリ課ケテ行クト云フ建前ナラバ——此三ツノ原則ガ出テ來ル所ノ資本ノ根據乃至源泉力マデ立入ルベキ性質ノモノデハナイト思フ、此處ガ太性質ノ稅ニ於キマシテハ、利潤ト、其因テト、私共ハ考ヘルノデアリマス

更ニ又政友會ノ御修正ノ案ハ、大體二百五十万圓ノ減收ヲ來ス結果ニナルノデゴザイマス、而シテ政府ハ三千三百万圓見當ノ收入ヲ見テ居ラレマス、只今迄ノ御議論ニ

ハアリマセヌ、サウ云フコトニ致シマスレバ、茲ニ此稅ハドウ云フ性質ヲ持ツタラ宜

イカト云フコトニナリマス、即チ其稅率ガ

極メテ單純デアツテ、却テ比例稅ノ方ガ宜イ

ト云フコトガ一ツ、ソレカラ此稅ソレ自體ノ内部ニ於テハ、外形ヲ標準トシテ居リマス結果、ソレハ政友會デ仰ツシヤルヤウニ、

必シモ不公平ナキヲ期シ難イノデアリマス

ガ、併ナガラ其不公平ハ寧ロ——先程小笠原君ガ、私ガ超過所得ダケヲ申上ゲマシタ

カラ、ソレグケデ個人ト法人ガ釣合フヤウニ御考ニナリマシタノハ、此方ノ言葉ガ足

リナカツクノデアリマス——寧ロ營業収益

建前デ、累進的綜合課稅ヲ行フコトニ公平

ノ主點ヲ置クコト、ソレカラ斯ル新稅ガ起

トシテ臨時ノモノニアッサリ課ケテ行ク

ト云フ建前ナラバ——此三ツノ原則ガ出テ

來ルト思フノデアリマス、即チ本稅ノ如キ

ト云フ建前ナラバ——此三ツノ原則ガ出テ

來ル所ノ資本ノ根據乃至源泉力マデ立入ル

ベキ性質ノモノデハナイト思フ、此處ガ太

田サン、小笠原サント、私ノ此稅ニ對スル

收入ヲ見テ居ラレマス、只今迄ノ御議論ニ

對シテ私ハ多少違フ見方ヲ有ツテ居リマス、



却テ全面的ナ景氣回復ヲ阻害スル狀態ニナルノデハナイカ、斯様ナ狀態カラ考ヘテ來ルナラバ、臨時利得稅ノ如キハ大ナル成績ヲ擧ガ得ナイノデハナイカト考ヘルノデアリマス、政友會ノ中デ、法人ノ一千圓ヲ取ッテシマフ、個人ノ一萬圓以上ハ二千圓ヲ取ッテシマフ、斯ウ云フ修正案ガ御有リニナックカト伺フノデアリマスルガ、不幸ニシテ本議場デ伺フコトガ出來ナイノハ甚ダ遺憾デアリマス、斯ル修正案ガ出テ參リマシタナラバ、此點ニ於テハ吾々ハ固ヨリ驟尾ニ附シタイト考ヘて居ル次第デアリマス、遺憾ナガラ左様ナ修正案ガ出テ參リマセヌデ、而シテ出テ參リマシタル修正案ノ要點ハ、御承知ノ通リ第一ガ基準年度ト、第二ガ個人ト法人ノ區別ト——(發言スル者多シ)簡單ニ申シマスカラ暫ク御清聽ヲ願ヒマス、モウ長イコトハアリマセヌ——法人ト個人ノ區別ト、サウシテ第三ニ增減資ノ調節其ノ問題ニナツテ來テ居ルノデアリマス概括ニ申上げマスレバ、先程モ申上げマシタ如ク、増差額其モノニ擔稅力ヲ認メルノデ、隨テ單純ナル比例稅タルベキコト、負擔ノ公平ハ他ノ租稅等トノ一體的、統一的見地デ圖ルベキモノナルコト、本稅ノ如キ稅デハ、其源泉力ニマデ遡ルベキモノデハナイコト、サウシテトヲ收入ト云フコトニ付テハ、憂ナキコトヲ建前トスルコト、斯ウ云フヤウナ建前

テシマフ、個人ノ一萬圓以上ハ二千圓ヲ取ッテシマフ、斯ウ云フ修正案ガ御有リニナックカト伺フノデアリマスルガ、不幸ニシテ本議場デ伺フコトガ出來ナイノハ甚ダ遺憾デアリマス、斯ル修正案ガ出テ參リマシタナラバ、此點ニ於テハ吾々ハ固ヨリ驟尾ニ附シタイト考ヘて居ル次第デアリマス、遺憾ナガラ左様ナ修正案ガ出テ參リマセヌデ、而シテ出テ參リマシタル修正案ノ要點ハ、御承知ノ通リ第一ガ基準年度ト、第二ガ個人ト法人ノ區別ト——(發言スル者多シ)簡單ニ申シマスカラ暫ク御清聽ヲ願ヒマス、モウ長イコトハアリマセヌ——法人ト個人ノ區別ト、サウシテ第三ニ增減資ノ調節其ノ問題ニナツテ來テ居ルノデアリマス概括ニ申上げマスレバ、先程モ申上げマシタ如ク、増差額其モノニ担稅力ヲ認メルノデ、隨テ單純ナル比例稅タルベキコト、負擔ノ公平ハ他ノ租稅等トノ一體的、統一的見地デ圖ルベキモノナルコト、本稅ノ如キ稅デハ、其源泉力ニマデ遡ルベキモノデハナイコト、サウシテトヲ收入ト云フコトニ付テハ、憂ナキコトヲ建前トスルコト、斯ウ云フヤウナ建前

政友會ノ修正案ノ第一ノ基準年度ヲ四、五、六年ノ三年ニナサイマスニ付キマシテハ、不景氣ガ襲來シタノハ昭和四年下半期カラデアル、ソコデ昭和四年下半期ヲ取入レタイノデアルガ、課稅技術上困難デアルカラ、四年ノ上半期ヲ入レテ、四、五、六ノ三年ヲ以テ基準年度トスルヤノ御意見デアツクノデアリマス、然ルニ四年ヲ入レルコトニナリマスト、實際的ノ效果ハ何デアルカト申シマスルト、

一方ニ於テ百二三十万圓ノ減收トナリマスコトノ外ハ何モナイ、即チ四年ニ於テ高配當ヲ致シマシタル會社ガ本稅カラ免レルト云フノガ實際上ノ效果デアリマス、四年ニ七分以下ノ配當ヲ致シマシタルモノニ付テハ、理論的ニハ「マージン」ガ狹クナルダケナノデアリマス、ソコデ先程モ太田サンガ、元來「ランプ」ノ底ヲ見ルノハイカラノデアリマス、ソコデ先程モ太田サンガ、元來「ランプ」ノ底ヲ見ルノハイカラス、斯ウ云フ立場ニ立ツテ居ラレルヤウデゴザイマスガ、其理由トシテ昨日拜承致シ場合ニ於テハ之ヲ緩和スル規定ガアルガ、個人ハ自己資本デ生産設備ヲ擴大シ、自己勘定ノ總量ヲ增加シタモノニ對シテハ緩和ノ規定ガナイ、ソレカラ第二ニハ、個人ニ付テハ勤勞所得ノ分子ガ多イ、第三ニハ、個人ニハ法人ニ比シテ他ノ稅法上ノ控除サレル所ガ少イカラ、本稅ニ於テ公平上稅率體其處ニ緩和規定ヲ採ツテ居ルノデハナイカト考ヘラレル、即チ七分ヲ八分ニナサイマスノナラバ、是ハ又別ノ御議論デゴザイ

カラ、概括的ニ申上ゲマスレバ、政友會及國民同盟ノ修正案ニ付キマシテハ、稅ノ性質ノ考方カラ、遺憾ナガラ贊意ヲ表シ得ナイノデアリマス

政友會ノ修正案ノ第一ノ基準年度ヲ四、五、六年ノ三年ニナサイマスニ付キマシテハ、不景氣ガ襲來シタノハ昭和四年下半期カラデアル、ソコデ昭和四年下半期ヲ取入レタイノデアルガ、課稅技術上困難デアルカラ、四年ノ上半期ヲ入レテ、四、五、六ノ三年ヲ以テ基準年度トスルヤノ御意見デアツクノデアリマス、然ルニ四年ヲ入レルコトニナリマスト、實際的ノ效果ハ何デアルカト申シマスルト、ト思フノデアリマス

第二ニ法人ト個人ノ稅率ヲ別ニナサイマシテ、個人ヲ七分五厘トナサイマシタ事デゴザイマスガ、其理由トシテ昨日拜承致シマシタル限リニ於キマシテハ、法人ハ增資ノ場合ニ於テハ之ヲ緩和スル規定ガアルガ、個人ハ自己資本デ生産設備ヲ擴大シ、自己勘定ノ總量ヲ增加シタモノニ對シテハ緩和スル場合ニ於キマシテハ、之ヲ完全ニ致シマスル爲ニハ、租稅體系ノ全體カラ掛ツテレマスル場合ニ於キマシテハ、之ヲ完全ニ致シマスル爲ニハ、租稅體系ノ全體カラ掛ツテ行カナケレバナラナイコトニナルノデアリマシテ、之ヲ本稅ノミニ於テ、本稅ノ内部ニ於テ調節ヲ求メルコトハ、却テ他日根本的ニ稅制改革ヲ行フ時ニ、公平上ノ支障ヲ來ス虞ガアルノデハナイカトモ考ヘルノデアリマス

大體前段ニ申述ベマシタル如ク、本稅ハ體其處ニ緩和規定ヲ採ツテ居ルノデハナイカト考ヘラレル、即チ七分ヲ八分ニナサイマスノナラバ、是ハ又別ノ御議論トシテハ、淘ニ一面ヲ低クスルノダト云フ風ナ御議論ニ拜承致シマシタ、是ハ公平論トシテハ、淘ニ一面ノ本タル資本、即チ其源泉力マデ遡ツテ

公正ヲ求メルト云フコトハ、永久的ニ課ケラルベキ營業収益稅、所得稅ニ於テモ求ムベキコトデアリマス、即チ本稅ガ財產稅ノ如ク永久的ニ課ケラルノナラバ稅率ニ於テ、或ハ綜合累進ノ主義ニ適ヒ、法人個人ノ區別ヲ設ケラル、ノハ、是ハ至當ナコトデアリマス、併ナガラ臨時ノ臨時ノモノデアルナラバ、増差益其モノヲ擔稅力ト見テ行クナラバ、增差額ガ同ジデアルト云フコトハ、擔稅力ガ同ジト見ルト云フノガ、臨時稅法ノ建前デアリマス、其増益ヲ全體ノ中ニ打込ンデ、全體トシテ考ヘテ行ク建前デハナイノデアリマス、政友會モ本稅ヲ以テ三年ト御限定ニ相成ッテ居リマスル限リニ於テハ、臨時ノモノト御考ニナツテ居ラセラレルコト、考ヘマス、サスレバ本稅ハ臨時的ナモノニ繫ギトシテ、アツサリ課ケテ行ク性質ノモノト見テ居ラレルモノト拜察スルノデアリマス、サウスコトガ、却テ本稅ノ性質ニ反スルノデハナルト却テ茲ニ個人法人ノ區別ヲ設ケマスルコトガ、却テ本稅ノ性質ニ反スルノデハナリカト考ヘルノデアリマス

第三ハ増減資ノ問題デアリマスルガ、是ハ方法論トシテ勅令要綱デ、先ヅ時間ヲ決メテ、サウシテ時期ノ前後ニ瓦リ合併ヲ御取扱ニナルト云フコトニナルノデアリマスルガ、申ス迄モナク大藏省ニ於テ地方銀行ノ合同ハ其當否——善イカ悪イカ知リマセ

ヌガ、獎勵シテ居ラレル、商工省ニ於テハ弱小產業ヲ鞏固ナル基礎ノ上ニ置クト云フ建前デアルト拜察シテ居リマスルガ、合同政策ノ當否ハ別トシテ、斯ウ云フ合同ヲヤツテ居ラレル今日ノ場合ニ於テ、茲ニ時期ヲ決メルト云フト、斯ル合同會社ガ本稅ノ前ニ現レテ來ル限リニ於テ、意味ナク二様ノ取扱ヲ受ケルコトニナリハシナイカト思フノデアリマス、サウシテ時期ヲ決メテ、是カラ後ハドレガ脫稅デ、ドレガ脫稅デナイ、斯ウ睨ンデ參リマスルコトニナリマス、例へバ同族會社ガ現物出資ヲシ、或ハ自動車會社ガ權利ヲ出資トシテ居ルヤウナ場合ニ於テ、稅務當局ハソレガ架空ノモノデアルナラバ、之ヲ拂込トシテハ否認スルコトガ出來ルノデゴザイマセウガ、定期預金ヲ振込ンデ、一つノ信託ノ形式ニシテ増資ヲ致シマシタル場合ニ於テハ、是ハ中村君ノ仰シヤイマシタヤウニ、中々判定ガ困難デハガ足リナ、サウシテ更ニ此稅務署ノ管轄多ク見タ所デ千百十五人、少ク見テ八百七十九人位デアリ、稅務官吏トシテハ中々ト云フモノガ豫算ニ上ツテ居リマスルガ、第ニマダ人數ガ——稅務官吏一人ノ負擔ガ多ク見タ所デ千百十五人、少ク見テ八百七十人位デアリ、稅務官吏トシテハ中々ト云フモノガ豫算ニ上ツテ居リマスルガ、第一ニ件ヒマスル新公債政策ト、ソレニ併行シテ兵農兩全デナイ、一つノ兵農一致ノ範圍ガ、例ヘバ湯河原ト湯河原ノ對岸ガ沼津ト小田原ノ稅務署ニ分レテ居ル如ク、根柢置イテナイノデアリマス、斯ウ云フヤシテ居ラヌト云フコトヲ難詰セラレタガ如ク、或ハ決算委員會デ昭和七年上半期ノ決

ヌガ、獎勵シテ居ラレル、商工省ニ於テハ弱小產業ヲ鞏固ナル基礎ノ上ニ置クト云フ建前デアルト拜察シテ居リマスルガ、合同政策ノ當否ハ別トシテ、斯ル合同ヲヤツテ居ラレル今日ノ場合ニ於テ、茲ニ時期ヲ決メルト云フト、斯ル合同會社ガ本稅ノ前ニ現レテ來ル限リニ於テ、意味ナク二様ノ取扱ヲ受ケルコトデ、罰則ノ適用ハナカツタ、斯ウ云フコトカラ考ヘマスルト、脱稅ト云フコトガ分ッテモ、大資本大會社ニ對シマシテハ、國家權力ノ發動ガ弱イコトガ有リ得ルト云フコトヲ吾々ハ考ヘザルヲノデアリマス、サウシテ時期ヲ決メテ、是カラ後ハドレガ脫稅デ、ドレガ脫稅デナイ、得ナイノデアリマス、況ヤ今日ノ稅務機構ト云フモノガ、親切ニ査定ヲ行フ程ニ大キナル機構ニナツテハ居リマセヌ、今日徵稅費ト云フモノガ豫算ニ上ツテ居リマスルガ、第ニマダ人數ガ——稅務官吏一人ノ負擔ガ多ク見タ所デ千百十五人、少ク見テ八百七十人位デアリ、稅務官吏トシテハ中々ト云フモノガ豫算ニ上ツテ居リマスルガ、第一ニ件ヒマスル新公債政策ト、ソレニ併行シテ兵農兩全デナイ、一つノ兵農一致ノ範圍ガ、例ヘバ湯河原ト湯河原ノ對岸ガ沼津ト小田原ノ稅務署ニ分レテ居ル如ク、根柢置イテナイノデアリマス、斯ウ云フヤシテ居ラヌト云フコトヲ難詰セラレタガ如ク、或ハ決算委員會デ昭和七年上半期ノ決

算ニ於テ、永代橋稅務署管内三井銀行本店ガ弗買利益一千万圓餘ノ祕密留保ヲシテ、所稅ガ財產稅ノ如ク永久的ニ課ケラルノナラバ稅率ニ於テ、或ハ綜合累進ノ主義ニ適ヒ、法人個人ノ區別ヲ設ケラル、ノハ、是ハ至當ナコトデアリマス、併ナガラ臨時ノ臨時ノモノデアルナラバ、増差益其モノヲ擔稅力ト見テ行クナラバ、增差額ガ同ジデアルト云フコトハ、擔稅力ガ同ジト見ルト云フノガ、臨時稅法ノ建前デアリマス、其増益ヲ全體ノ中ニ打込ンデ、全體トシテ考ヘテ行ク建前デハナイノデアリマス、政友會モ本稅ヲ以テ三年ト御限定ニ相成ッテ居リマスル限リニ於テハ、臨時ノモノト御考ニナツテ居ラセラレルコト、考ヘマス、サスレバ本稅ハ臨時的ナモノニ繫ギトシテ、アツサリ課ケテ行ク性質ノモノト見テ居ラレルモノト拜察スルノデアリマス、サウスコトガ、却テ本稅ノ性質ニ反スルノデハナルト却テ茲ニ個人法人ノ區別ヲ設ケマスルコトガ、却テ本稅ノ性質ニ反スルノデハナリカト考ヘルノデアリマス

○議長(濱田國松君) 是ニテ討論ハ終局致

各々ハ異存ハゴザイマセヌ、後段ニ關シマシテハ私共ハ此財政調整交付金ノ重大ナルコトハ十分知ヅテ居ルノミナラズ、此財政調弱小產業ヲ鞏固ナル基礎ノ上ニ置クト云フ建前デアルト拜察シテ居リマスルガ、合同政策ノ當否ハ別トシテ、斯ル合同ヲヤツテ居ラレル今日ノ場合ニ於テ、茲ニ時期ヲ決メルト云フト、斯ル合同會社ガ本稅ノ前ニ現レテ來ル限リニ於テ、意味ナク二様ノ取扱ヲ受ケルコトニナリハシナイカト思フノデアリマス、サウシテ時期ヲ決メテ、是カラ後ハドレガ脫稅デ、ドレガ脫稅デナイ、得ナイノデアリマス、況ヤ今日ノ稅務機構ト云フモノガ豫算ニ上ツテ居リマスルガ、第一ニ件ヒマスル新公債政策ト、ソレニ併行シテ兵農兩全デナイ、一つノ兵農一致ノ範圍ガ、例ヘバ湯河原ト湯河原ノ對岸ガ沼津ト小田原ノ稅務署ニ分レテ居ル如ク、根柢置イテナイノデアリマス、斯ウ云フヤシテ居ラヌト云フコトヲ難詰セラレタガ如ク、或ハ決算委員會デ昭和七年上半期ノ決

〔國務大臣岡田啓介君登壇〕

○國務大臣(岡田啓介君) 臨時利得稅法案

ニ對スル修正案ハ、歲入ニ減少ヲ來スノミ  
ナラズ、其修正條項ノ内容ニ付テモ首肯シ

難イ點ガアリマスノデ、政府ハ遺憾ナガラ  
本修正案ニハ御同意致シ兼ネマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 採決ニ入リマス、採  
決ニ先チ其順序ニ付キ一言致シマス、先ヅ

野田文一郎君外五名提出ノ修正案ニ付採  
決シ、次ニ委員長報告ノ修正部分ヲ採決致

シマス、最後ニ原案中委員長報告ノ修正ヲ  
除キタル其他ノ部分ニ付採決ヲ致シマ  
ス——是ヨリ採決ニ入リマス、野田文一郎

君外五名提出ノ修正案ニ賛成ノ諸君ノ起立  
ヲ求メマス

(賛成者起立)

○議長(濱田國松君) 起立少數、仍テ修正  
案ハ否決サレマシタ、次ニ本案ノ委員長報  
告ノ修正ニ付採決ヲ致シマス、委員長報  
告ノ修正ニ付採決ヲ致シマス、委員長報

○青木雷三郎君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ  
開カレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○青木雷三郎君 残餘ノ日程ヲ延期シ、本  
日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス  
○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議  
事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ

是ニテ散會致シマス

午後七時十一分散會

衆議院議事速記録第二十五號

中正誤

頁段行誤 正

|     |     |       |       |
|-----|-----|-------|-------|
| 五三四 | 三二一 | 參ツタノデ | 參ツタノデ |
| 五三五 | 四一二 | 希望    | 希望    |
| 五三八 | 四二七 | 出シタノデ | 出シタノデ |
| 五四三 | 四二九 | 本法業   | 本法業   |